

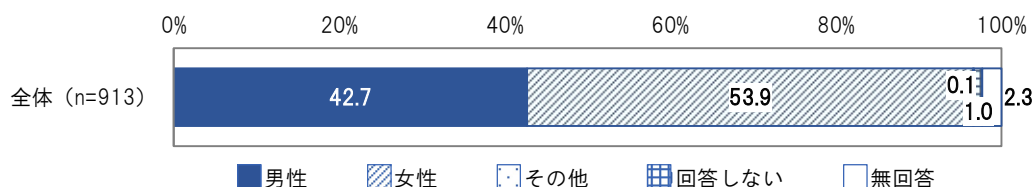
II 成人アンケート調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別

問 性別をお答えください。(〇は1つだけ)

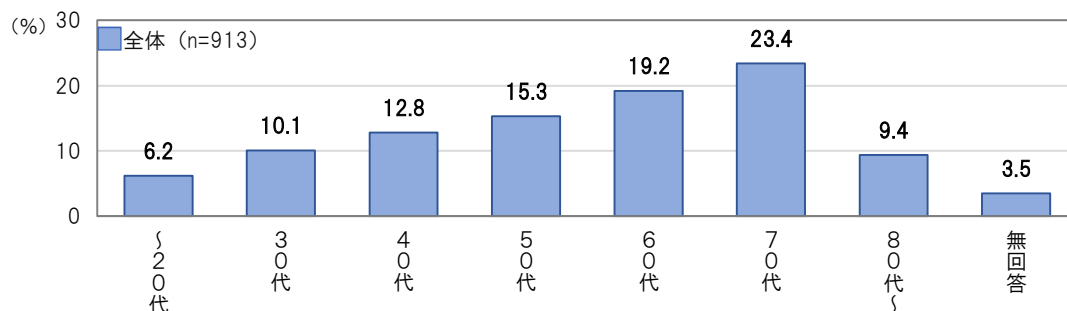
- 性別は、「男性」が42.7%、「女性」が53.9%となっている。



(2) 年齢

問 2022年(令和4年)11月1日時点の年齢は何歳ですか。

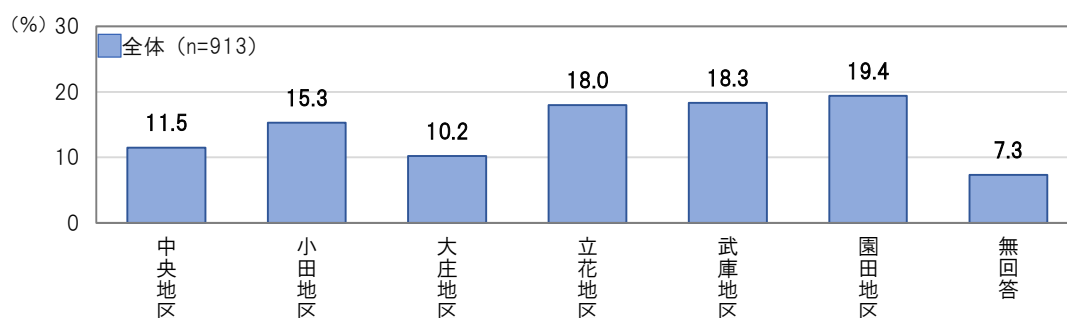
- 年齢は、「70代」が23.4%と最も高く、次いで「60代」(19.2%)、「50代」(15.3%)の順となっている。
- 『60歳以上』が半数以上を占めている。



(3) 居住地区

問 お住まいの地域の郵便番号を教えてください。分からない場合は、町名をご記入ください。

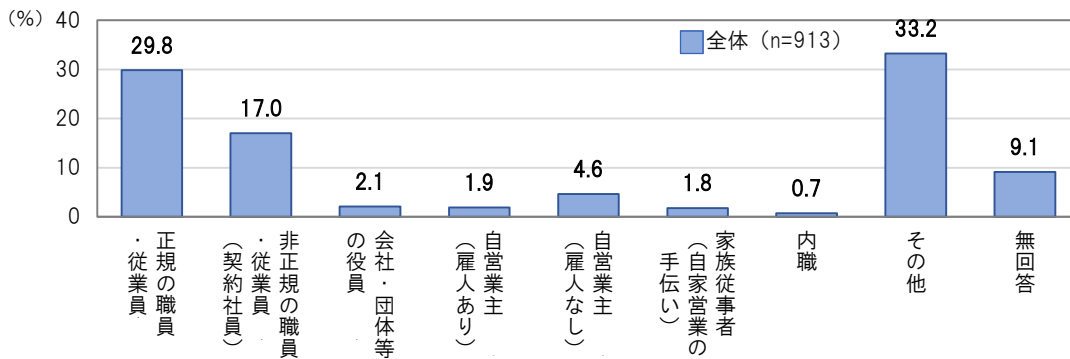
- 居住地区は、「園田地区」が19.4%と最も高く、次いで「武庫地区」(18.3%)、「立花地区」(18.0%)、「小田地区」(15.3%)の順となっている。



(4) 職業

問 お仕事についてお答えください。(○は1つだけ)

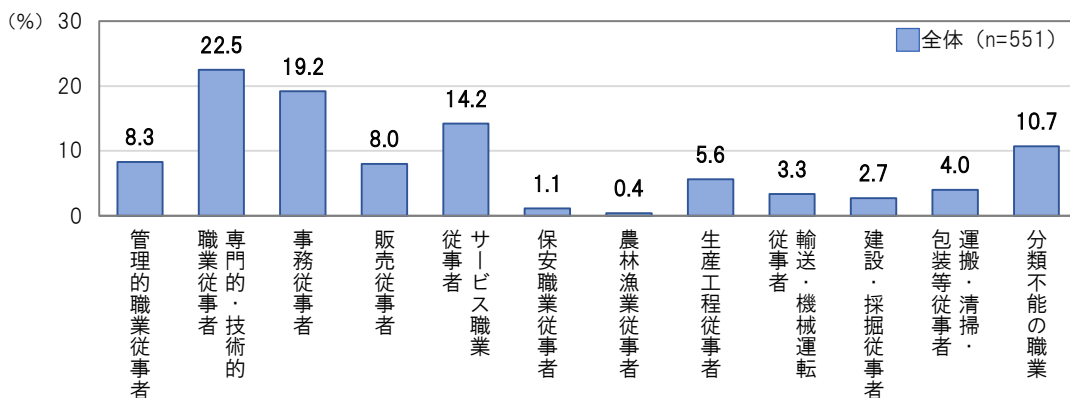
・職業は、「正規の職員・従業員」が29.8%と高く、次いで「非正規の職員・従業員（契約社員）」（17.0%）の順となっている。



(5) 仕事内容 (職業分類) ※無回答を除いて集計

問 お仕事内容 (職業分類) についてお答えください。(○は1つだけ)

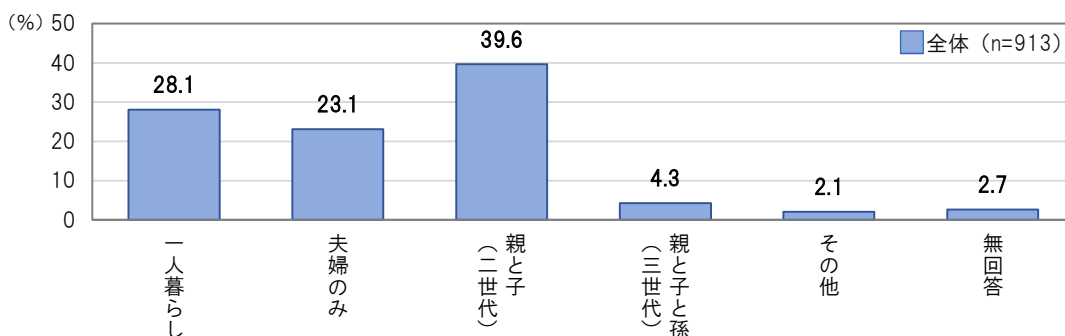
・仕事内容 (職業分類) は、「専門的・技術的職業従事者」が22.5%と最も高く、次いで「事務従事者」(19.2%)、「サービス職業従事者」(14.2%)の順となっている。



(6) 世帯構成

問 世帯構成をおたずねします。(○は1つだけ)

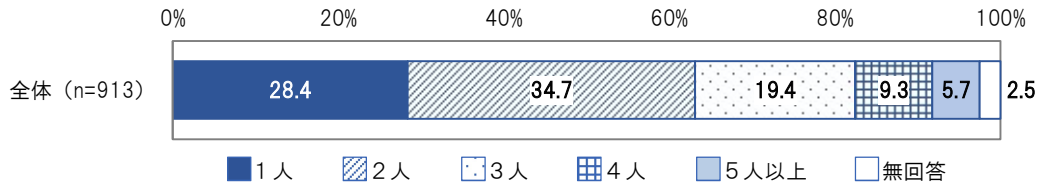
・世帯構成は、「親と子 (二世帯)」が39.6%と約4割を占めて最も高く、次いで「一人暮らし」(28.1%)、「夫婦のみ」(23.1%)の順となっている。



(7) 世帯人数

問 あなたの世帯人数を（あなたも含めて）お答えください。

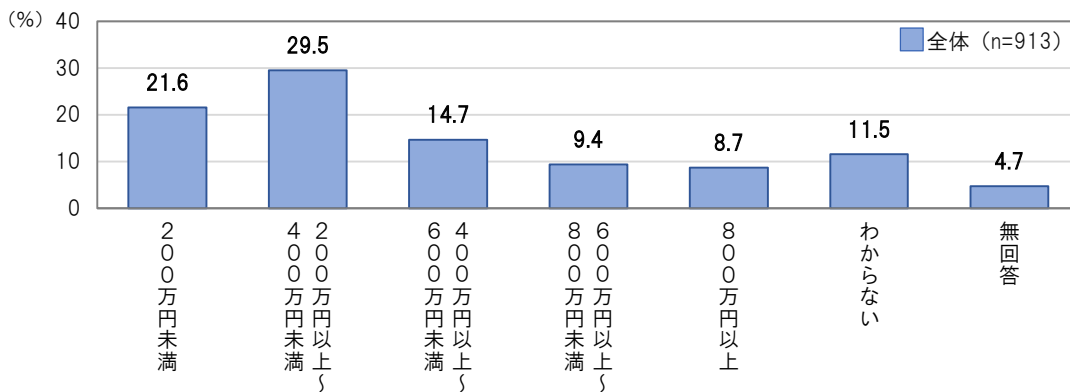
- 世帯人数は、「2人」が34.7%と3割を超えて最も高く、次いで「1人」(28.4%)、「3人」(19.4%)の順となっている。



(8) 世帯全体の年間収入

問 あなたの世帯全体の年間収入は、どれに当てはまりますか。（○は1つだけ）

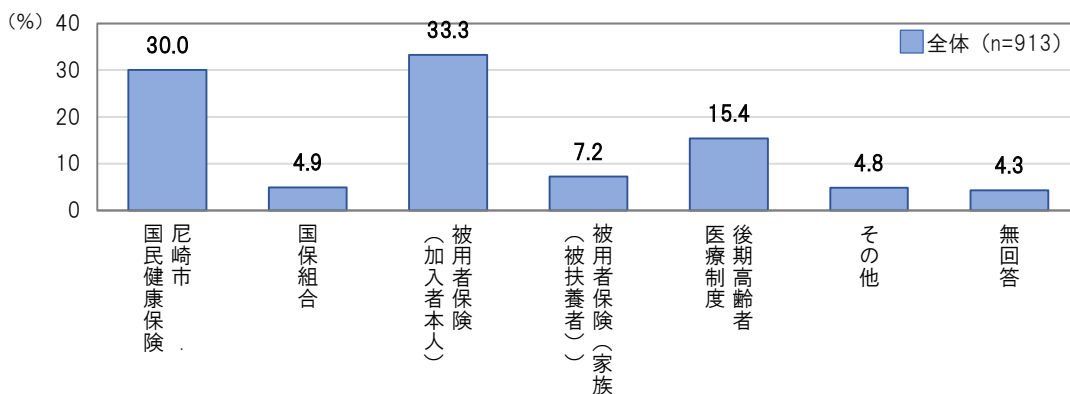
- 世帯全体の年間収入は、「200万円以上～400万円未満」が29.5%と約3割を占めて最も高く、次いで「200万円未満」(21.6%)、「400万円以上～600万円未満」(14.7%)の順となっている。



(9) 加入している医療保険

問 現在、加入されている医療保険はどれですか。（○は1つだけ）

- 加入している医療保険は、「被用者保険（加入者本人）」が33.3%と3割を超えて最も高く、次いで「尼崎市国民健康保険」(30.0%)、「後期高齢者医療制度」(15.4%)の順となっている。



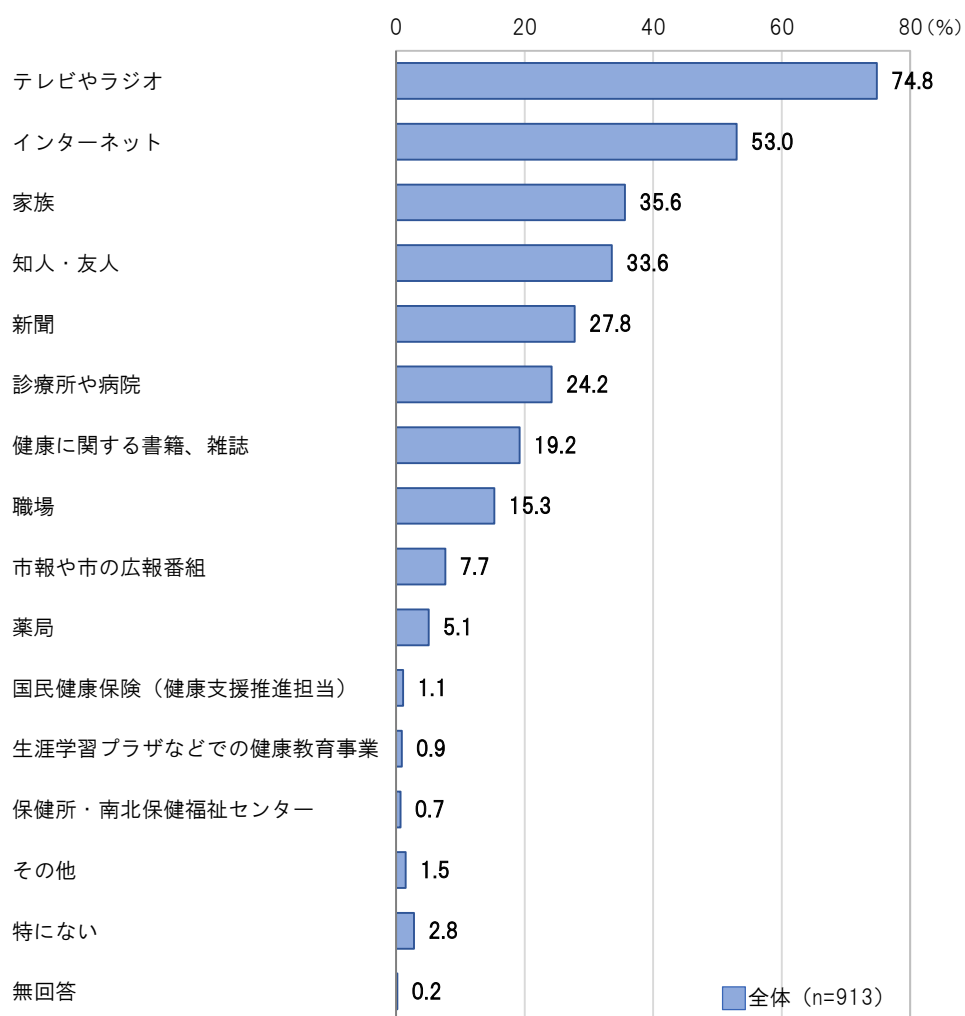
2. 健康についての関心や知識などについて

(1) 食生活や健康に関する情報の入手先

問1 あなたが食生活や健康に関する情報を得ているのは、主にどこからですか。

(〇はあてはまるものすべて)

- 食生活や健康に関する情報の入手先については、「テレビやラジオ」が74.8%と7割を超えて最も高く、次いで「インターネット」(53.0%)、「家族」(35.6%)、「知人・友人」(33.6%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「新聞」や「診療所や病院」で女性に比べて高く、女性では「知人・友人」や「健康に関する書籍、雑誌」、「職場」などで男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、39歳以下では「インターネット」、40歳以上では「テレビやラジオ」が最も高くなっている。
- また、概ね年代が下がるにつれて「インターネット」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「テレビやラジオ」や「新聞」、「診療所や病院」、「健康に関する書籍、雑誌」、「市報や市の広報番組」などの回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数(人)	テレビやラジオ	インターネット	家族	知人・友人	新聞	診療所や病院	健康に関する書籍、雑誌	職場
性別	男性	390	72.6	51.5	36.9	26.2	33.1	29.5	15.6	11.8
	女性	492	77.6	54.7	34.6	39.8	23.6	20.1	22.8	18.1
年代別	39歳以下	149	58.4	87.2	43.0	35.6	4.0	12.1	13.4	19.5
	40～64歳	345	78.0	71.9	33.9	37.4	20.0	22.9	15.9	26.4
	65歳以上	387	79.3	24.0	35.4	30.5	44.2	30.0	24.8	4.7

		市報や市の広報番組	薬局	国民健康保険(健康支援推進担当)	生涯学習プラザなどでの健康教育事業	保健所・南北保健福祉センター	その他	特にない	無回答
(つづき)									
性別	男性	7.4	6.2	2.1	-	0.8	2.1	4.1	-
	女性	7.9	4.7	0.2	1.6	0.6	1.0	1.6	-
年代別	39歳以下	2.7	4.7	0.7	-	-	-	1.3	-
	40～64歳	5.5	4.1	1.2	0.3	0.3	1.4	1.2	-
	65歳以上	11.9	6.7	1.3	1.8	1.3	2.1	4.7	-

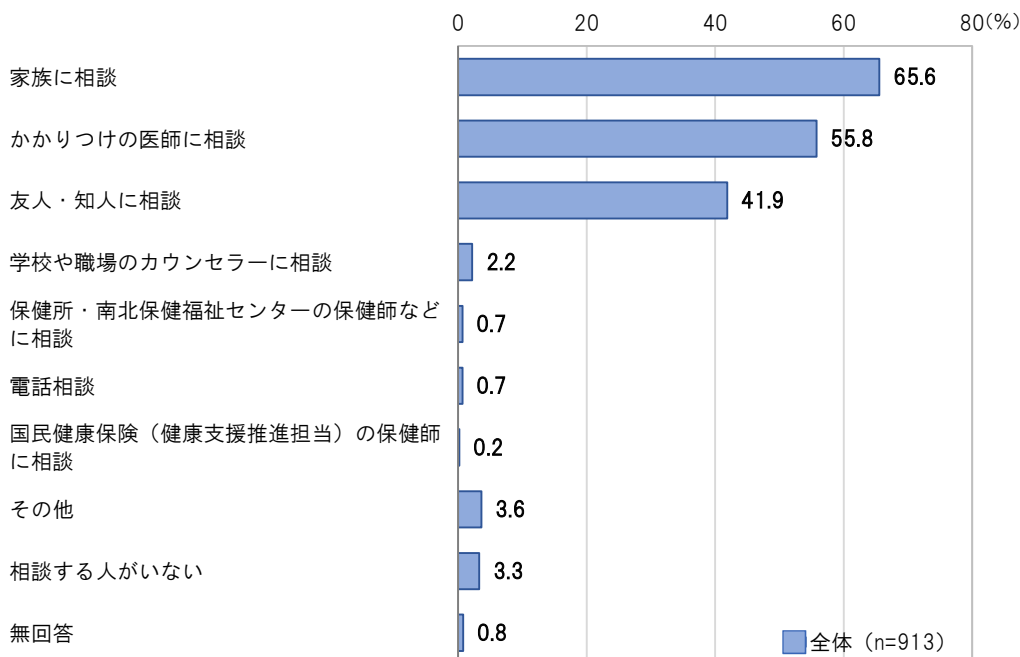
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 健康（こころとからだ）に関する相談先

問2 健康（こころとからだ）に関して相談が必要なとき、主にどうしていますか。

（〇はあてはまるものすべて）

- 健康（こころとからだ）に関する相談先については、「家族に相談」が65.6%と6割を超えて最も高く、次いで「かかりつけの医師に相談」（55.8%）、「友人・知人に相談」（41.9%）の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「かかりつけの医師に相談」で女性に比べて高く、女性では「友人・知人に相談」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、64歳以下では「家族に相談」、65歳以上では「かかりつけの医師に相談」が最も高くなっている。また、概ね年代が下がるにつれて「家族に相談」や「友人・知人に相談」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「かかりつけの医師に相談」などの回答が高くなる傾向がみられる。

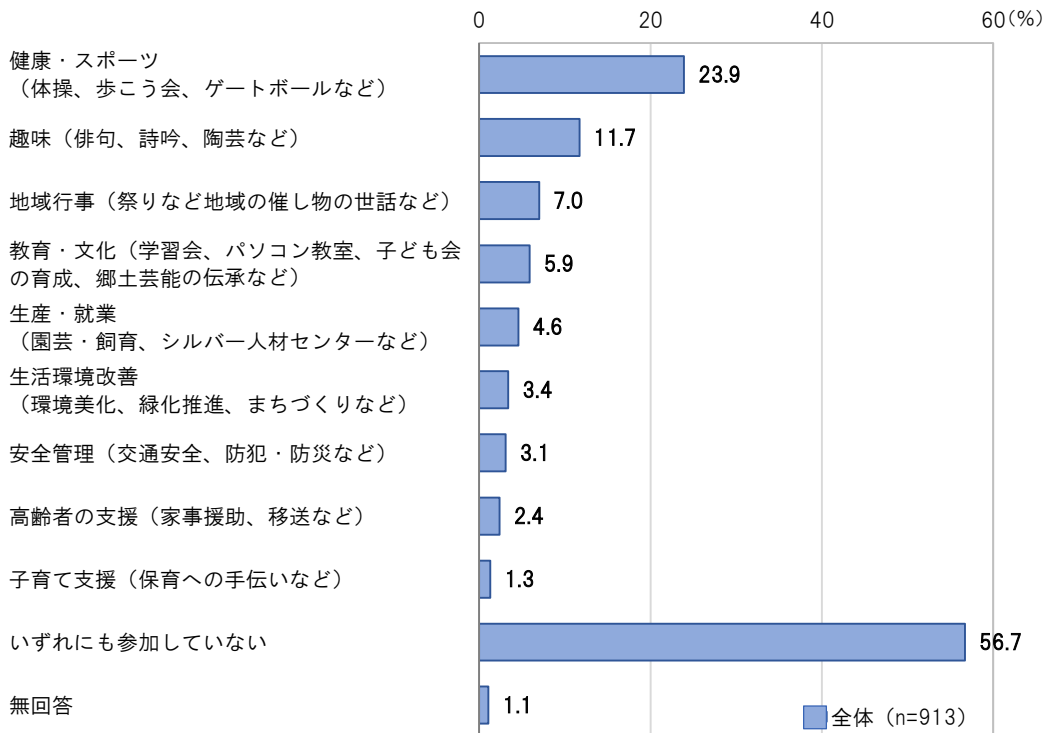
		回答者数 (人)	家族に相談	かかりつけの医師に相談	友人・知人に相談	学校や職場のカウンセラーに相談	保健所・南北保健福祉センターの保健師などに相談	電話相談	国民健康保険（健康支援推進担当）の保健師に相談	その他	相談する人がいない	無回答
性別	男性	390	63.6	63.1	27.9	2.8	0.8	0.5	0.5	3.6	3.8	0.8
	女性	492	68.1	50.4	53.3	1.8	0.6	0.8	-	3.3	2.8	0.4
年代別	39歳以下	149	80.5	30.2	62.4	2.7	0.7	2.0	0.7	2.7	1.3	-
	40～64歳	345	64.1	51.3	48.1	4.6	0.3	0.6	-	2.6	3.5	0.6
	65歳以上	387	62.3	70.0	29.7	-	1.0	0.3	0.3	4.1	3.9	0.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) この1年間での自主的な活動への参加状況

問3 この1年間に、個人あるいはグループで自主的に行われている活動に参加しましたか。
(○はあてはまるものすべて)

- この1年間での自主的な活動への参加状況については、「いずれにも参加していない」が56.7%と半数を超えており、参加している人は4割程度となっている。
- 参加している人では、「健康・スポーツ」が23.9%と2割を超えて高く、次いで「趣味」(11.7%)、「地域行事」(7.0%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、女性では「趣味」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「いずれにも参加していない」の回答が高くなる傾向がみられる。また、年代が上がるにつれて「健康・スポーツ」の回答が高くなる傾向がみられる。

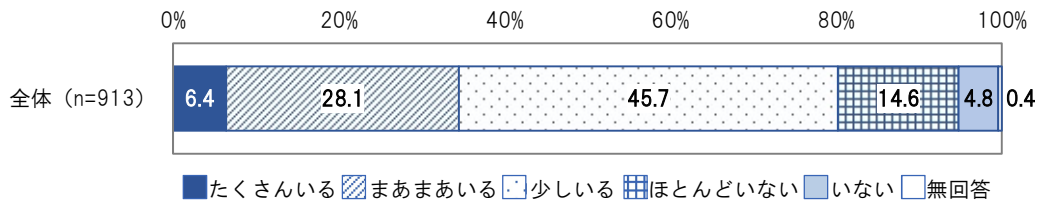
		回答者数 (人)	健康・スポーツ	趣味	地域行事	教育・文化	生産・就業	生活環境改善	安全管理	高齢者の支援	子育て支援	いずれにも参加していない	無回答
性別	男性	390	24.1	8.5	6.7	4.9	5.9	3.8	5.1	2.3	0.5	57.2	1.0
	女性	492	23.8	14.0	7.3	6.9	3.7	3.0	1.4	2.4	2.0	56.9	0.6
年代別	39歳以下	149	16.1	15.4	6.7	6.7	2.0	1.3	2.0	1.3	2.0	63.8	-
	40～64歳	345	21.4	8.4	6.1	6.1	3.2	2.3	3.2	2.6	0.3	60.6	0.3
	65歳以上	387	30.0	13.2	8.0	5.7	7.0	5.4	3.6	2.3	2.1	50.6	1.6

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 心を許せる人の有無

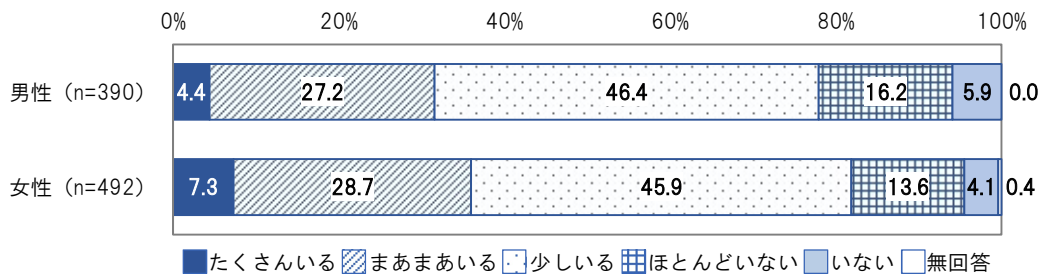
問4 あなたは、心を許せる人はいますか。(○は1つだけ)

- 心を許せる人の有無は、「少しいる」が45.7%と4割を超えて最も高く、次いで「まあまあいる」(28.1%)となっており、「たくさんいる」(6.4%)と合わせると『いる』が約8割を占めている。
- 一方で、「ほとんどいない」(14.6%)と「いない」(4.8%)を合わせた『いない』が約2割となっている。



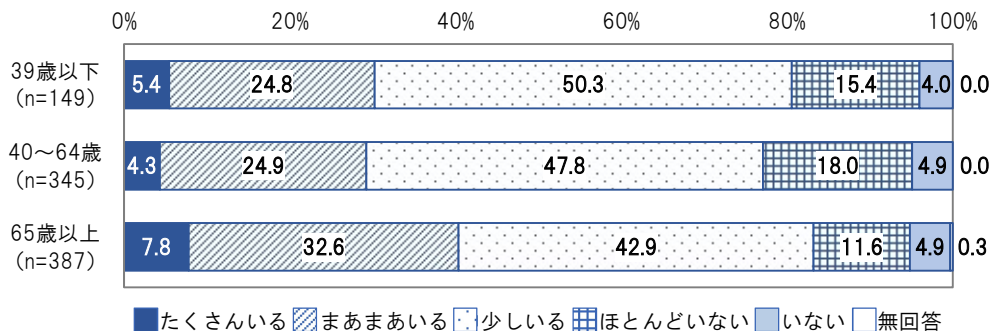
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『いる』がやや高くなっている。



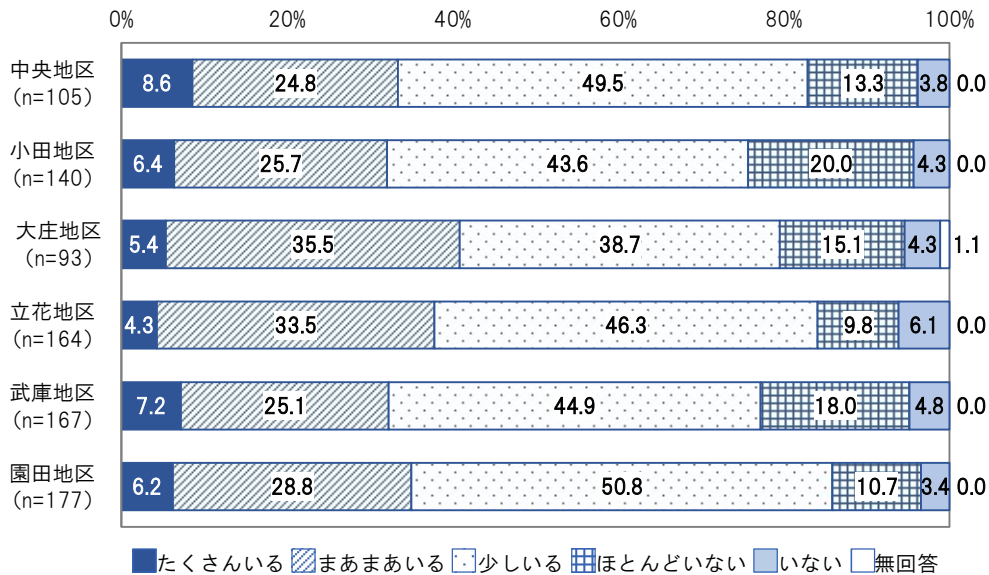
《年代別》

- 年代別にみると、『いる』が65歳以上で83.3%と8割を超えて最も高く、40~64歳で77.0%と最も低くなっている。
- また、40~64歳では『いない』が22.9%と2割を超えており、その他の年代に比べて高くなっている。



《居住地区別》

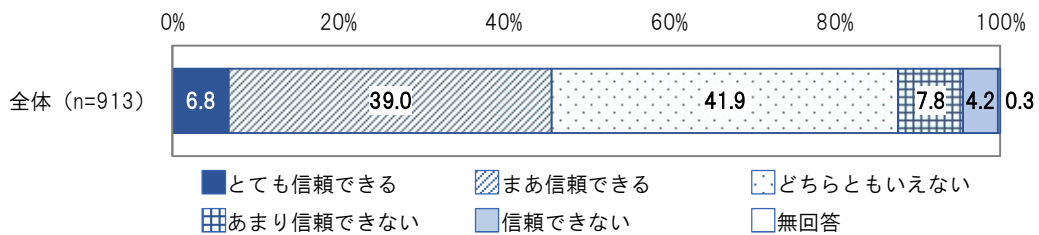
- 居住地区別にみると、『いる』が園田地区で85.8%と最も高く、最も低い小田地区（75.7%）と約10ポイントの差がみられる。
- また、小田地区・武庫地区では『いない』が2割を超えており、その他の地区に比べて高くなっている。



(5) 居住地域の人々への信頼度

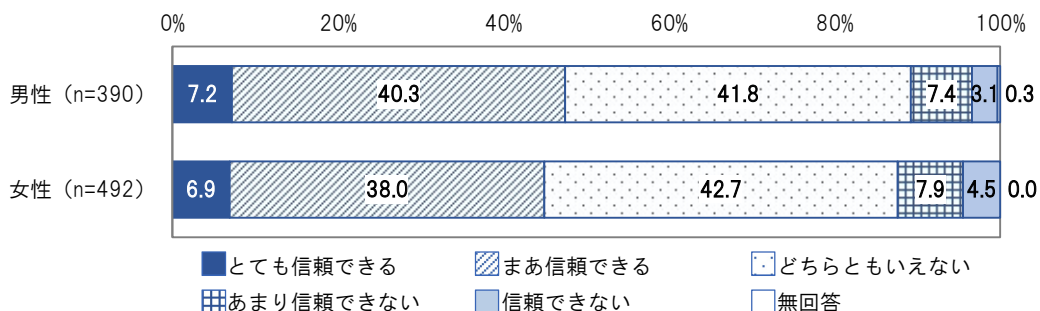
問5 あなたのお住まいの地域の人々は信頼できますか。(○は1つだけ)

- 居住地域の人々への信頼度は、「まあ信頼できる」が39.0%と約4割を占めて高く、「とても信頼できる」(6.8%)と合わせると『信頼できる』が4割を超えている。
- 一方で、「あまり信頼できない」(7.8%)と「信頼できない」(4.2%)を合わせた『信頼できない』は1割を超えている。



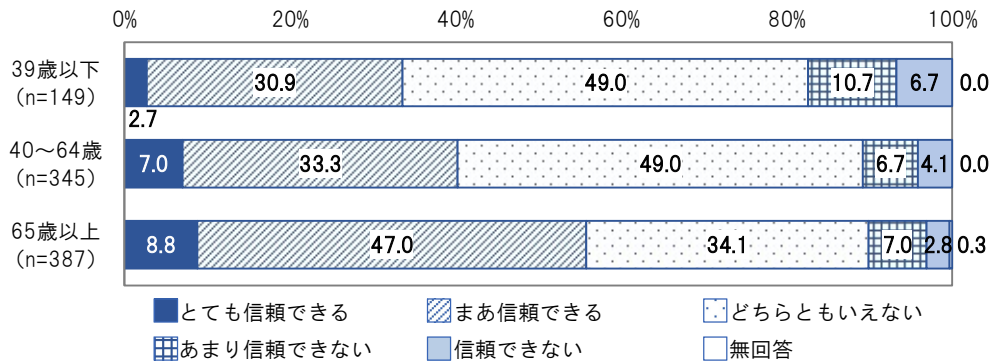
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で『信頼できる』がやや高くなっている。



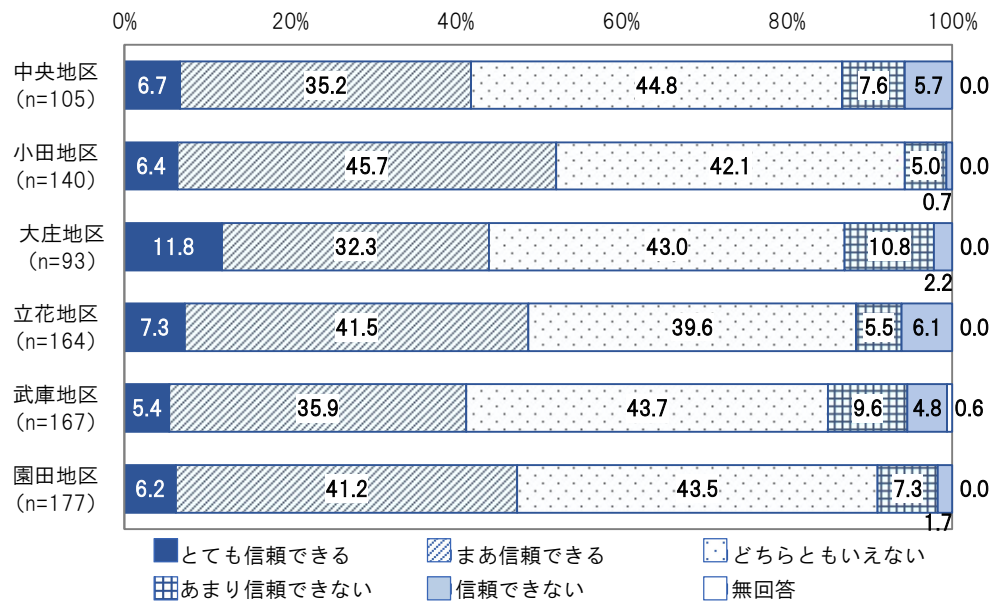
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『信頼できる』が高くなっており、65歳以上では6割近くを占めている。
- 一方で、39歳以下では『信頼できない』が17.4%と2割近くとなっており、その他の年代に比べてやや高くなっている。



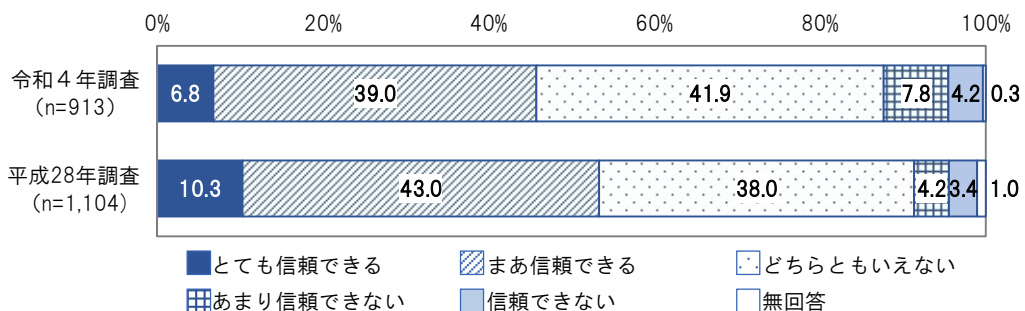
《居住地区別》

- 居住地区別にみると、『信頼できる』が小田地区で52.1%と半数を超えて最も高く、次いで、立花地区（48.8%）、園田地区（47.4%）の順となっている。



《経年比較》

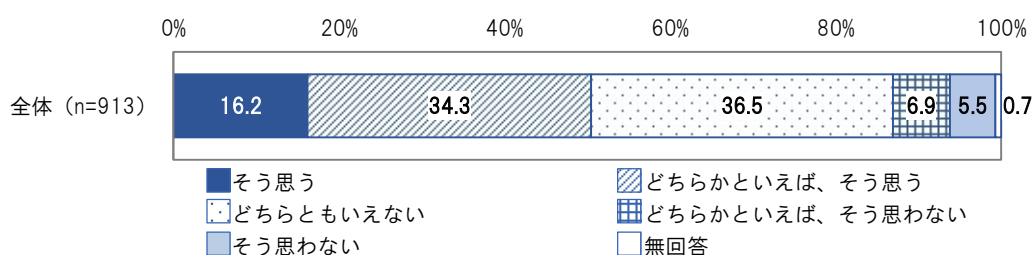
- 平成28年調査と比較すると、『信頼できる』が53.3%から45.8%と7.5ポイント低くなっている。



(6) 近所の人たちが手を差しよべることをいとわないと思うか

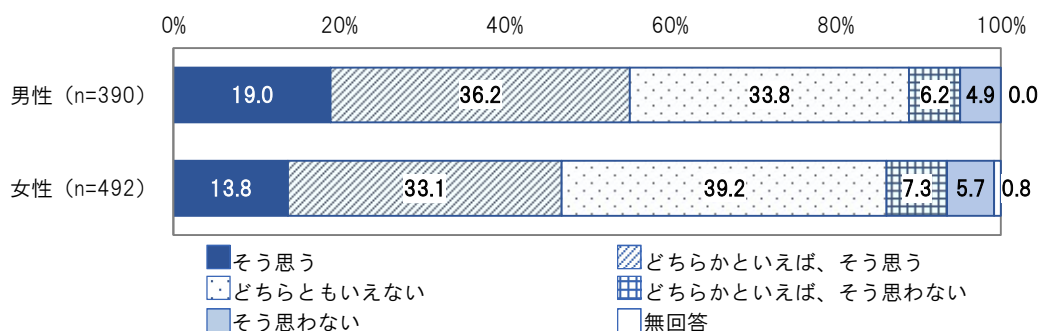
問6 近所の誰かが助けを必要としているときに、近所の人たちは手をさしのべることをいとわないと思いますか。(○は1つだけ)

- 近所の人たちが手を差しよべることをいとわないと思うかは、「どちらかといえば、そう思う」が34.3%と3割を占めて高く、「そう思う」(16.2%) と合わせると『そう思う』が約半数を占めている。
- 一方で、「どちらかといえば、そう思わない」(6.9%) と「そう思わない」(5.5%) を合わせた『そう思わない』は1割を超えている。



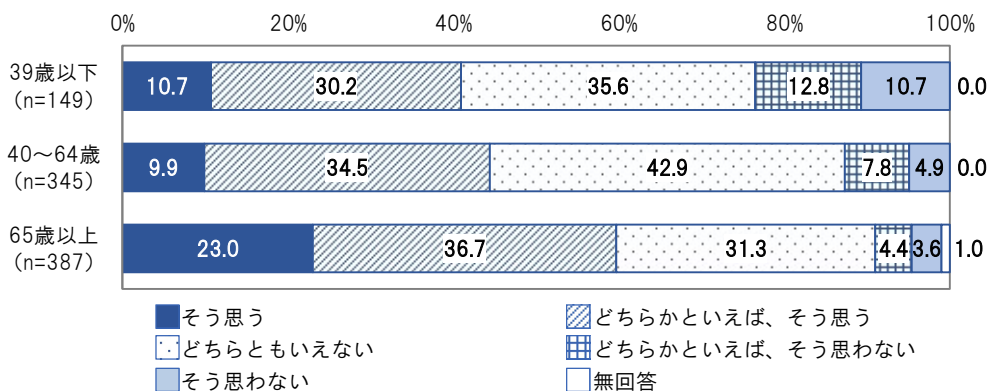
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で『そう思う』が高くなっている。



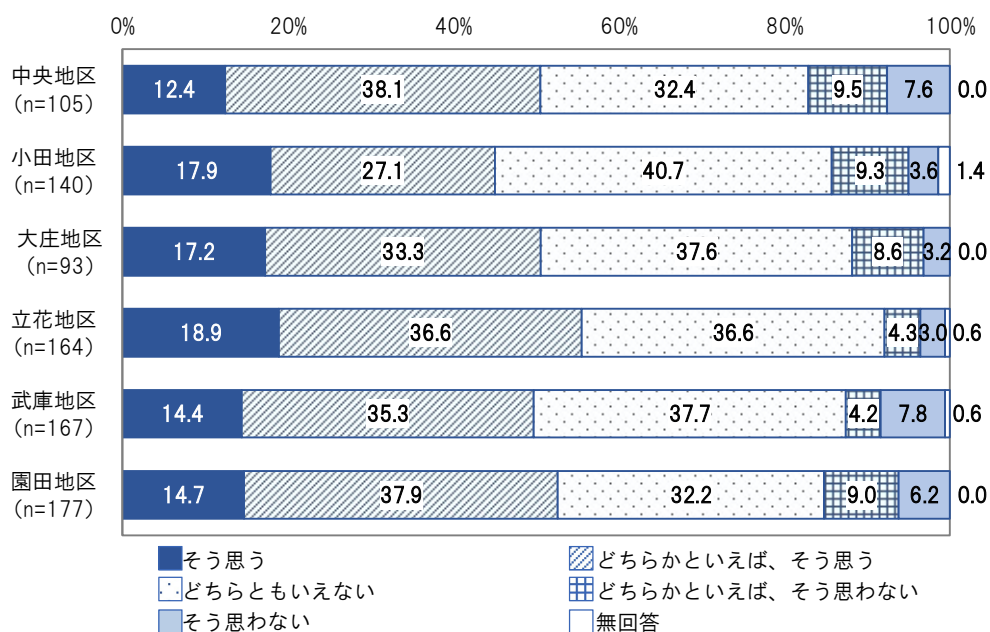
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『そう思う』が高くなっており、65歳以上では約6割を占めている。
- 一方で、39歳以下では『そう思わない』が23.5%と2割を超えており、その他の年代に比べて高くなっている。



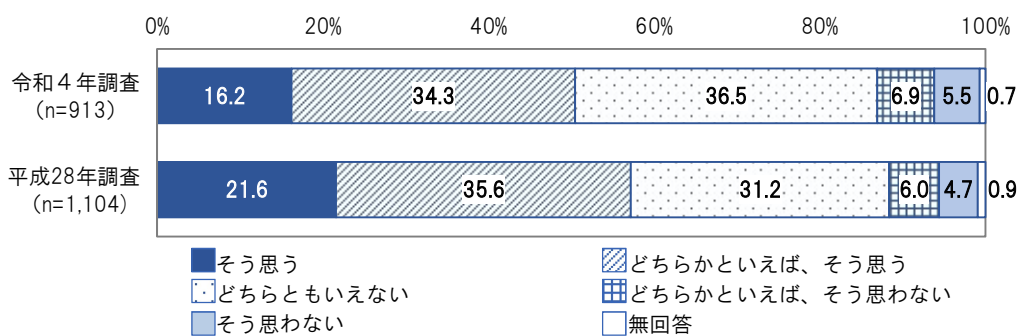
《居住地区別》

- 居住地区別にみると、『そう思う』が立花地区で 55.5%と最も高く、次いで、園田地区(52.6%)、中央地区・大庄地区(50.5%)の順となっている。
- また、『そう思わない』が中央地区では 17.1%、園田地区で 15.2%となっており、その他の地区に比べてやや高くなっている。



《経年比較》

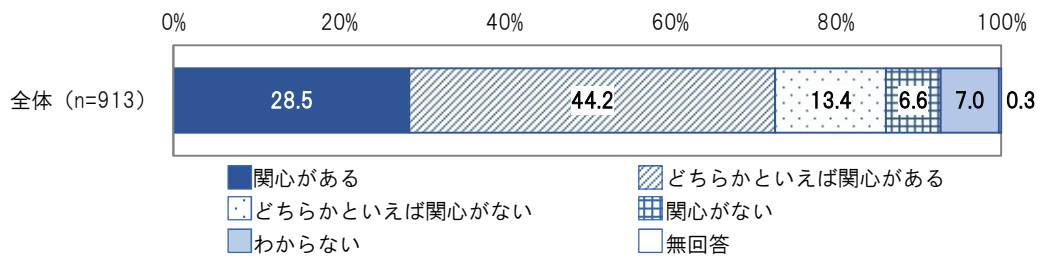
- 平成 28 年調査と比較すると、『そう思う』が 57.2%から 50.5%と 6.7 ポイント低くなっている。



(7) 食育への関心度

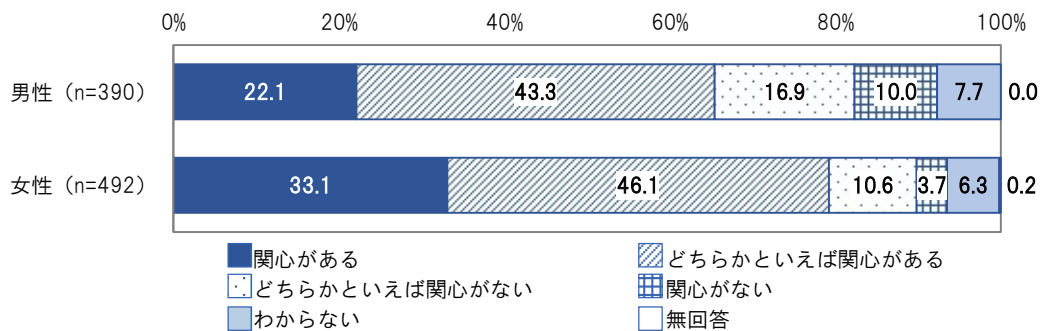
問7 あなたは、食育に関心がありますか。(○は1つだけ)

- 食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」が44.2%と4割を占めて最も高く、「関心がある」(28.5%)と合わせると『関心がある』が7割を超えている。
- 一方で、「どちらかといえば関心がない」(13.4%)と「関心がない」(6.6%)を合わせた『関心がない』は約2割となっている。



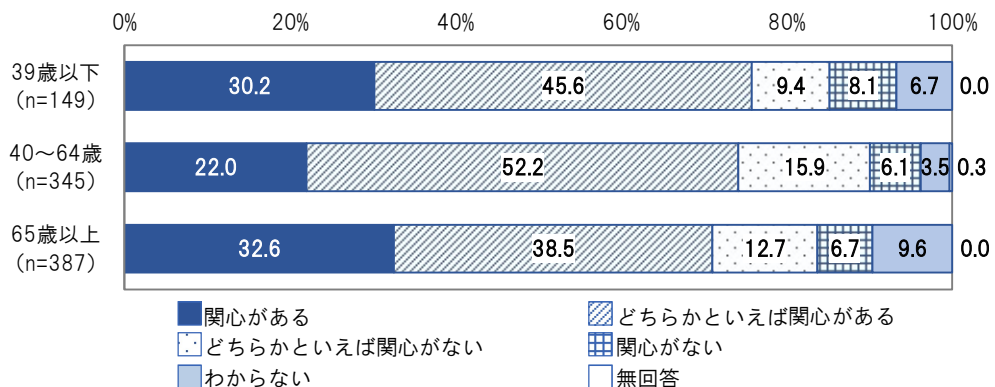
《性別》

- 性別にみると、『関心がある』が、女性では79.2%と約8割を占め、男性(65.4%)に比べて高くなっている。



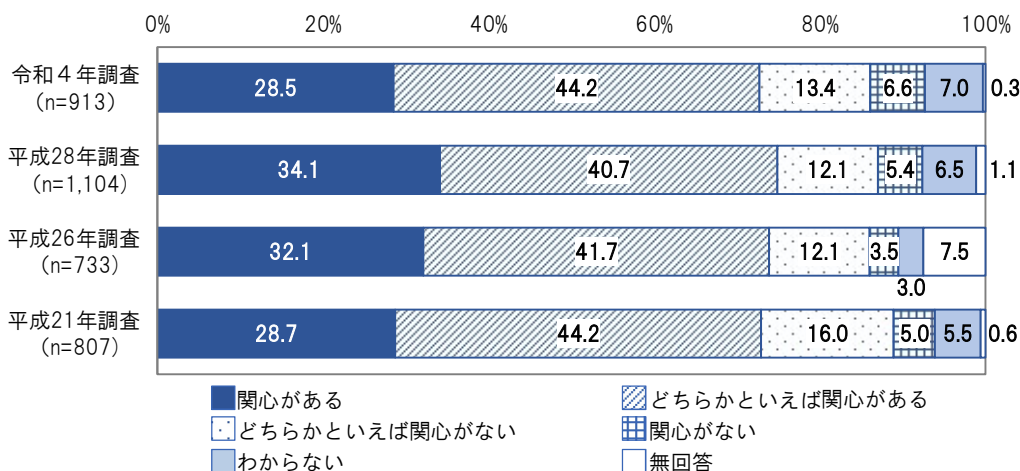
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて『関心がある』が高くなっている。



《経年比較》 ※平成 21 年調査、平成 26 年調査は「食育市民アンケート調査」

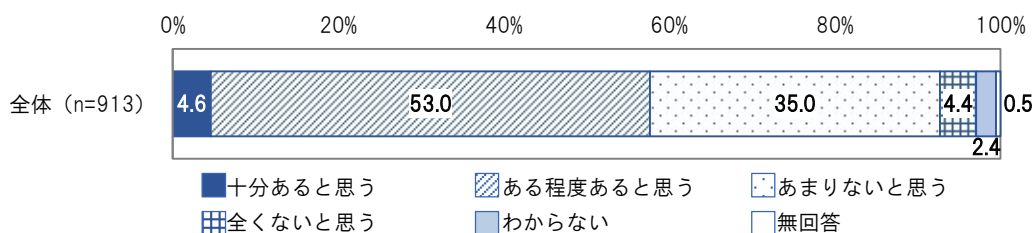
- 経年で比較すると、「関心がある」は平成 28 年調査から減少しているものの、「どちらかといえ
ば関心がある」を合わせた『関心がある』の割合では大きな差異はみられない。
- また、『関心がない』が平成 26 年調査以降、年々増加している。



(8) 食品の選び方・調理方法についての知識

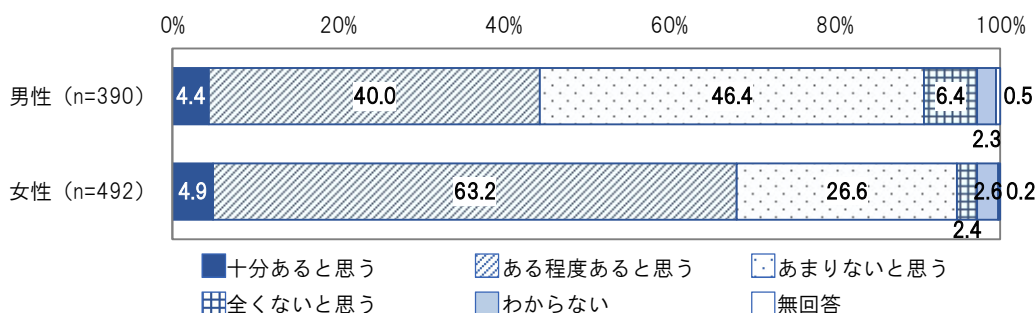
問 8 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするため、食品の選び方・調理方法について知識があると思いますか。(〇は1つだけ)

- 食品の選び方・調理方法についての知識は、「ある程度あると思う」が 53.0%と半数を超えて最も高く、「十分あると思う」(4.6%) と合わせると『あると思う』が6割近くを占めている。
- 一方で、「あまりないと思う」(35.0%) と「全くないと思う」(4.4%) を合わせた『ないと思う』は約4割となっている。



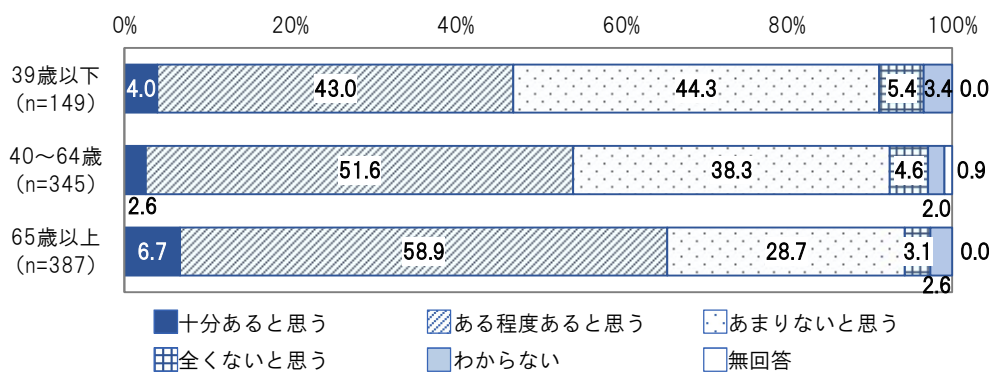
《性別》

- 性別にみると、『あると思う』が、女性では 68.1%と7割近くを占め、男性 (44.4%) に比べて高くなっている。
- 男性では『ないと思う』が 52.8%と半数を超えている。



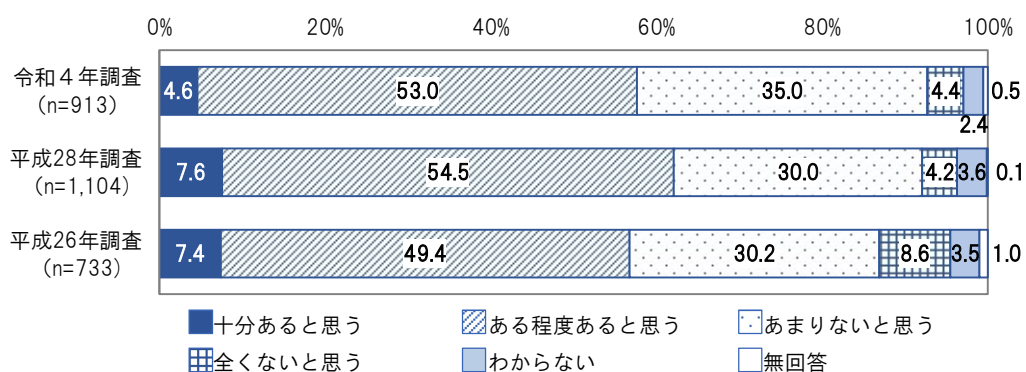
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『あると思う』が高くなっており、65歳以上では6割を超えている。
- 一方で、39歳以下では『ないと思う』が49.7%と約半数を占めている。



《経年比較》 ※平成26年調査は「食育市民アンケート調査」

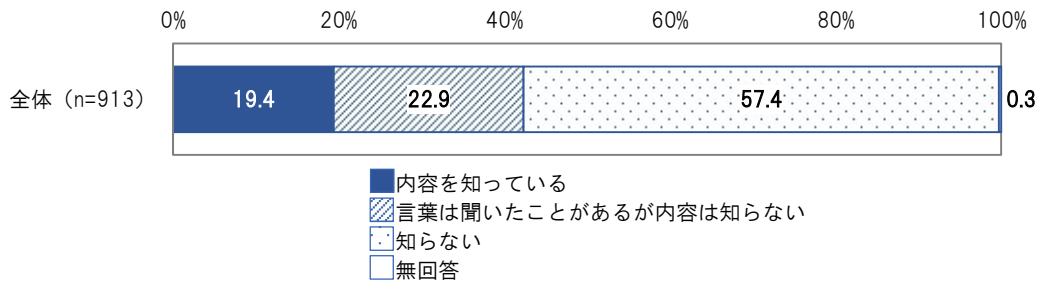
- 経年で比較すると、『あると思う』は平成28年調査から減少しているものの、平成26年調査と同程度となっている。
- また、「全くないと思う」は平成26年調査以降、減少傾向となっている。



(9) 運動器症候群（ロコモティブシンドローム）の認知度

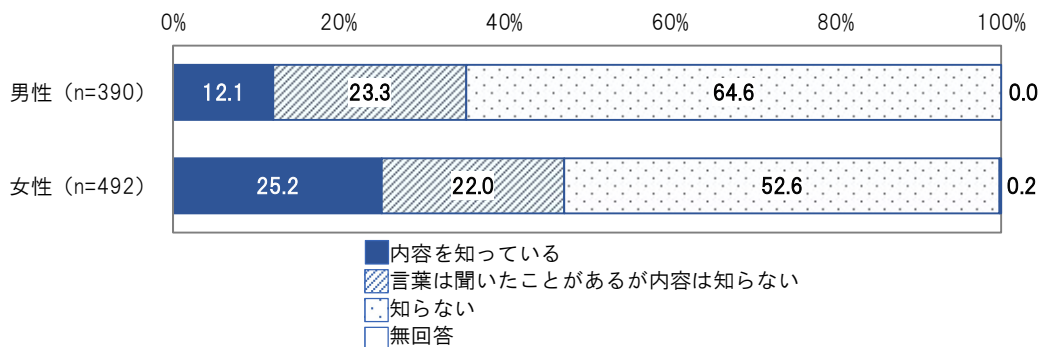
問9 あなたは、運動器症候群（ロコモティブシンドローム）を知っていますか。（○は1つだけ）

- 運動器症候群（ロコモティブシンドローム）の認知度は、「知らない」が57.4%と6割近くを占めており、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」（22.9%）と合わせると、『内容を知らない』が約8割を占めている。また、「内容を知っている」は約2割（19.4%）となっている。



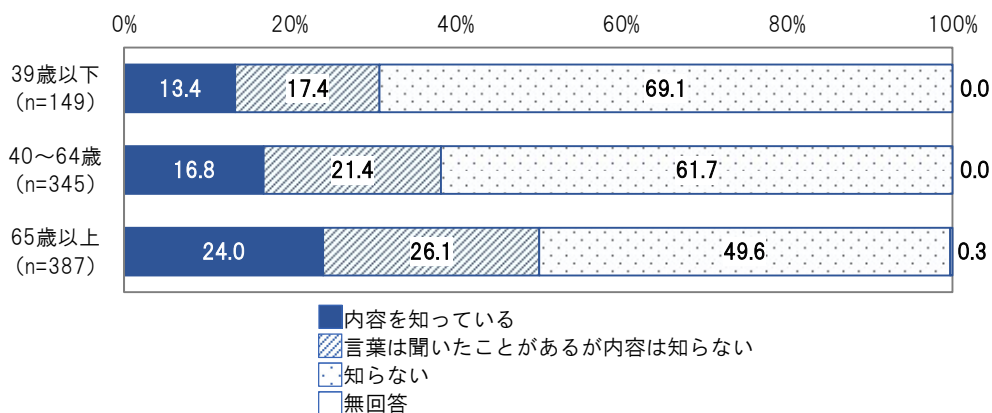
《性別》

- 性別にみると、女性では「内容を知っている」が25.2%と2割を超え、男性（12.1%）を10ポイント以上上回っている。



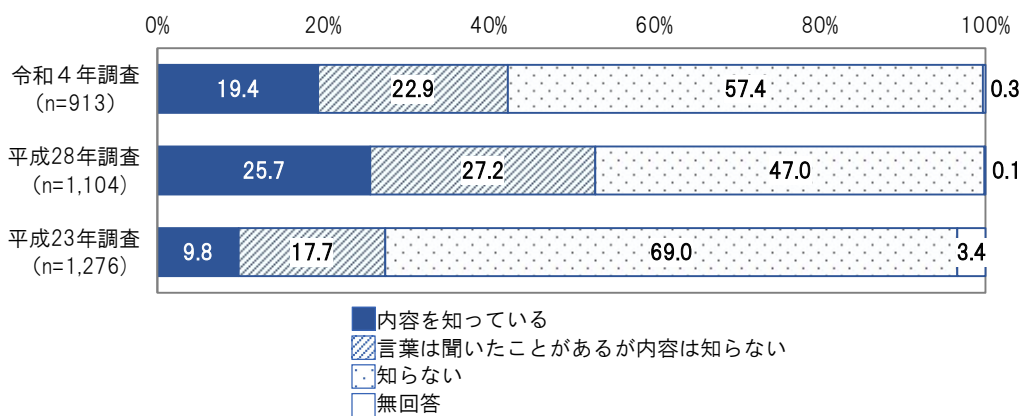
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「内容を知っている」が高くなっており、65歳以上では2割を超えている。また、39歳以下では「知らない」が69.1%と約7割となっている。



《経年比較》

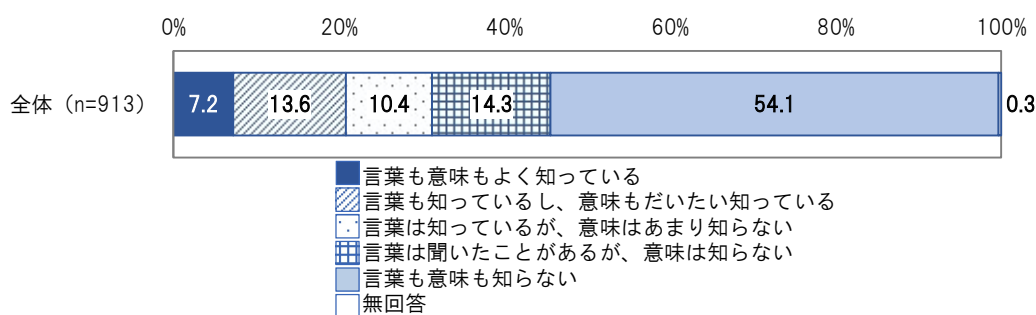
- 経年で比較すると、「内容を知っている」は平成 28 年調査から減少しているものの、平成 23 年調査と比較すると大きく増加している。



(10) フレイルの認知度

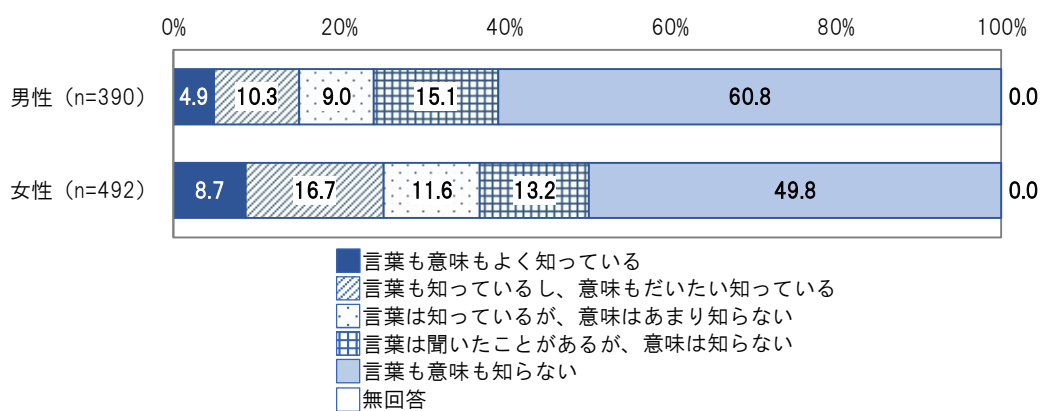
問 10 あなたは、「フレイル」という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つだけ)

- フレイルの認知度は、「言葉も意味も知らない」が 54.1%と半数を超えており、「言葉は知っているが、意味はあまり知らない」(10.4%)、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(14.3%) と合わせると、『意味は知らない』が8割近くを占めている。
- 「言葉も意味もよく知っている」(7.2%) と「言葉も知っているし、意味もだいたい知っている」(13.6%) を合わせた『意味も知っている』は約2割 (20.8%) となっている。



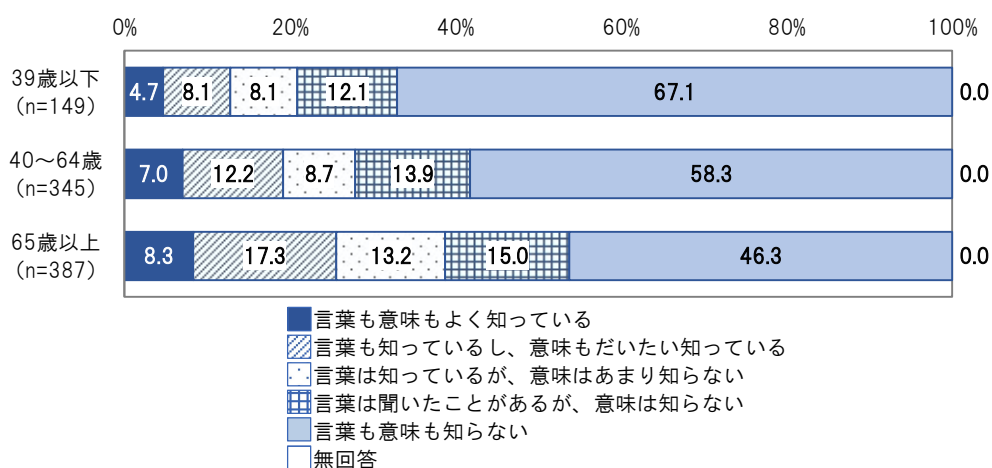
《性別》

- 性別にみると、女性では『意味も知っている』が25.4%と2割を超え、男性（15.2%）を約10ポイント上回っている。



《年代別》

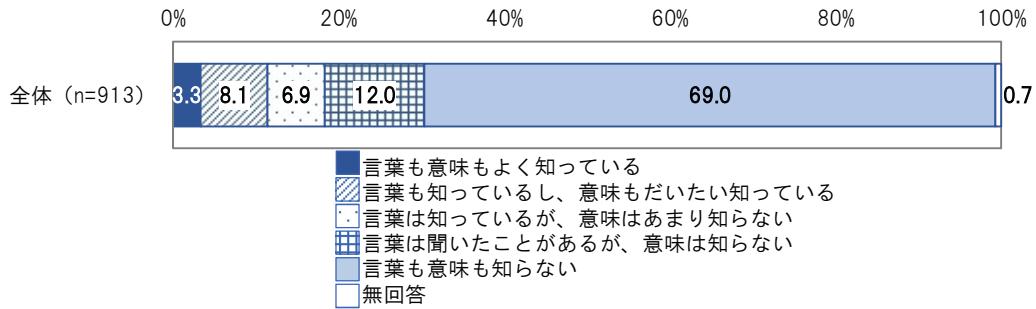
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『意味も知っている』が高くなっており、65歳以上では2割を超えている。
- また、39歳以下では「言葉も意味も知らない」が67.1%と7割近くを占めている。



(11) オーラルフレイルの認知度

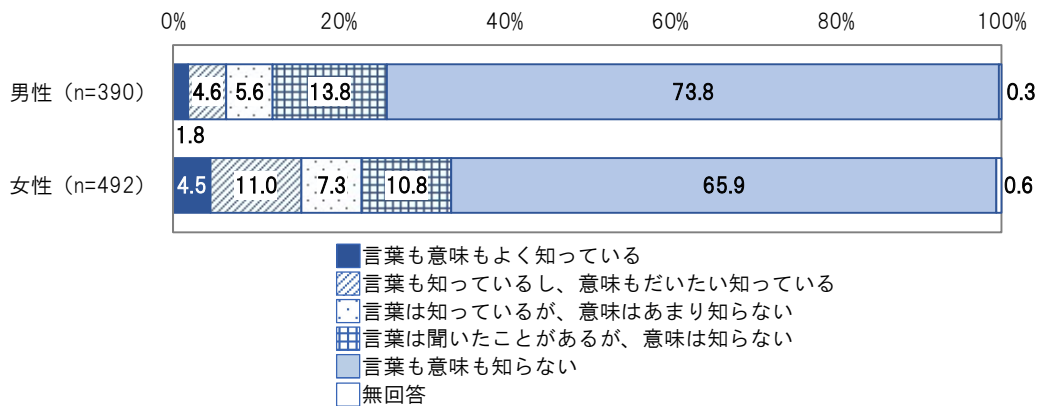
問 11 あなたは、「オーラルフレイル」という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つだけ)

- オーラルフレイルの認知度は、「言葉も意味も知らない」が 69.0%と約7割を占めており、「言葉は知っているが、意味はあまり知らない」(6.9%)、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」(12.0%) と合わせると、『意味は知らない』が9割近くを占めている。
- 「言葉も意味もよく知っている」(3.3%)と「言葉も知っているし、意味もだいたい知っている」(8.1%)を合わせた『意味も知っている』は1割程度(11.4%)となっている。



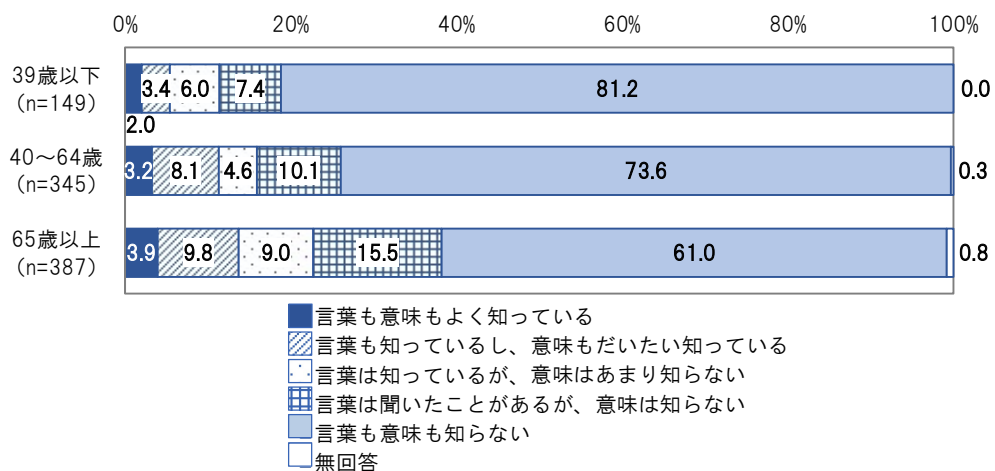
《性別》

- 性別にみると、女性では『意味も知っている』が 15.5%と1割を超え、男性 (6.4%) を 10 ポイント近く上回っている。



《年代別》

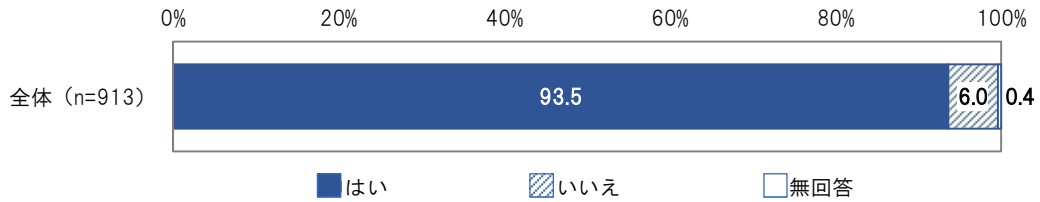
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『意味も知っている』が高くなっており、40歳以上で1割を超えている。
- また、39歳以下では「言葉も意味も知らない」が81.2%と8割を超えている。



(12) アスベストばく露による健康影響の可能性の認知度

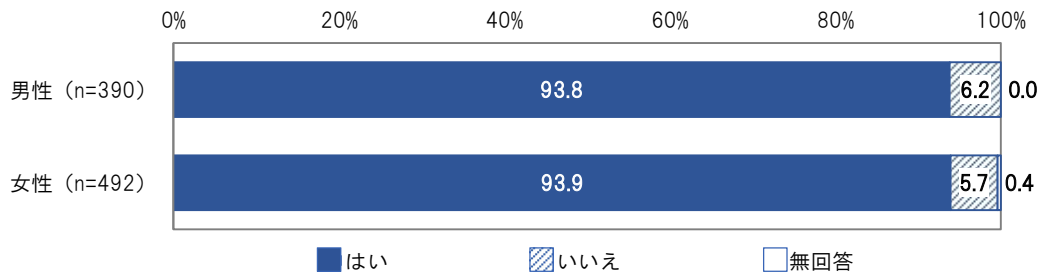
問 12 アスベスト(石綿)を吸いこんで長期間(10~50年程度)経過した後、深刻な健康被害を受け
る可能性があることを知っていますか。(○は1つだけ)

- アスベストばく露による健康影響の可能性の認知度は、「はい(知っている)」が93.5%と9割を超え、「いいえ(知らない)」は6.0%となっている。



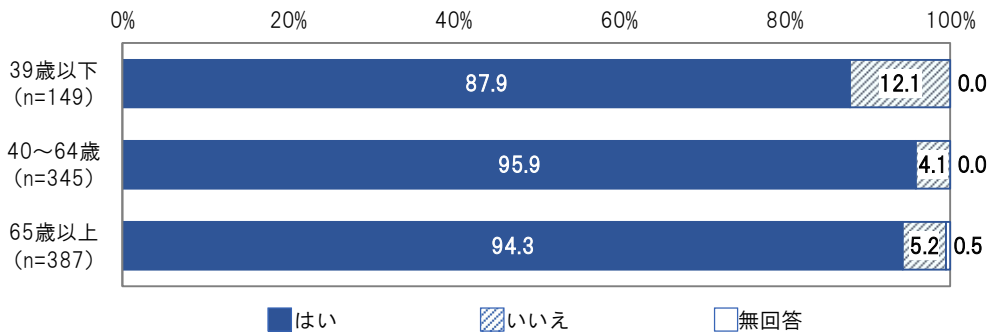
《性別》

- 性別による大きな差異はみられない。



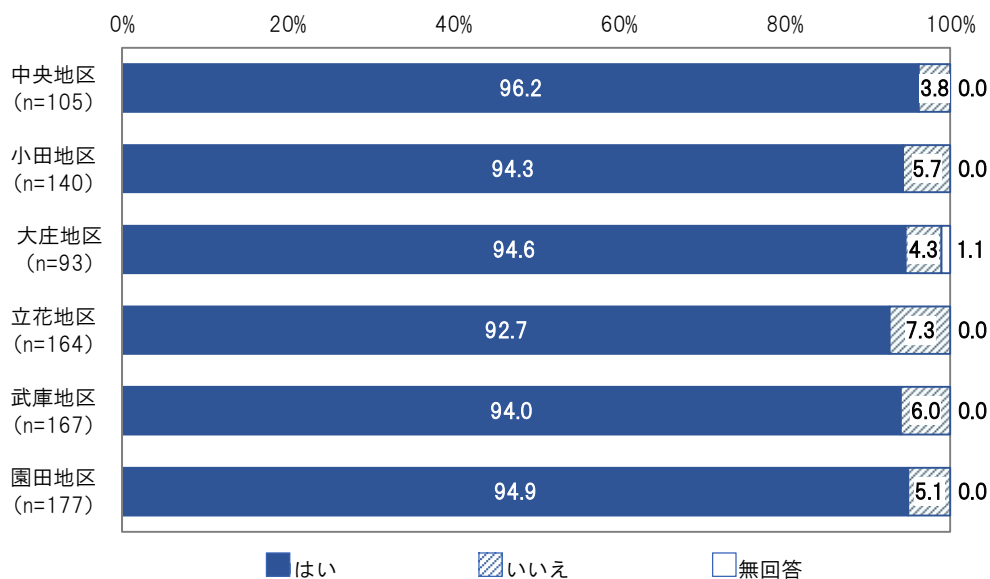
《年代別》

- 年代別にみると、すべての年代で「はい(知っている)」が大半を占めているものの、39歳以下では9割未満となっており、その他の年代に比べてやや低くなっている。



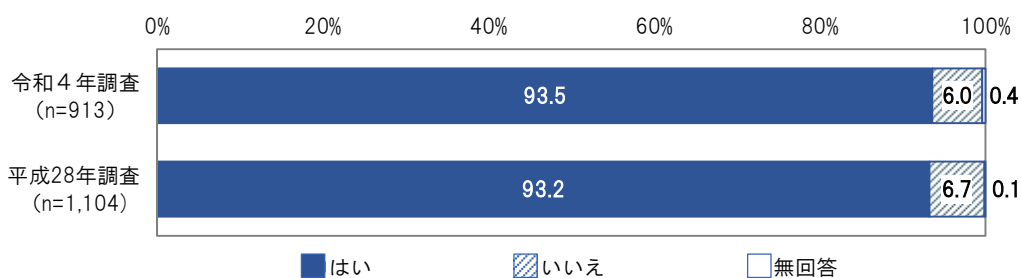
《居住地区別》

- 居住地区別による大きな差異はみられない。



《経年比較》

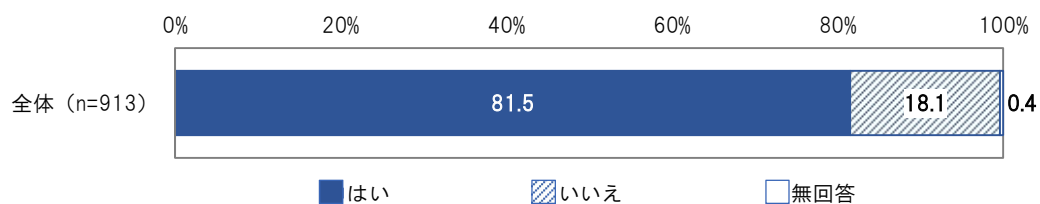
- 平成 28 年調査と比較すると、「はい (知っている)」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



(13) マタニティマークの認知度

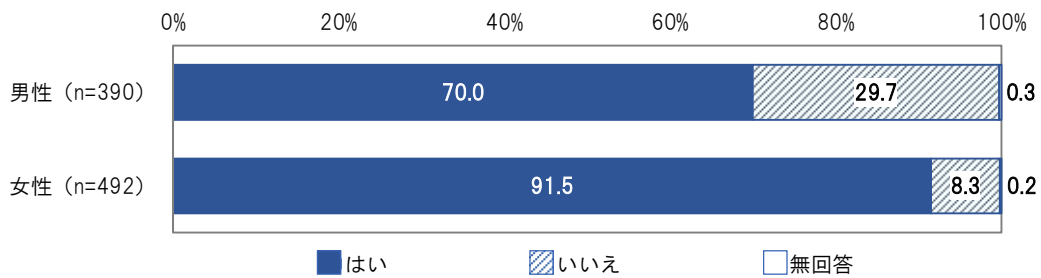
問 13 マタニティマークを知っていますか。(○は1つだけ)

- マタニティマークの認知度は、「はい (知っている)」が 81.5% と 8 割を超え、「いいえ (知らない)」は 18.1% となっている。



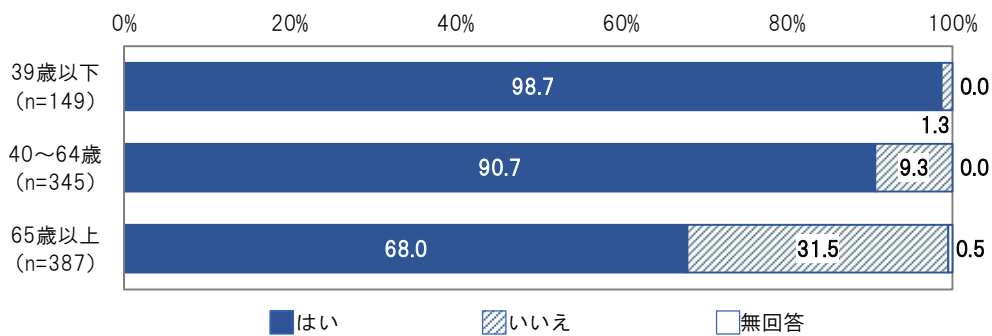
《性別》

- 性別にみると、女性では「はい（知っている）」が91.5%と9割を超え、男性（70.0%）を20ポイント以上上回っている。



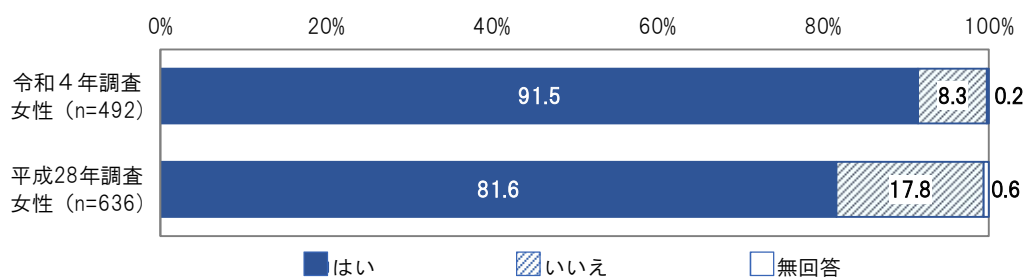
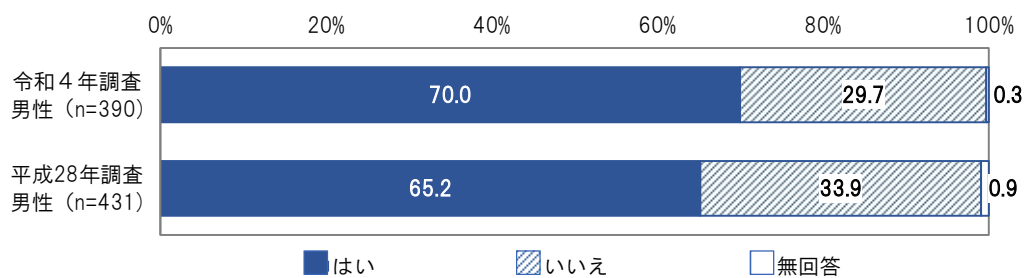
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「はい（知っている）」が高くなっており、39歳以下ではほぼ全員となっている。
- また、65歳以上では「いいえ（知らない）」が31.5%と3割を超えている。



《経年比較》

- 平成28年調査と性別に比較すると、男性・女性ともに「はい（知っている）」が高くなっており、特に女性では約10ポイント増加している。

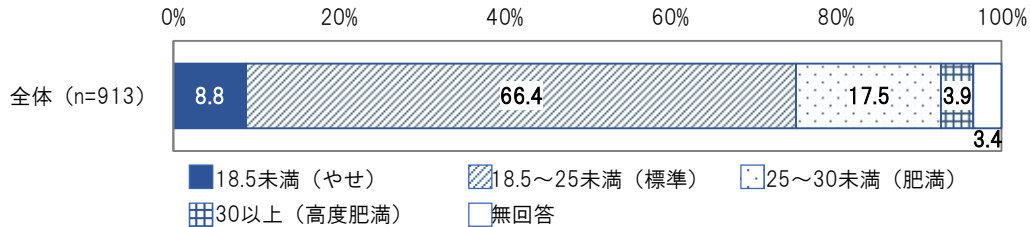


3. 身長・体重について

(1) 身長・体重 (BMI 算出)

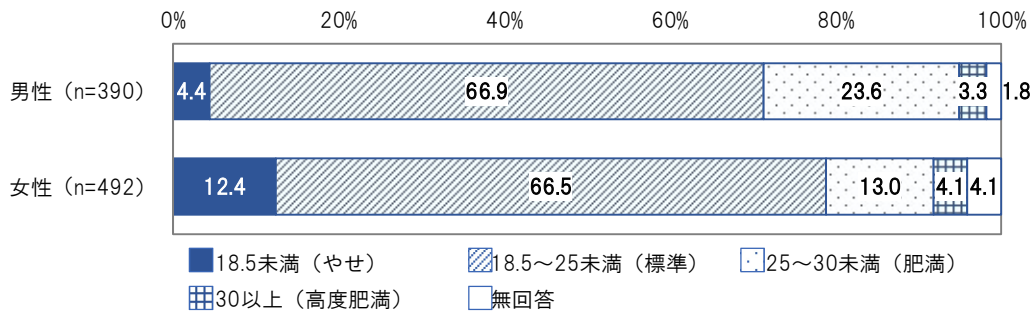
問 14 身長・体重を教えてください。

- ・身長・体重から算出した BMI は、「18.5～25 未満 (標準)」が 66.4%と 6 割を超えている。
- ・一方で、「18.5 未満 (やせ)」が 1 割近く (8.8%) であり、また「25～30 未満 (肥満)」(17.5%) と「30 以上 (高度肥満)」(3.9%) を合わせた『25 以上 (肥満)』は 2 割を超えている。



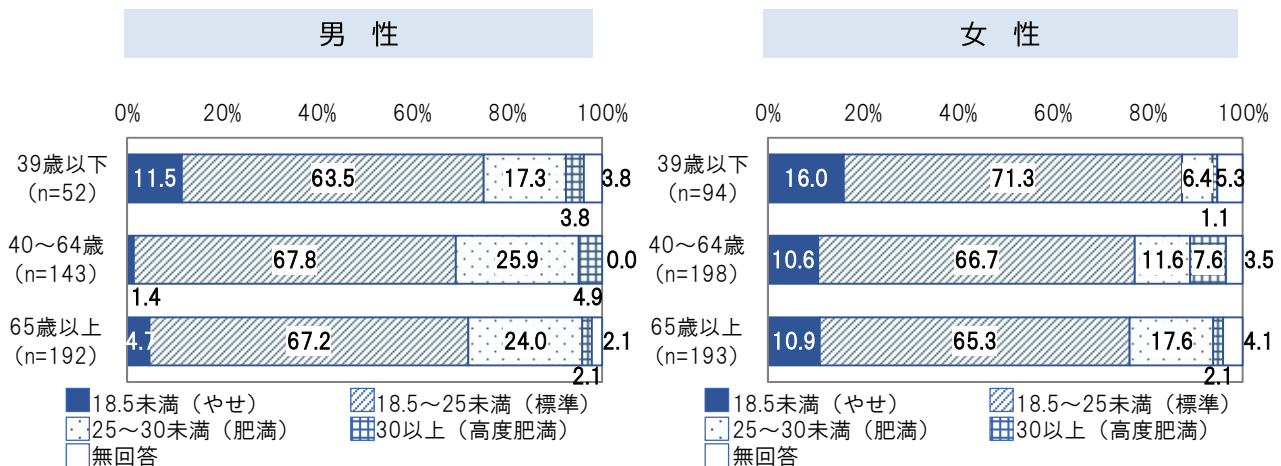
《性別》

- ・性別にみると、女性では「18.5 未満 (やせ)」が 12.4%と 1 割を超え、男性 (4.4%) に比べて高くなっている。
- ・男性では『25 以上 (肥満)』が 26.9%と 2 割を超え、女性 (17.1%) に比べて高くなっている。



《性・年代別》

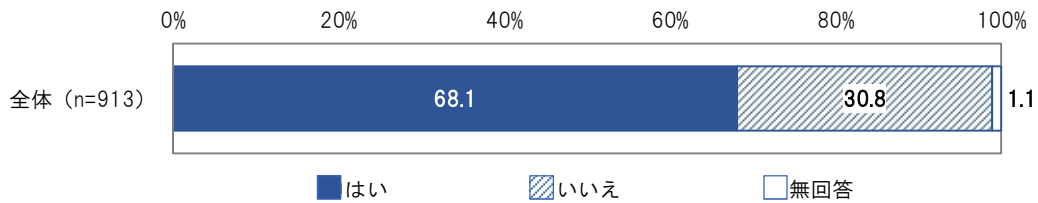
- ・性・年代別にみると、男性では全世代で『25 以上 (肥満)』が 2 割を超えている。
- ・女性では、39 歳以下で「18.5 未満 (やせ)」が 16.0%とその他の年代に比べて高くなっている。また、年代が上がるにつれて『25 以上 (肥満)』が高くなる傾向となっており、40 歳以上で 2 割近くとなっている。



(2) 自分のBMIによる標準体重の認知度

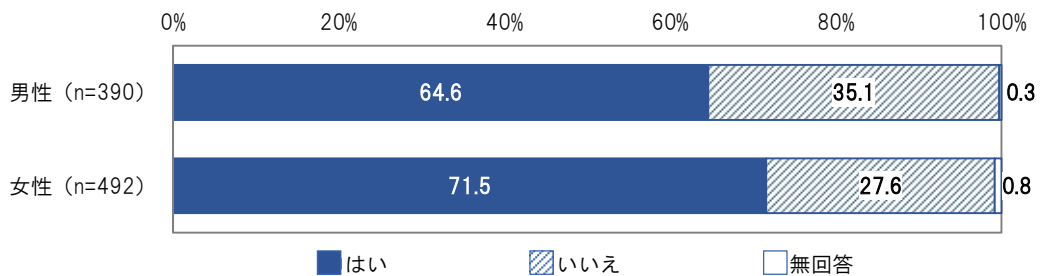
問 15 自分のBMIによる標準の体重を知っていますか。(○は1つだけ)

- 自分のBMIによる標準体重の認知度は、「はい（知っている）」が 68.1%と7割近くを占め、「いいえ（知らない）」は 30.8%となっている。



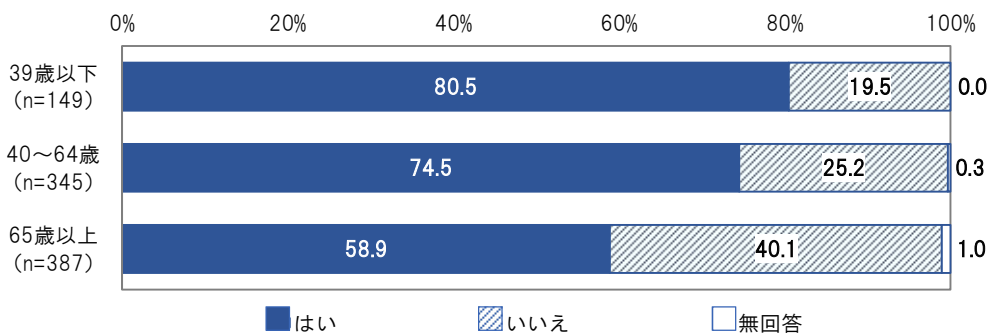
《性別》

- 性別にみると、女性では「はい（知っている）」が 71.5%と7割を超え、男性（64.6%）をやや上回っている。



《年代別》

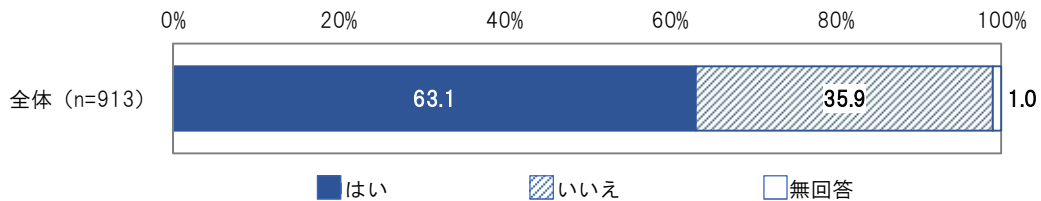
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「はい（知っている）」が高くなっており、39歳以下では約8割（80.5%）となっている。
- また、65歳以上では「いいえ（知らない）」が 40.1%と約4割を占めている。



(3) 標準体重の維持・標準体重に近づけようとしているか

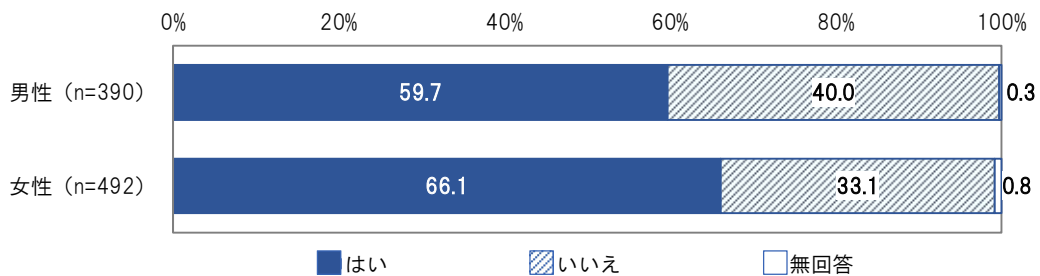
問 16 標準体重を維持し、または標準体重に近づけようとしていますか。(○は1つだけ)

- 標準体重の維持・標準体重に近づけようとしているかは、「はい(している)」が63.1%と6割を超え、「いいえ(していない)」は35.9%となっている。



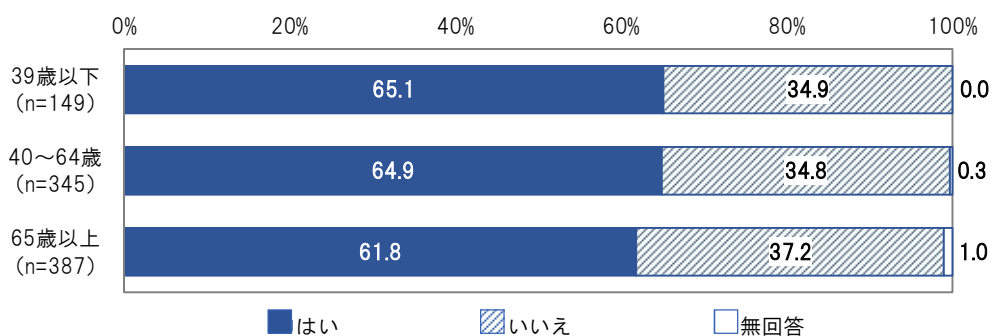
《性別》

- 性別にみると、女性では「はい(している)」が66.1%と6割を超え、男性(59.7%)をやや上回っている。



《年代別》

- 年代別にみると、全ての年代で「はい(している)」が6割を超えているものの、年代が下がるにつれて高くなる傾向がみられる。
- また、65歳以上では「いいえ(していない)」が37.2%と4割近くを占めている。

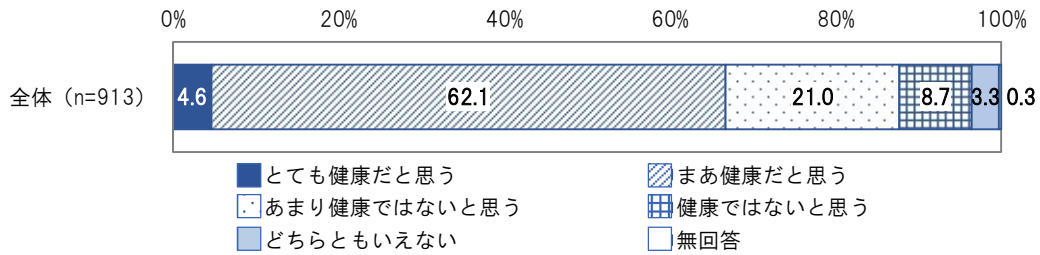


4. 現在の健康状態などについて

(1) 主観的健康観

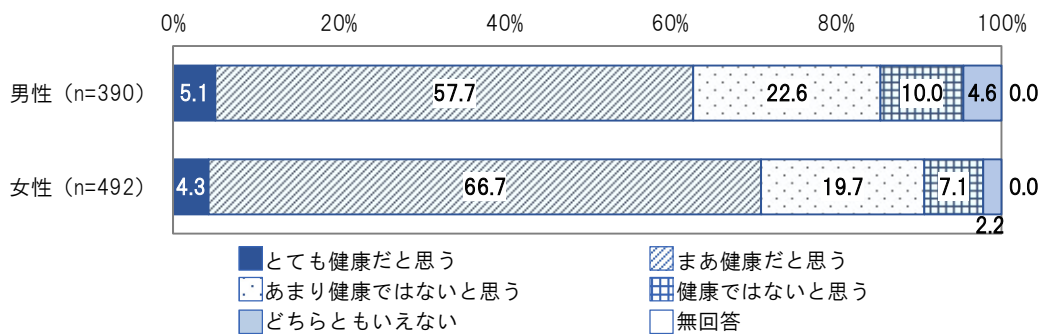
問 17 あなたは、ご自分で健康だと思いますか。(○は1つだけ)

- 主観的健康観は、「まあ健康だと思う」が 62.1%と6割を占めて高く、「とても健康だと思う」(4.6%) と合わせると『健康だと思う』が7割近くを占めている。
- 一方で、「あまり健康ではないと思う」(21.0%) と「健康ではないと思う」(8.7%) を合わせた『健康ではないと思う』は約3割となっている。



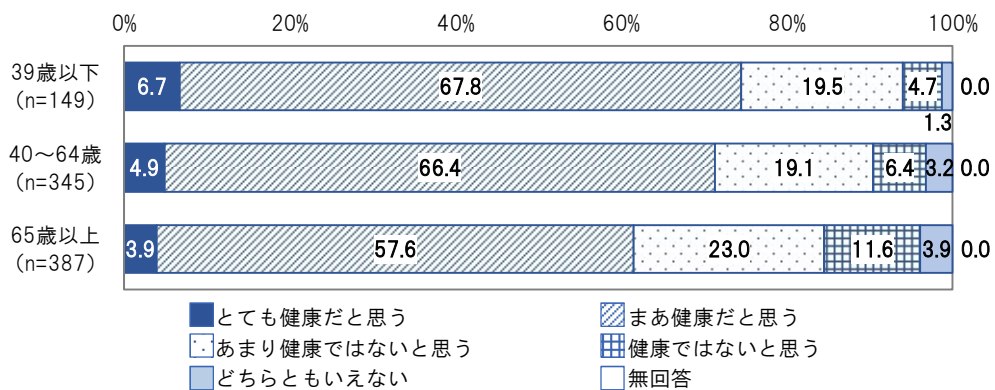
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『健康だと思う』が高くなっている。



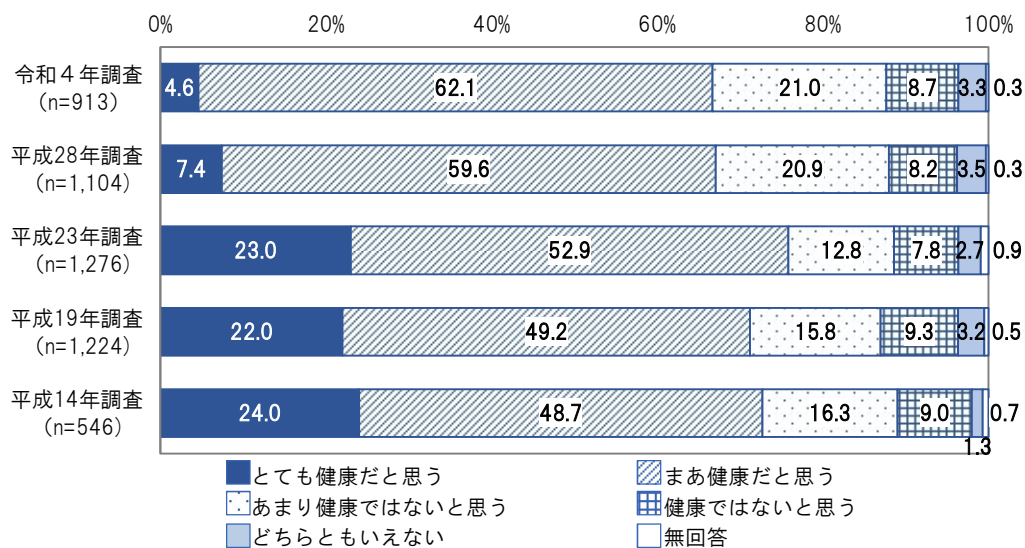
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて『健康だと思う』が高くなっており、39 歳以下では7割を超えている。
- 一方で、65 歳以上では『健康ではないと思う』が 34.6%と3割を超えており、その他の年代に比べて高くなっている。



《経年比較》

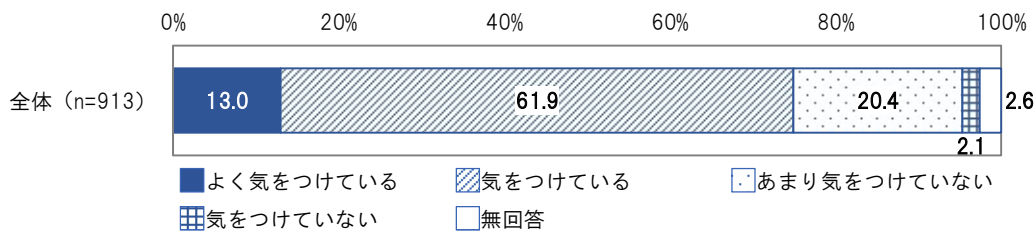
- 経年で比較すると、「とても健康だと思う」が、平成28年調査の7.4%から2.8ポイント減少しているものの、「まあ健康だと思う」と合わせた『健康だと思う』はほぼ同程度となっている。
- また、『健康ではないと思う』も平成28年調査とほぼ同程度となっている。



(2) 健康に気をつけているか

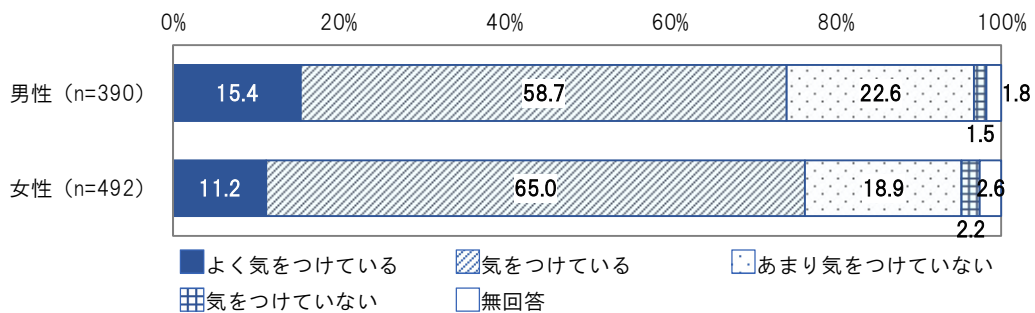
問 18 あなたは、ふだん健康に気をつけていますか。(○は1つだけ)

- 健康に気をつけているかは、「気をつけている」が 61.9%と6割を超えて最も高く、「よく気をつけている」(13.0%) と合わせると『気をつけている』が7割を超えている。
- 一方で、「あまり気をつけていない」(20.4%) と「気をつけていない」(2.1%) を合わせた『気をつけていない』は2割を超えている。



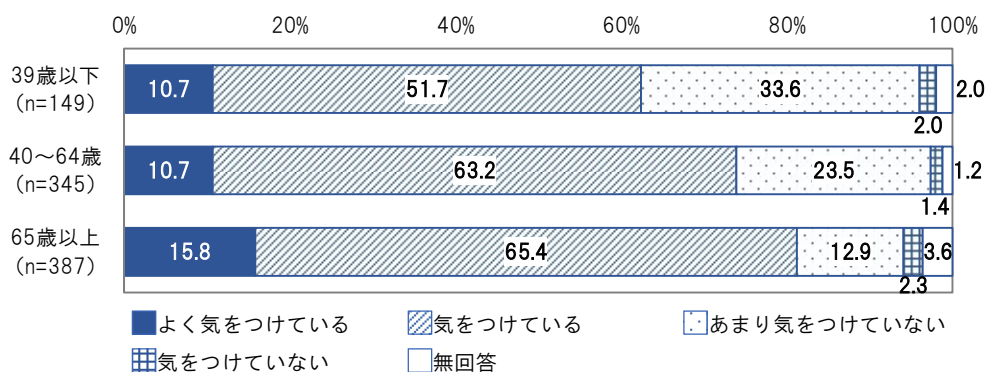
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『気をつけている』がやや高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『気をつけている』が高くなっており、65歳以上では8割を超えている。
- 一方で、39歳以下では『気をつけていない』が35.6%と3割を超えており、その他の年代に比べてやや高くなっている。

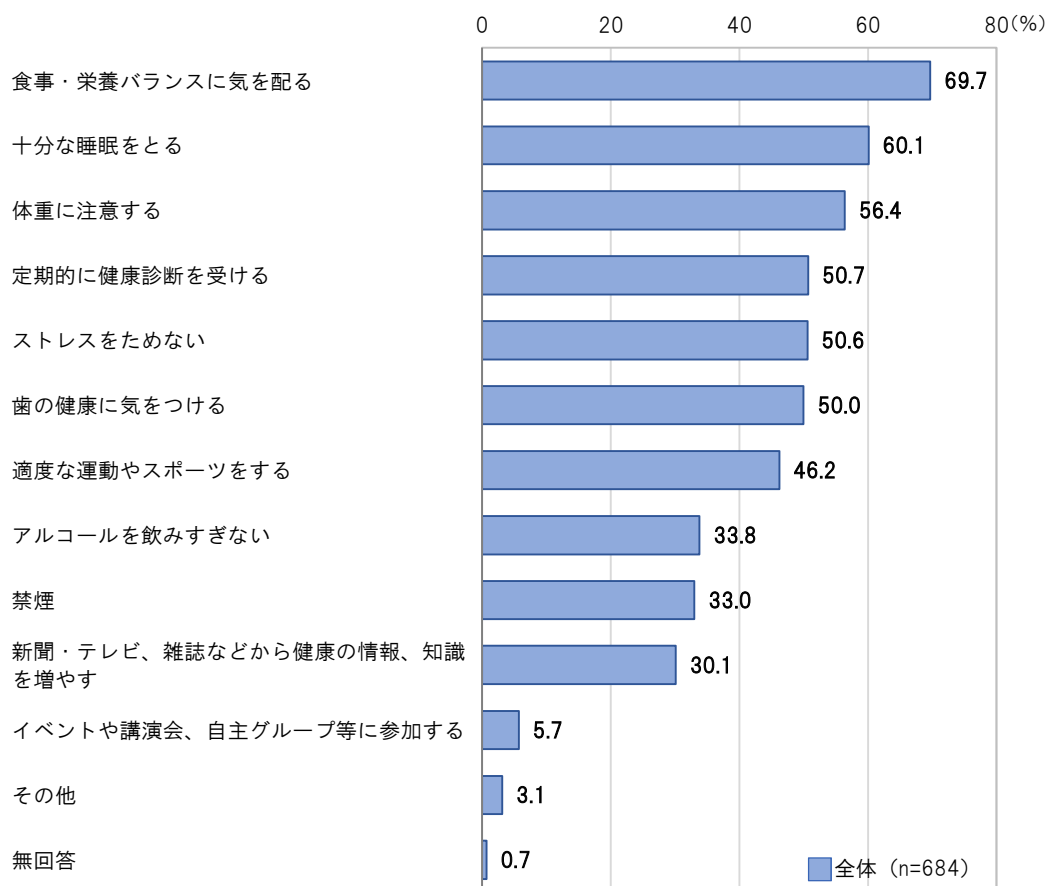


(3) 健康に気をつけている内容

※(2)で「よく気をつけている」または「気をつけている」と回答した人のみ

問18で「よく気をつけている」「気をつけている」と答えた方におたずねします。
問18-1 以下のことであてはまるものはありますか。(○はあてはまるものすべて)

・健康に気をつけている内容については、「食事・栄養バランスに気を配る」が69.7%と約7割を占めて最も高く、次いで「十分な睡眠をとる」(60.1%)、「体重に注意する」(56.4%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「定期的に健康診断を受ける」や「適度な運動やスポーツをする」、「禁煙」などで女性に比べて高く、女性では「食事・栄養バランスに気を配る」や「歯の健康に気をつける」、「新聞・テレビ、雑誌などから健康の情報、知識を増やす」などで男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「禁煙」や「食事・栄養バランスに気を配る」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「定期的に健康診断を受ける」や「ストレスをためない」、「歯の健康に気をつける」などの回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数 (人)	食事・ 栄養バ ランス に気配 る	十分 な睡 眠を とる	体 重に 注 意す る	定 期 的 に 健 康 診 断 を 受 け る	ス ト レ ス を た め な い	歯 の 健 康 に 気 を つ け る
性別	男性	289	60.2	57.4	58.1	53.3	50.5	45.0
	女性	375	77.3	63.2	54.9	49.3	50.9	54.4
年代別	39歳以下	93	75.3	67.7	55.9	25.8	41.9	45.2
	40～64歳	255	68.2	55.7	55.3	53.7	51.0	51.0
	65歳以上	314	68.8	62.7	57.3	57.0	52.9	51.0

		適 度 な 運 動 や ス ポ ー ツ を す る	ア ル コ ー ル を 飲 み す ぎ な い	禁 煙	新 聞 ・ テ レ ビ 、 雑 誌 な ど か ら 健 康 の 情 報 、 知 識 を 増 や す	イ ベ ン ト や 講 演 会 、 自 主 グ ル ー プ 等 に 参 加 す る	そ の 他	無 回 答
(つづき)								
性別	男性	50.2	36.3	40.8	24.2	3.8	2.1	0.3
	女性	43.7	31.5	27.2	34.7	7.5	3.7	0.8
年代別	39歳以下	46.2	33.3	39.8	14.0	2.2	-	-
	40～64歳	45.1	35.7	32.9	23.9	5.5	2.4	1.2
	65歳以上	48.1	31.8	31.5	40.1	7.3	4.5	0.6

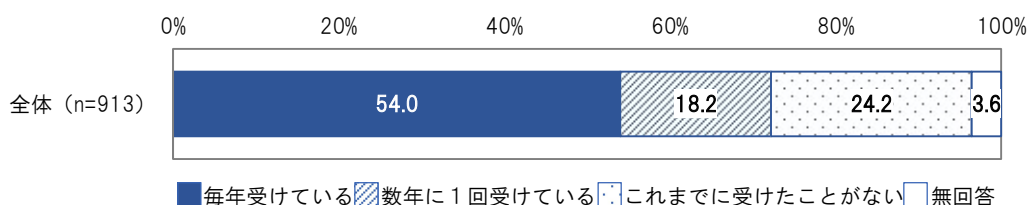
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

5. 健康診査などについて

(1) 生活習慣病の健診等の受診状況

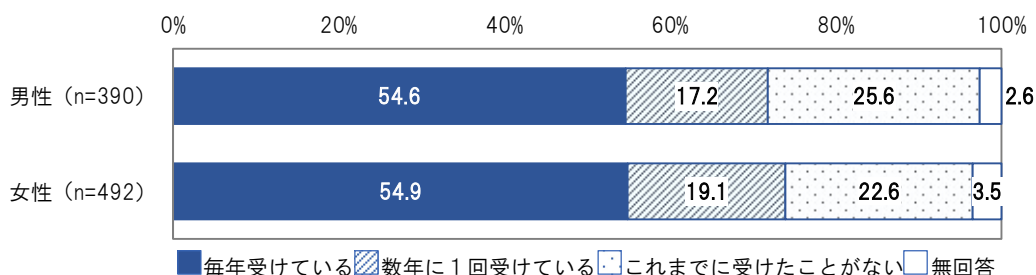
問 19 生活習慣病の健診等を受診していますか。(○は1つだけ)

- 生活習慣病の健診等の受診状況は、「毎年受けている」が54.0%と半数を超えて最も高くなっている。
- 一方で、「これまでに受けたことがない」が24.2%と2割を超え、「数年に1回受けている」(18.2%)と合わせた『毎年は受けていない』が4割を超えている。



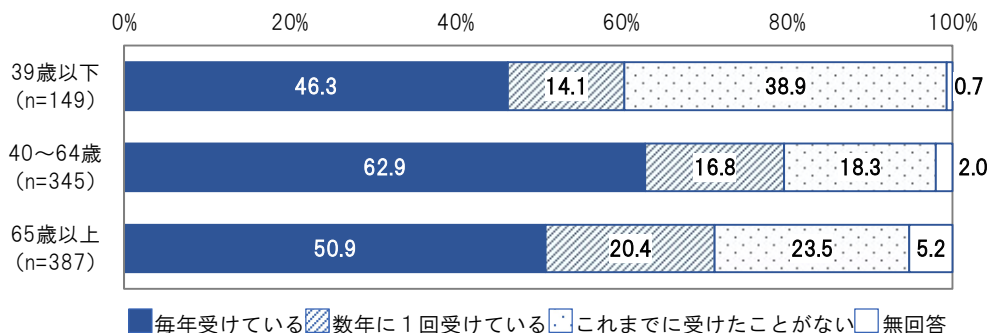
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で「これまでに受けたことがない」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、「毎年受けている」が40～64歳で62.9%と6割を超えて最も高く、39歳以下で46.3%と最も低くなっている。
- また、39歳以下では「これまでに受けたことがない」が38.9%と4割近くを占めており、その他の年代に比べて高くなっている。



(1) -① 生活習慣病の健診等を受診した機会

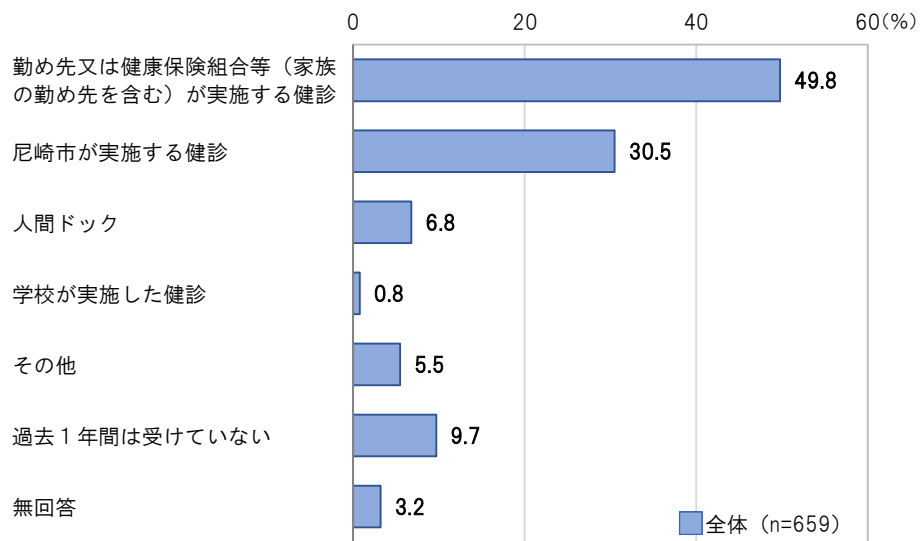
※ (1) で「毎年受けている」または「数年に1回受けている」と回答した人のみ

問 19 で「毎年受けている」、「数年に1回受けている」と答えた方におたずねします。

問 19-1 ①過去1年間において、どのような機会に生活習慣病の健診等を受診しましたか。

(○はあてはまるものすべて)

- 生活習慣病の健診等を受診した機会については、「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」が 49.8%と約半数を占めて最も高く、次いで「尼崎市が実施する健診」（30.5%）となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「尼崎市が実施する健診」で女性に比べてやや高くなっている。
- 年代別にみると、64歳以下では「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」、65歳以上では「尼崎市が実施する健診」が最も高くなっている。
- また、概ね年代が下がるにつれて「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「尼崎市が実施する健診」が高くなる傾向がみられる。

		回答者数 (人)	勤め先又は健康保険組合等 (家族の勤め先を含む) が実施する健診	尼崎市が実施する健診	人間ドック	学校が実施した健診	その他	過去1年間は受けていない	無回答
性別	男性	280	48.9	33.6	8.6	0.7	6.8	7.9	1.1
	女性	364	51.1	28.6	5.8	0.8	4.1	11.0	4.1
年代別	39歳以下	90	78.9	10.0	2.2	3.3	-	7.8	-
	40～64歳	275	70.9	16.0	9.1	-	1.5	7.3	0.7
	65歳以上	276	19.9	52.5	6.2	0.7	10.5	13.0	5.8

※ 1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

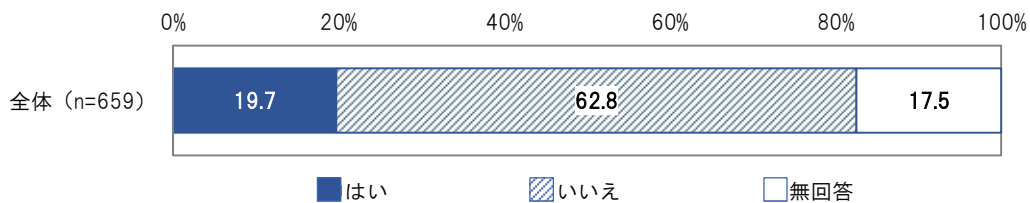
(1) -② 保健指導を受けたかどうか

※ (1) で「毎年受けている」または「数年に1回受けている」と回答した人のみ

問 19 で「毎年受けている」、「数年に1回受けている」と答えた方におたずねします。

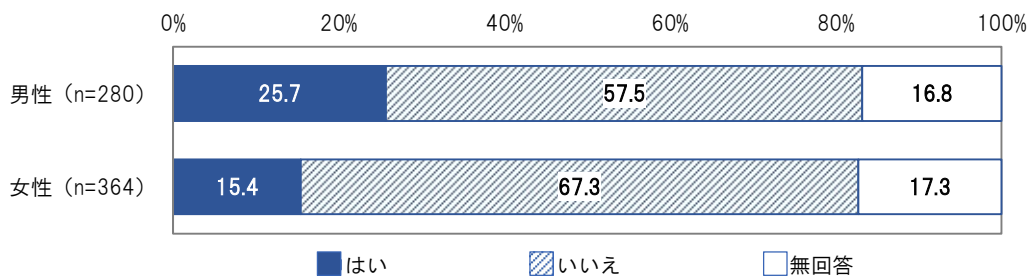
問 19-1 ②過去1年間に、健康診査のあとに、保健指導を受けましたか。(○は1つだけ)

- 保健指導を受けたかどうかは、「いいえ (受けていない)」が 62.8%と6割を超え、「はい (受けた)」は約2割 (19.7%) となっている。



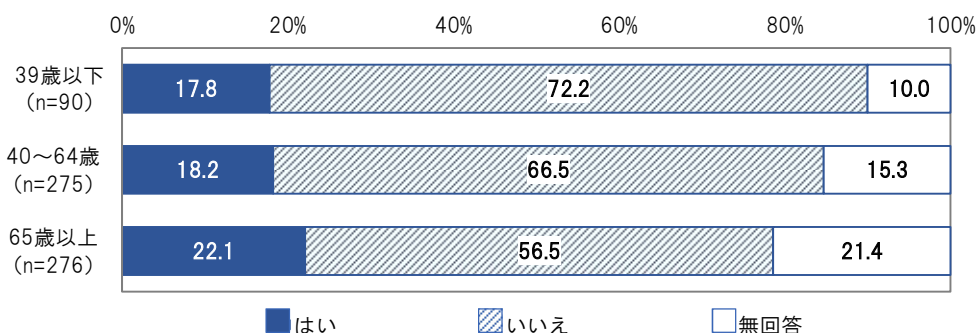
《性別》

- 性別にみると、男性では「はい (受けた)」が 25.7%と2割を超え、女性 (15.4%) を約 10 ポイント上回っている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「はい (受けた)」がやや高くなっており、65歳以上では2割を超えている。
- また、39歳以下では「いいえ (受けていない)」が72.2%と7割を超えている。

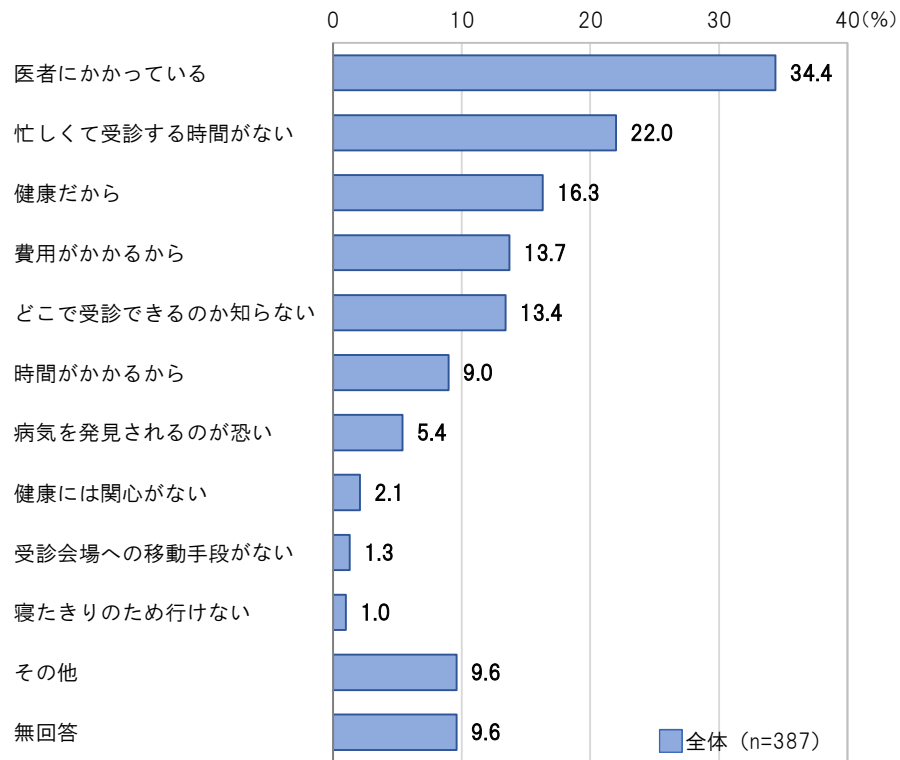


(1) -③ 健診等を受診しなかった理由

※ (1) で「数年に1回受けている」または「これまでに受けたことがない」と回答した人のみ

問19で「数年に1回受けている」「これまでに受けたことがない」と答えた方におたずねします。
 問19-2 受診しなかった理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

・健診等を受診しなかった理由は、「医者にかかっている」が34.4%と3割を超えて最も高く、次いで「忙しくて受診する時間がない」(22.0%)、「健康だから」(16.3%)の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、男性では「医者にかかっている」で女性に比べて高く、女性では「忙しくて受診する時間がない」や「時間がかかるから」で男性に比べて高くなっている。
- ・年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「健康だから」や「費用がかかるから」、「どこで受診できるのか知らない」、「時間がかかるから」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「医者にかかっている」が高くなる傾向がみられる。

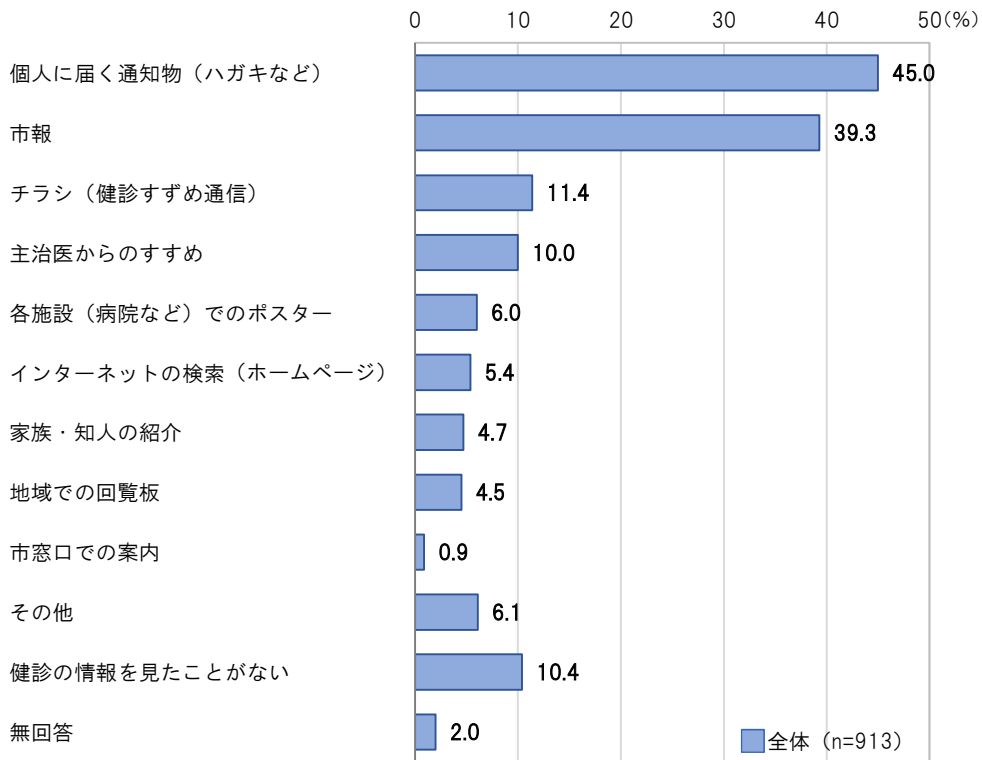
		回答者数(人)	医者にかかっている	忙しくて受診する時間がない	健康だから	費用がかかるから	どこで受診できるのか知らない	時間がかかるから	病気を発見されるのが怖い	健康には関心がない	受診会場への移動手段がない	寝たきりのため行けない	その他	無回答
性別	男性	167	45.5	16.8	15.0	12.6	14.4	6.0	5.4	2.4	1.8	-	7.2	9.6
	女性	205	26.8	24.4	17.6	14.6	13.2	12.2	5.4	2.0	-	1.5	11.2	8.8
年代別	39歳以下	79	3.8	27.8	32.9	35.4	36.7	13.9	3.8	3.8	-	-	6.3	1.3
	40～64歳	121	25.6	27.3	13.2	11.6	9.1	9.9	7.4	2.5	0.8	1.7	14.9	13.2
	65歳以上	170	56.5	14.7	10.0	4.7	6.5	6.5	5.3	1.2	1.2	0.6	7.6	8.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 健診に関する情報の入手先

問 20 あなたは、健診の情報をどこで知りましたか。(〇はあてはまるものすべて)

- 健診に関する情報の入手先は、「個人に届く通知物（ハガキなど）」が 45.0%と4割を超えて最も高く、次いで「市報」（39.3%）、「チラシ（健診すすめ通信）」（11.4%）の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「主治医からのすすめ」で女性に比べてやや高く、女性では「個人に届く通知物（ハガキなど）」で男性に比べてやや高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「市報」や「チラシ（健診すすめ通信）」、「主治医からのすすめ」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が下がるにつれて「インターネットの検索（ホームページ）」が高くなる傾向がみられる。また、39歳以下で「健診の情報を見たことがない」が3割を超えている。

		回答者数 (人)	個人に届く通知物 (ハガキなど)	市報	チラシ (健診すすめ通信)	主治医からのすすめ	各施設 (病院など) でのポスター	インターネットの検索 (ホームページ)	家族・知人の紹介	地域での回覧板	市窓口での案内	その他	健診の情報を見たことがない	無回答
性別	男性	390	40.3	39.2	9.7	13.6	6.9	5.9	4.9	3.8	1.3	5.6	12.3	0.5
	女性	492	49.0	40.4	12.8	6.9	5.5	5.1	4.5	5.1	0.6	6.7	8.7	2.2
年代別	39歳以下	149	22.8	20.1	6.0	2.0	4.0	10.1	10.7	0.7	0.7	3.4	34.9	-
	40～64歳	345	52.2	37.1	12.2	4.6	4.6	7.5	2.3	3.2	0.3	8.7	9.3	1.4
	65歳以上	387	48.1	49.6	12.9	17.6	8.0	1.8	4.9	7.0	1.6	4.7	2.3	2.1

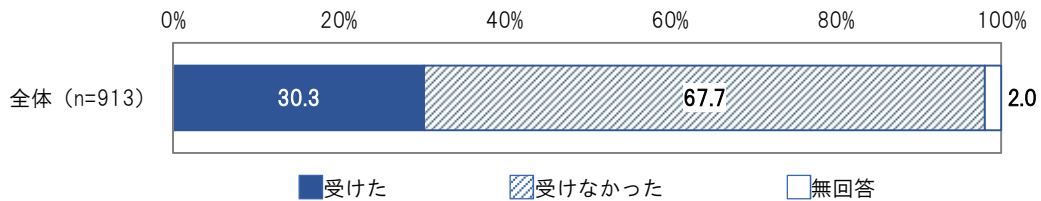
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

6. がん検診などについて

(1) 胃がん検診の受診状況

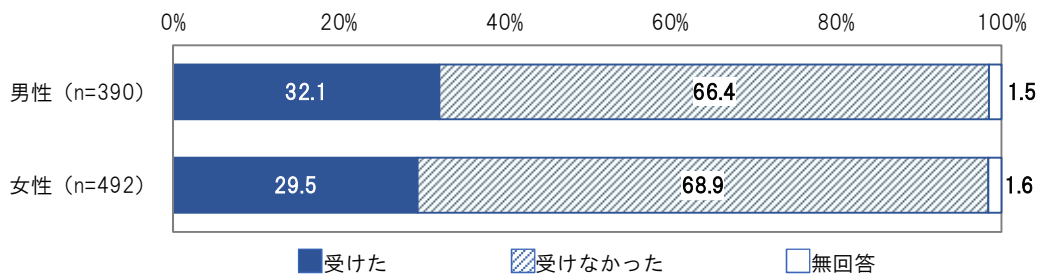
問 21 ①過去1年間に胃がん検診を受けましたか。(○は1つだけ)

- 胃がん検診の受診状況は、「受けなかった」が67.7%と7割近くを占めており、「受けた」は約3割(30.3%)となっている。



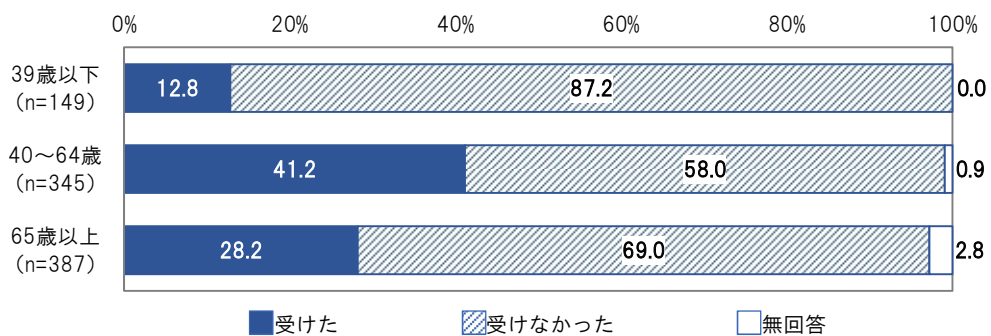
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で「受けた」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、「受けた」が40～64歳で41.2%と4割を超えて最も高く、最も低い39歳以下では1割程度(12.8%)となっている。

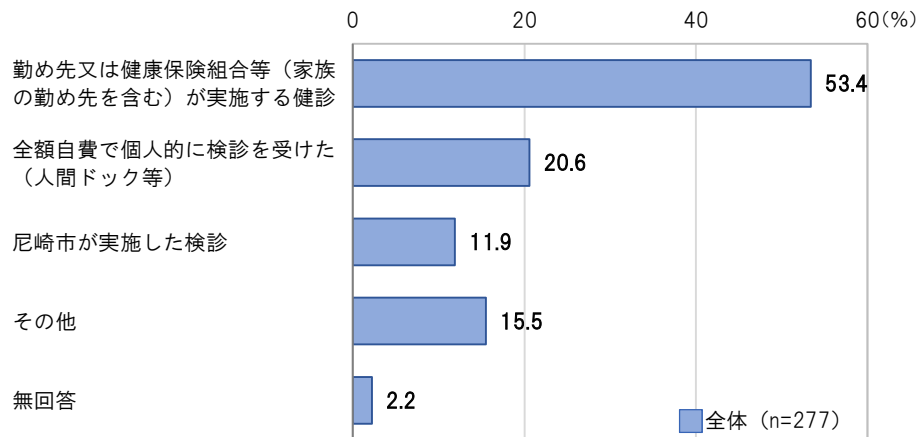


(1) -① 胃がん検診の受診機会

※ (1) で「受けた」と回答した人のみ

問 21 ②どのような機会に検診を受けましたか。(○はあてはまるものすべて)

- 胃がん検診の受診機会については、「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」が 53.4%と半数を超えて最も高く、次いで「全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）」（20.6%）、「尼崎市が実施した検診」（11.9%）の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。
- 年代別にみると、64 歳以下では「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」、65 歳以上では「全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）」が最も高くなっている。
- その他、65 歳以上では「尼崎市が実施した検診」が、その他の年代に比べて高くなっている。

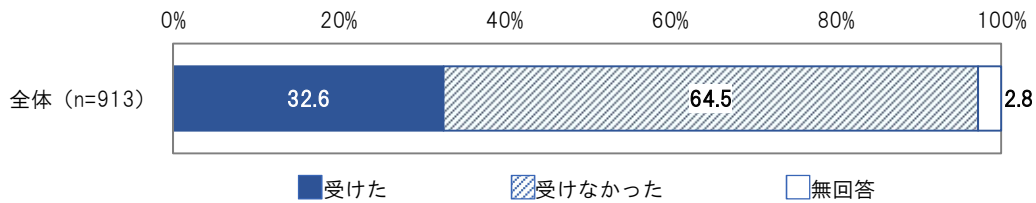
		回答者数 (人)	勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診 (%)	全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等） (%)	尼崎市が実施した検診 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
性別	男性	125	52.8	20.8	13.6	13.6	2.4
	女性	145	55.9	19.3	10.3	17.2	1.4
年代別	39歳以下	19	63.2	26.3	10.5	-	-
	40～64歳	142	80.3	12.0	6.3	4.9	-
	65歳以上	109	18.3	29.4	19.3	32.1	4.6

※ 1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 大腸がん検診の受診状況

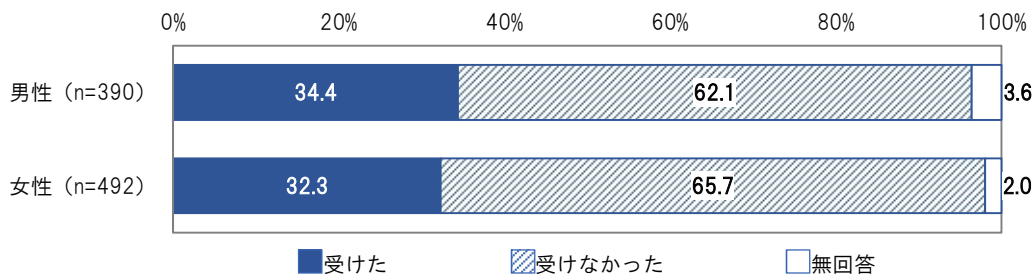
問 22 ①過去1年間に大腸がん検診を受けましたか。(○は1つだけ)

- 大腸がん検診の受診状況は、「受けなかった」が64.5%と6割を超えており、「受けた」は3割程度(32.6%)となっている。



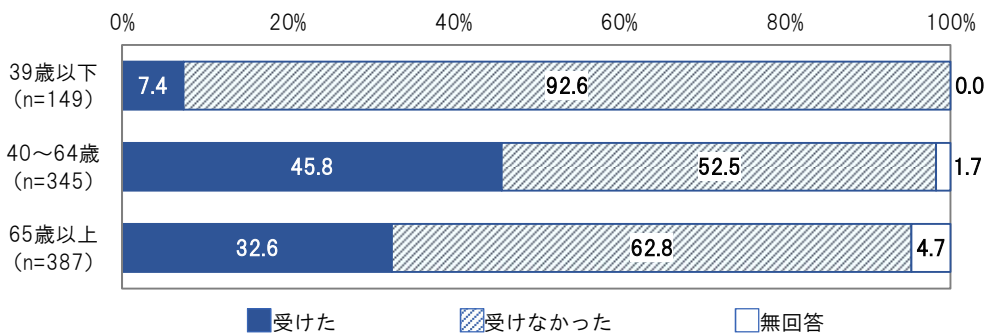
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で「受けた」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、「受けた」が40～64歳で45.8%と4割を超えて最も高く、最も低い39歳以下では1割未満(7.4%)となっている。

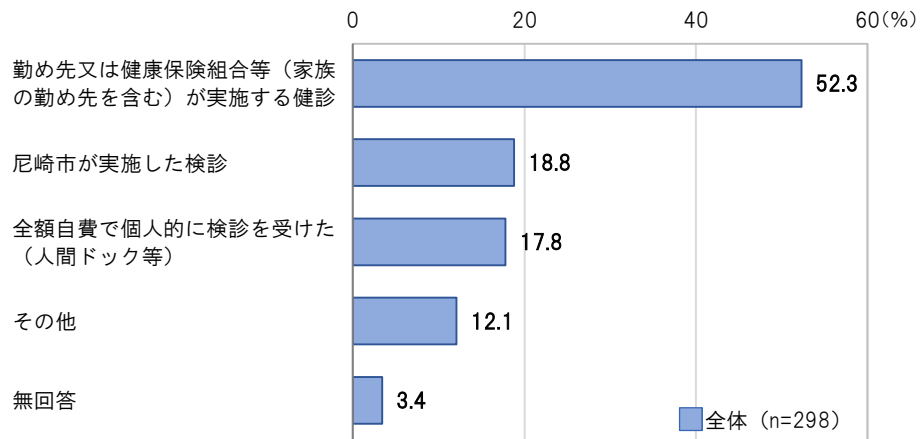


(2) -① 大腸がん検診の受診機会

※ (2) で「受けた」と回答した人のみ

問 22 ②どのような機会に検診を受けましたか。(○はあてはまるものすべて)

- ・大腸がん検診の受診機会については、「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」が52.3%と半数を超えて最も高く、次いで「尼崎市が実施した検診」（18.8%）、「全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）」（17.8%）の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、大きな差異はみられない。
- ・年代別にみると、64 歳以下では「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」、65 歳以上では「尼崎市が実施した検診」が最も高くなっている。

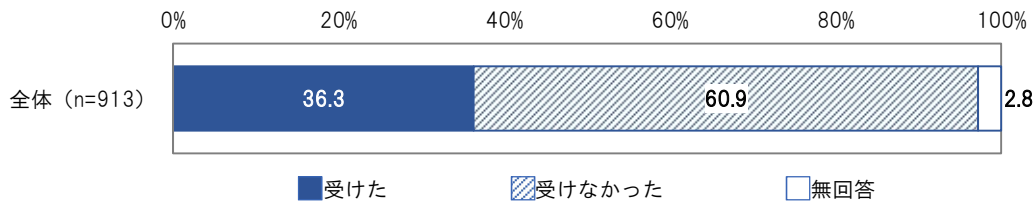
		回答者数 (人)	勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診	尼崎市が実施した検診	全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）	その他	無回答
性別	男性	134	50.7	19.4	18.7	11.9	3.7
	女性	159	52.8	18.9	17.0	12.6	3.1
年代別	39歳以下	11	63.6	9.1	27.3	-	-
	40～64歳	158	79.1	9.5	10.8	3.8	0.6
	65歳以上	126	16.7	31.7	25.4	23.8	7.1

※ 1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 肺がん検診の受診状況

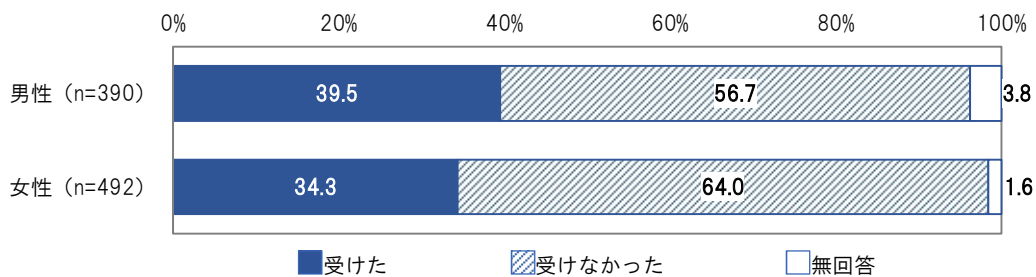
問 23 ①過去1年間に肺がん検診を受けましたか。(○は1つだけ)

・肺がん検診の受診状況は、「受けなかった」が60.9%と約6割を占めており、「受けた」は36.3%となっている。



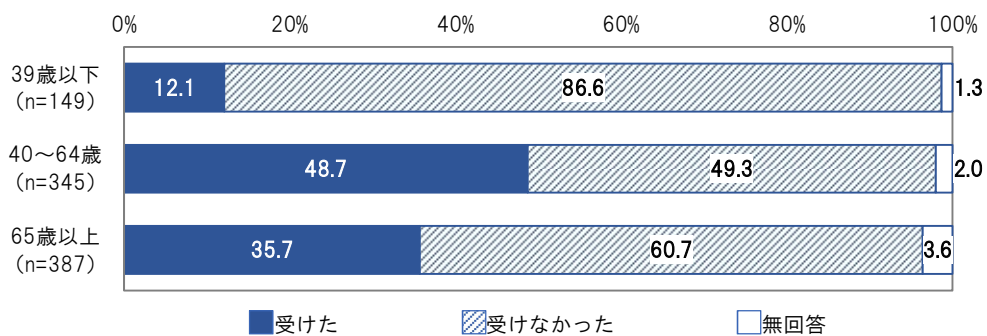
《性別》

・性別にみると、女性に比べて男性で「受けた」が高くなっている。



《年代別》

・年代別にみると、「受けた」が40～64歳で48.7%と半数近くを占めて最も高く、最も低い39歳以下では1割程度（12.1%）となっている。

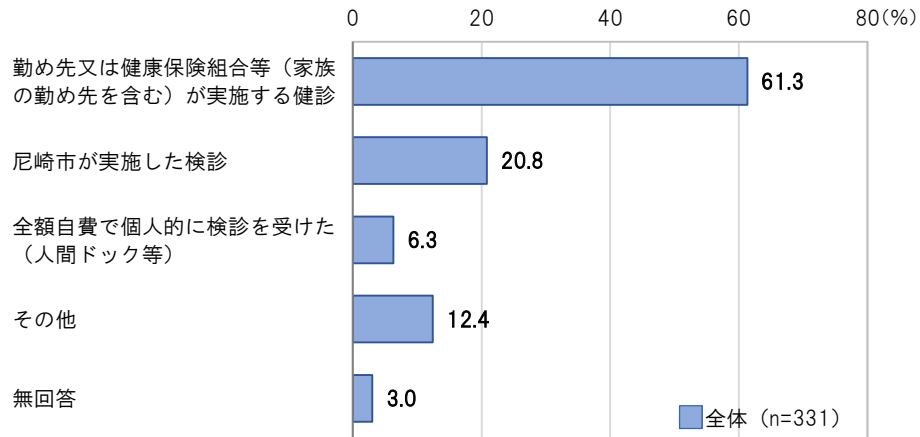


(3) -① 肺がん検診の受診機会

※ (3) で「受けた」と回答した人のみ

問 23 ②どのような機会に検診を受けましたか。(○はあてはまるものすべて)

- 肺がん検診の受診機会については、「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」が61.3%と6割を超えて最も高く、次いで「尼崎市が実施した検診」（20.8%）、「全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）」（6.3%）の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、女性では「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」で男性に比べてやや高くなっている。
- 年代別にみると、64歳以下では「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」、65歳以上では「尼崎市が実施した検診」が最も高くなっている。

		回答者数 (人)	勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診	尼崎市が実施した検診	全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）	その他	無回答
性別	男性	154	57.1	22.1	8.4	12.3	3.2
	女性	169	66.3	19.5	4.7	12.4	1.8
年代別	39歳以下	18	100.0	-	-	-	-
	40～64歳	168	87.5	8.3	3.0	2.4	0.6
	65歳以上	138	26.1	38.4	11.6	26.1	5.1

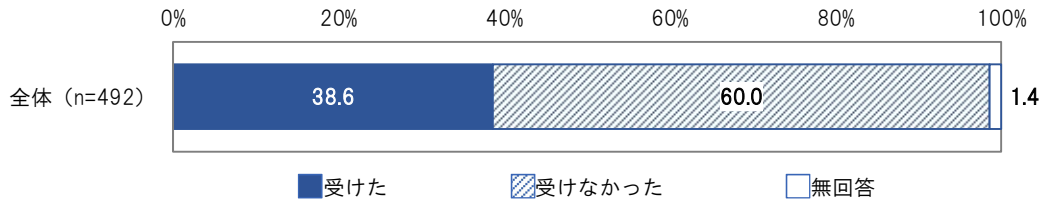
※ 1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) 子宮頸がん検診の受診状況

【女性の方におたずねします】

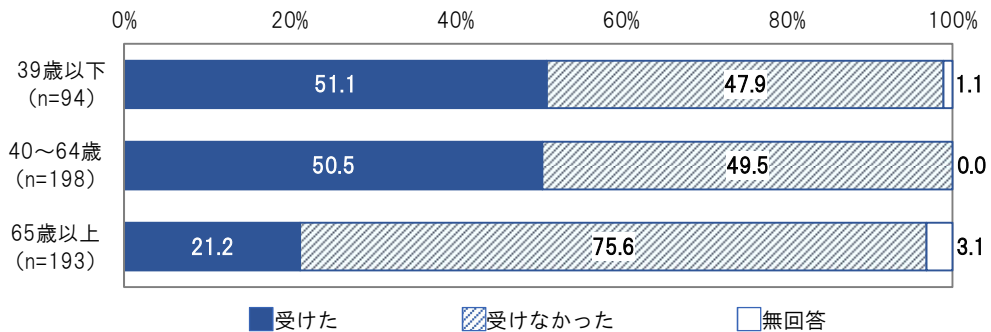
問 24 ①過去2年間に子宮頸がん検診を受けましたか。(○は1つだけ)

・子宮頸がん検診の受診状況は、「受けなかった」が60.0%と6割を占めており、「受けた」は38.6%となっている。



《年代別》

・年代別にみると、「受けた」が64歳以下でともに半数程度となっている。

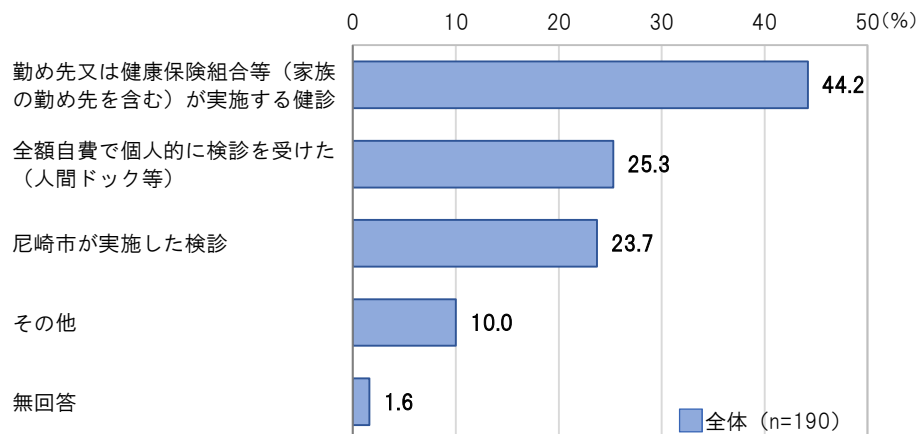


(4) -① 子宮頸がん検診の受診機会

※(4)で「受けた」と回答した人のみ

問 24 ②どのような機会に検診を受けましたか。(○はあてはまるものすべて)

・子宮頸がん検診の受診機会については、「勤め先又は健康保険組合等(家族の勤め先を含む)が実施する健診」が44.2%と4割を超えて最も高く、次いで「全額自費で個人的に検診を受けた(人間ドック等)」(25.3%)、「尼崎市が実施した検診」(23.7%)の順となっている。

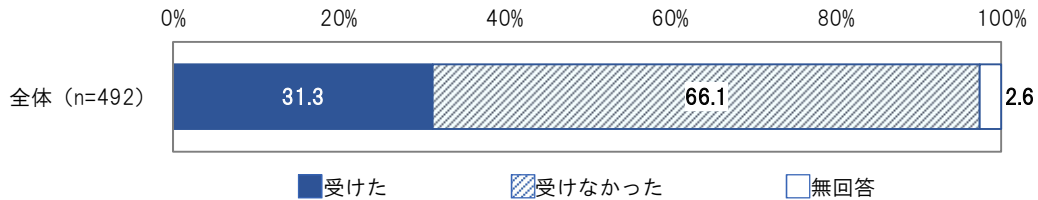


(5) 乳がん検診の受診状況

【女性の方におたずねします】

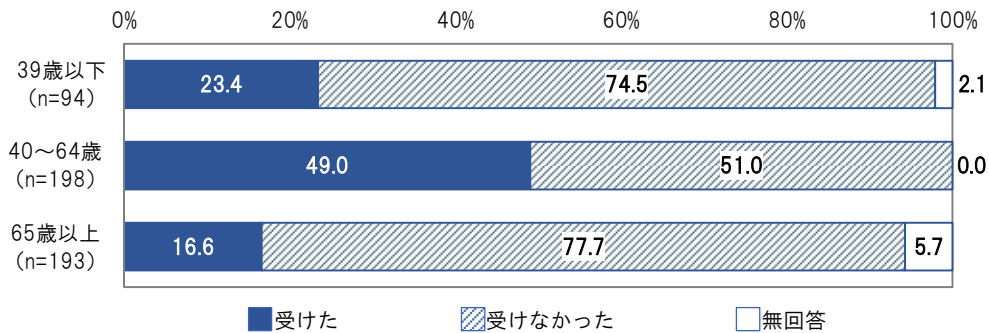
問 25 ①過去2年間に乳がん検診を受けましたか。(○は1つだけ)

- ・乳がん検診の受診状況は、「受けなかった」が66.1%と6割を超えており、「受けた」は31.3%となっている。



《年代別》

- ・年代別にみると、「受けた」が40～64歳で49.0%と半数近くを占めて最も高く、39歳以下では2割程度（23.4%）となっている。

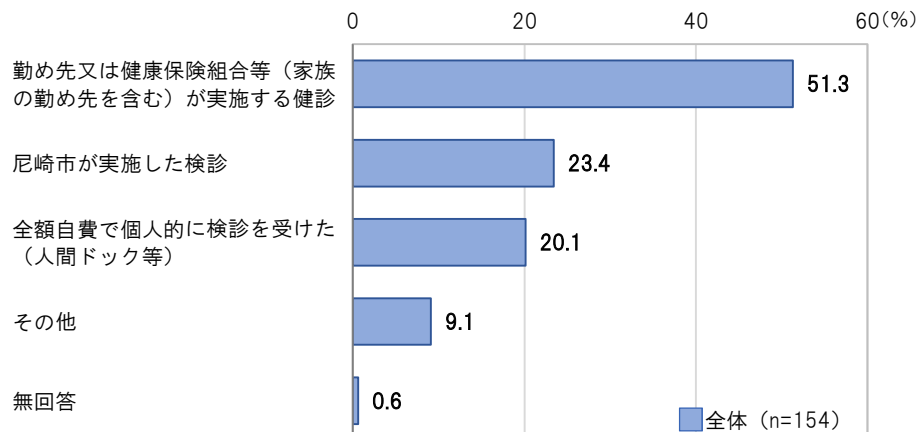


(5) -① 乳がん検診の受診機会

※ (5) で「受けた」と回答した人のみ

問 25 ②どのような機会に検診を受けましたか。(○はあてはまるものすべて)

- ・乳がん検診の受診機会については、「勤め先又は健康保険組合等（家族の勤め先を含む）が実施する健診」が51.3%と半数を超えて最も高く、次いで「尼崎市が実施した検診」（23.4%）、「全額自費で個人的に検診を受けた（人間ドック等）」（20.1%）の順となっている。



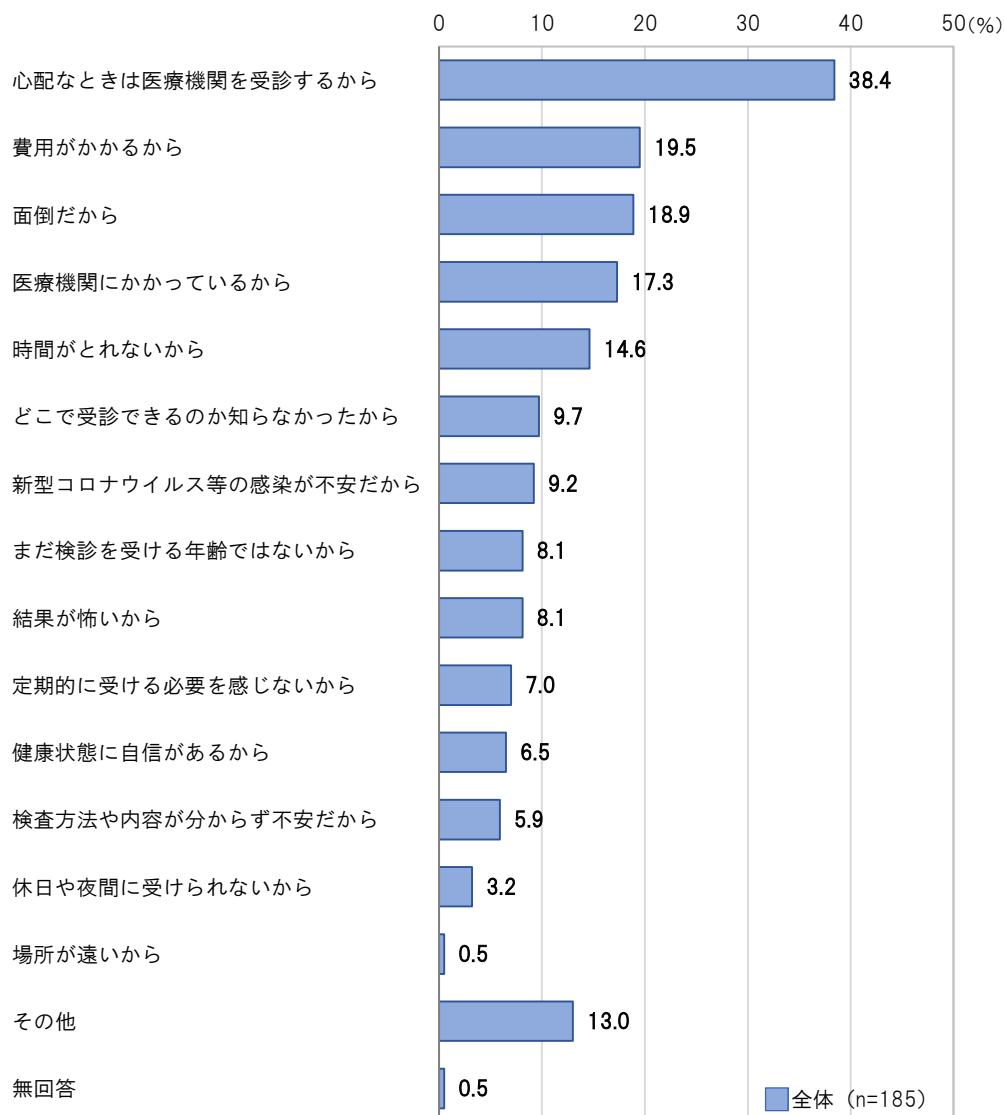
(6) がん検診を受診しなかった理由

※(1)～(5)のすべてに「受けなかった」と回答した人のみ

問21～問25にあげられた「がん検診」をまったく受診しなかった方におたずねします。

問26 受診しなかった理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

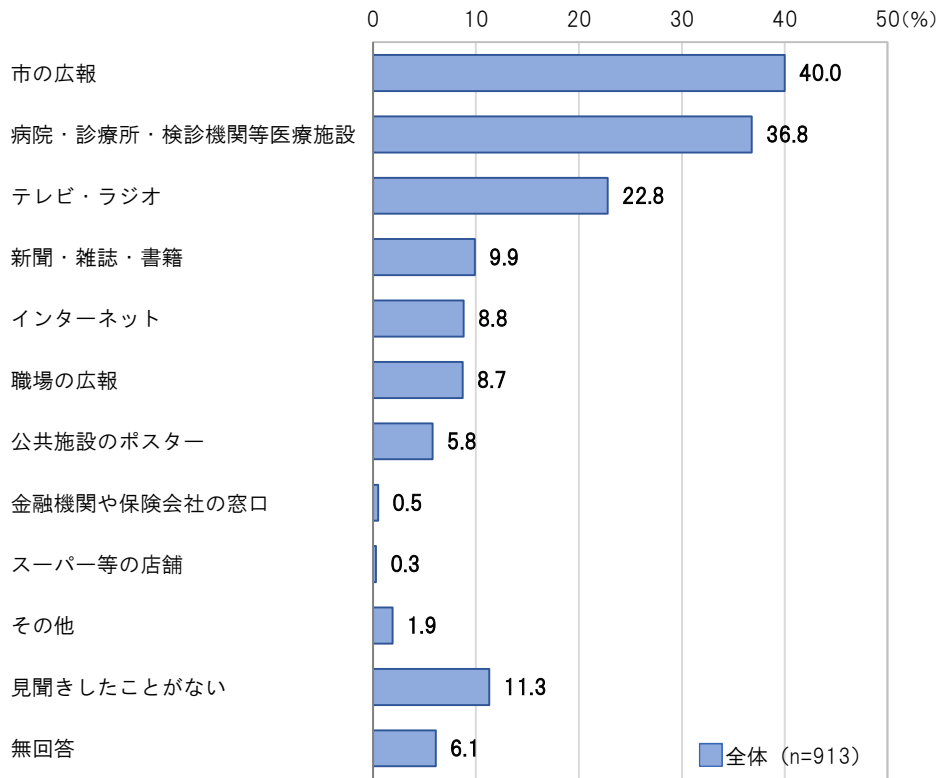
- がん検診を受診しなかった理由は、「心配なときは医療機関を受診するから」が38.4%と4割近くを占めて最も高く、次いで「費用がかかるから」(19.5%)、「面倒だから」(18.9%)、「医療機関にかかっているから」(17.3%)、「時間がとれないから」(14.6%)の順となっている。



(7) がん検診を勧める情報を見聞きした場所

問 27 がん検診を勧める情報をどこで見聞きしましたか。(〇はあてはまるものすべて)

・がん検診を勧める情報を見聞きした場所は、「市の広報」が40.0%と4割を占めて最も高く、次いで「病院・診療所・検診機関等医療施設」(36.8%)、「テレビ・ラジオ」(22.8%)の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、女性では「市の広報」や「テレビ・ラジオ」などで男性に比べてやや高くなっている。
- ・年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「市の広報」や「病院・診療所・検診機関等医療施設」、「新聞・雑誌・書籍」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が下がるにつれて「インターネット」が高くなる傾向がみられる。

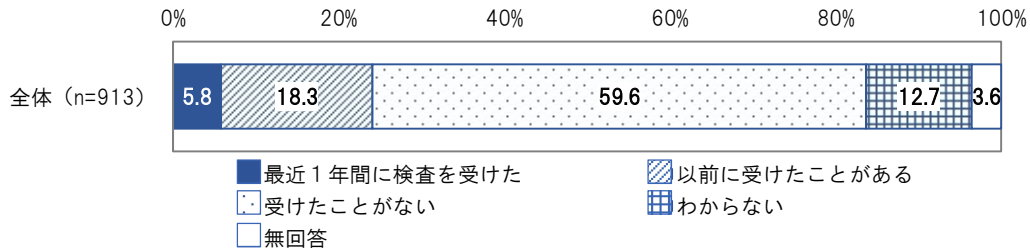
		回答者数 (人)	市の広報	病院・診療所・検診機関等医療施設	テレビ・ラジオ	新聞・雑誌・書籍	インターネット	職場の広報	公共施設のポスター	金融機関や保険会社の窓口	スーパー等の店舗	その他	見聞きしたことがない	無回答
性別	男性	390	34.6	35.9	18.5	10.8	7.7	7.9	4.6	0.3	0.3	1.0	15.4	9.0
	女性	492	44.9	37.4	26.2	9.3	10.0	9.8	6.3	0.6	0.2	2.4	7.9	3.5
年代別	39歳以下	149	25.5	24.8	24.8	2.7	19.5	7.4	4.7	0.7	-	-	25.5	2.0
	40～64歳	345	42.0	34.8	23.5	7.5	12.2	16.2	4.6	0.6	0.6	2.6	11.0	2.3
	65歳以上	387	44.7	43.7	21.2	15.0	2.3	2.8	7.0	0.5	0.3	1.8	5.9	10.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(8) 肝炎ウイルス検査の受診状況

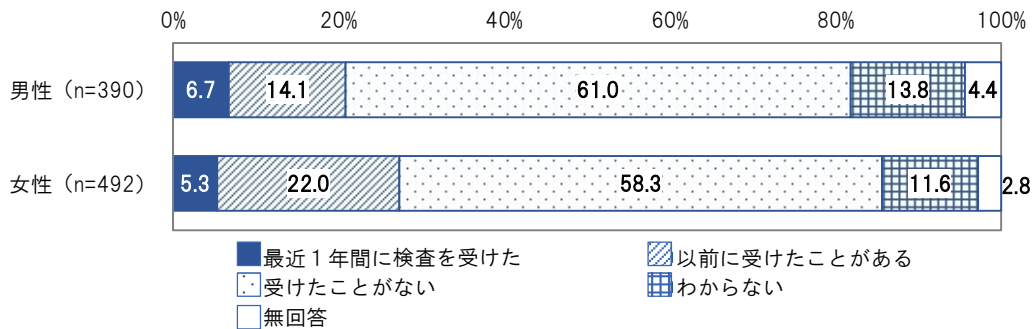
問 28 ①あなたは、肝炎ウイルス検査を受けたことがありますか。(○は1つだけ)

- 肝炎ウイルス検査の受診状況は、「受けたことがない」が59.6%と約6割を占めている。
- 一方で、「最近1年間に検査を受けた」(5.8%)と「以前に受けたことがある」(18.3%)を合わせた『受けたことがある』は2割程度となっている。



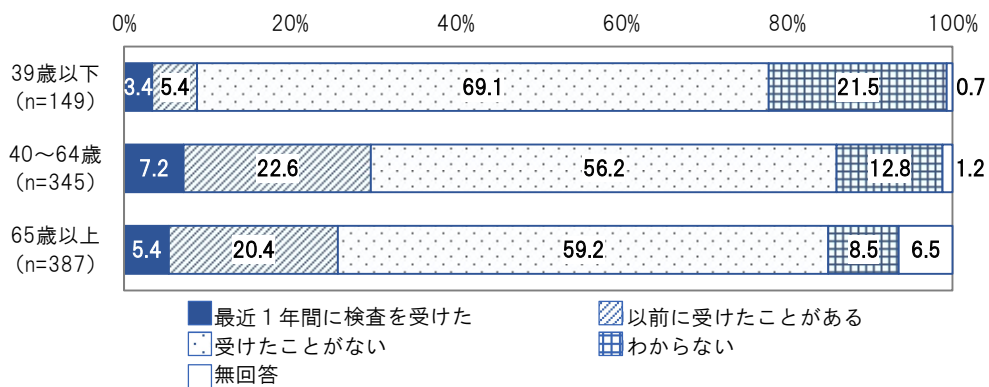
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『受けたことがある』が高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、『受けたことがある』が40～64歳で29.8%と約3割を占めて最も高く、最も低い39歳以下では1割未満(8.8%)となっている。



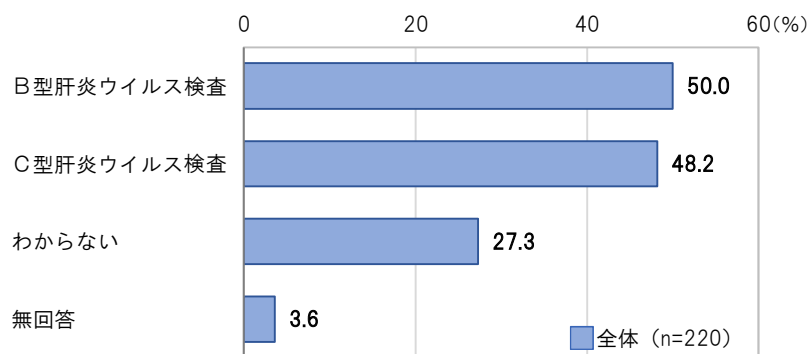
(8) -① 肝炎ウイルス検査の検査項目

※(8)で「最近1年間に検査を受けた」または「以前に受けたことがある」と回答した人のみ

肝炎ウイルス検査を受けたことがある方におたずねします。

問 28 ②検査項目はどれでしたか。(○はあてはまるものすべて)

- 肝炎ウイルス検査の検査項目は、「B型肝炎ウイルス検査」が50.0%と半数を占めて最も高く、次いで「C型肝炎ウイルス検査」が48.2%となっている。

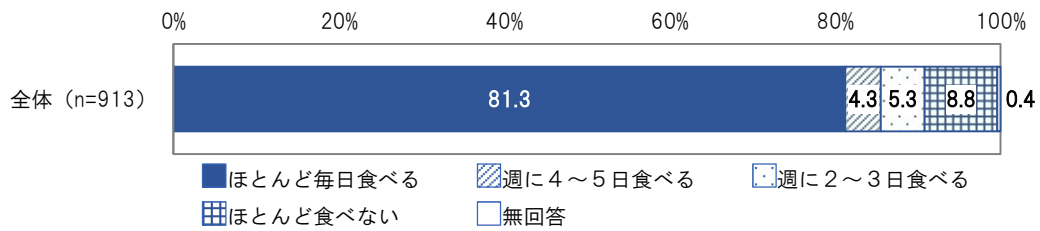


7. 栄養・食生活習慣について

(1) 朝食の摂取状況

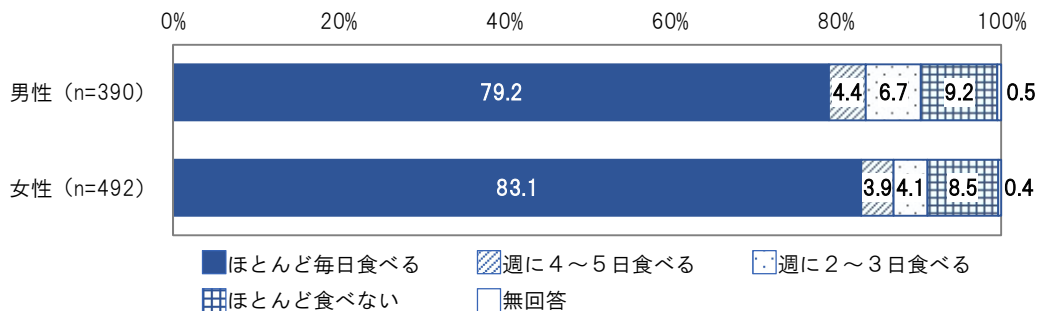
問 29 あなたは、朝食を食べますか。(○は1つだけ)

- 朝食の摂取状況は、「ほとんど毎日食べる」が81.3%と8割を超えて最も高くなっている。



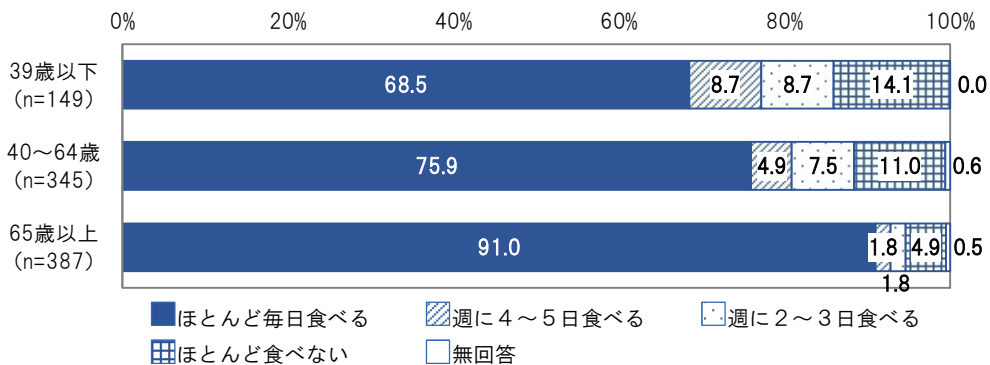
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で「ほとんど毎日食べる」がやや低くなっている。



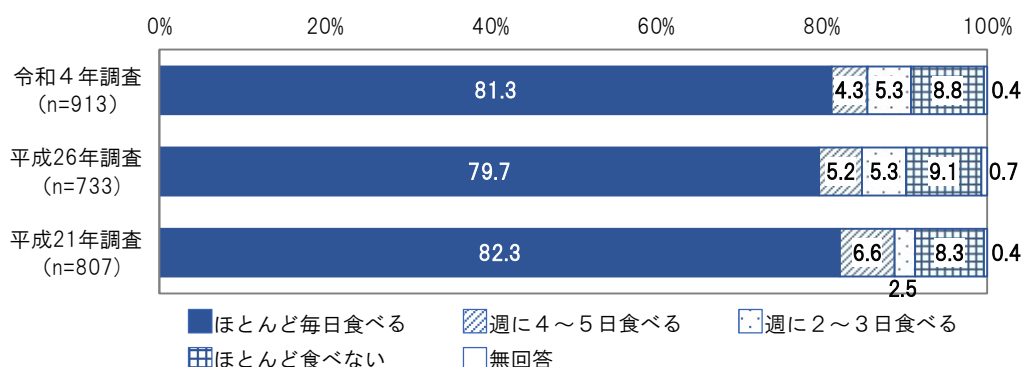
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「ほとんど毎日食べる」が低くなっており、65歳以上では9割以上(91.0%)となっているのに対し、39歳以下では7割未満(68.5%)となっている。また、年代が下がるにつれて「ほとんど食べない」が高くなっており、64歳以下では1割を超えている。



《経年比較》 ※平成21年調査、平成26年調査は「食育市民アンケート調査」

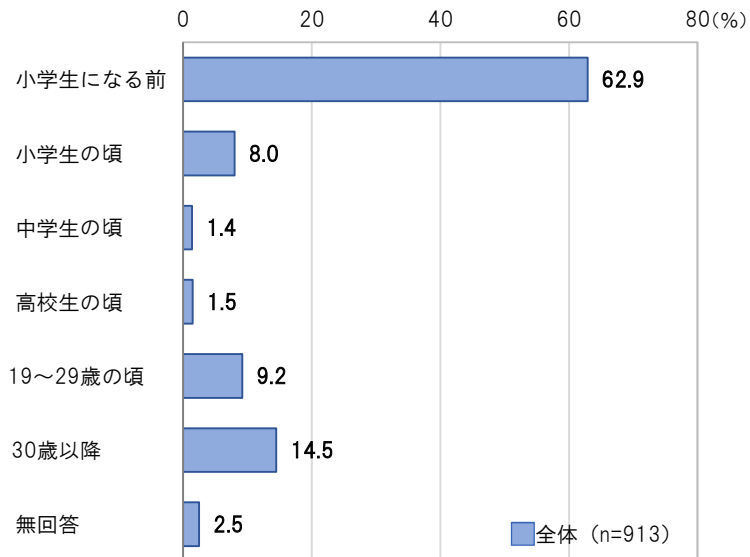
- 経年で比較すると、「ほとんど毎日食べる」が平成26年調査からやや増加しているものの、大きな差異はみられない。



(2) 現在の朝食習慣がはじまった時期

問 30 問 29 の朝食を食べる頻度について、いつごろからその習慣が続いていますか。(〇は1つだけ)

- 現在の朝食習慣がはじまった時期は、「小学生になる前」が62.9%と6割を超えて最も高く、次いで「30歳以降」(14.5%)、「19～29歳の頃」(9.2%)、「小学生の頃」(8.0%)の順となっている。



《性別・年代別・朝食の摂取状況別》

- 性別にみると、女性では「小学生になる前」で約7割を占め、男性(54.1%)に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、大きな差異はみられない。
- 朝食の摂取状況別にみると、ほとんど毎日食べている人では「小学生になる前」、毎日食べていない人では「19歳以降」から習慣づいている人が多い傾向となっている。

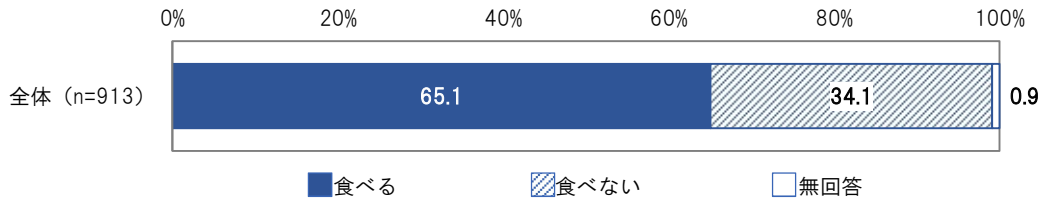
		回答者数(人)	小学生になる前	小学生の頃	中学生の頃	高校生の頃	19～29歳の頃	30歳以降	無回答
性別	男性	390	54.1	10.0	0.5	2.1	11.5	18.7	3.1
	女性	492	70.3	6.3	2.2	1.2	7.5	11.0	1.4
年代別	39歳以下	149	62.4	6.0	2.7	3.4	17.4	7.4	0.7
	40～64歳	345	59.1	7.5	1.2	1.7	10.1	19.1	1.2
	65歳以上	387	67.2	9.0	1.3	0.8	5.4	12.7	3.6
朝食摂取別	ほとんど毎日	742	74.9	8.0	0.9	0.4	5.5	9.4	0.8
	週4～5日	39	28.2	12.8	-	2.6	15.4	35.9	5.1
	週2～3日	48	6.3	14.6	4.2	4.2	22.9	43.8	4.2
	ほとんど食べない	80	5.0	1.3	5.0	10.0	32.5	32.5	13.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 1日2回以上の主食・主菜・副菜の3つがそろった食事の摂取

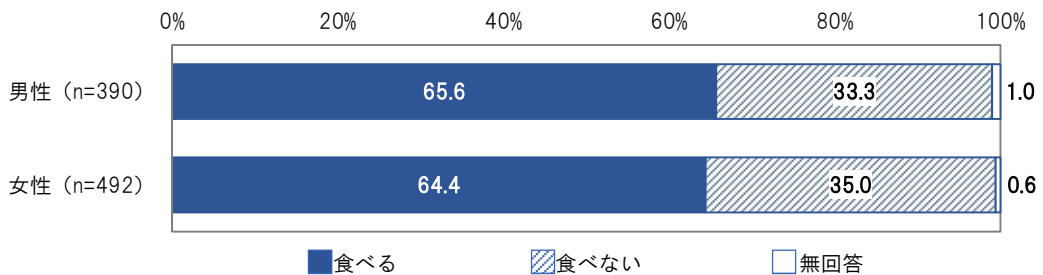
問 31 ①あなたは、主食・主菜・副菜の3つがそろった食事を、1日2回以上食べますか。
(○は1つだけ)

- 1日2回以上の主食・主菜・副菜の3つがそろった食事の摂取は、「食べる」が65.1%と6割を超えており、「食べない」は3割程度（34.1%）となっている。



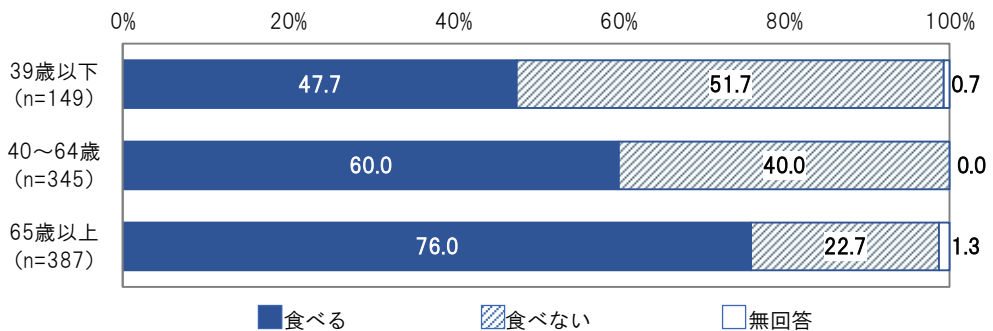
《性別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。



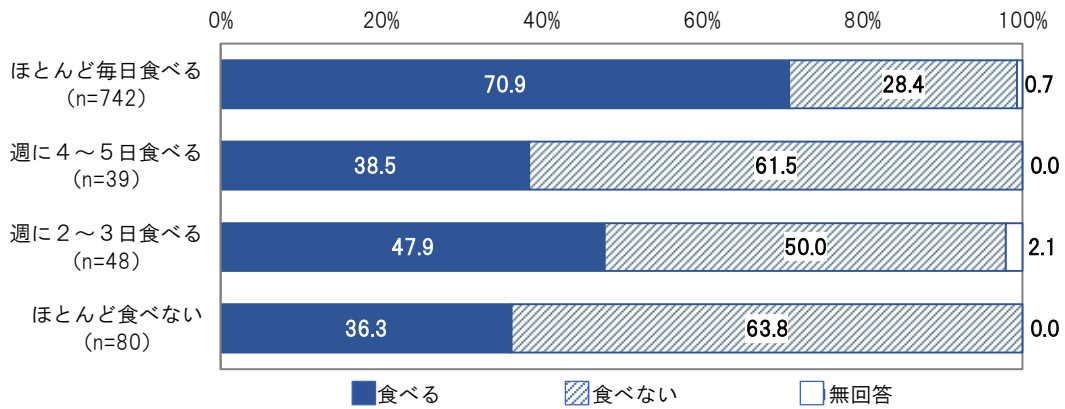
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「食べる」が高くなっており、65歳以上では7割を超えている。



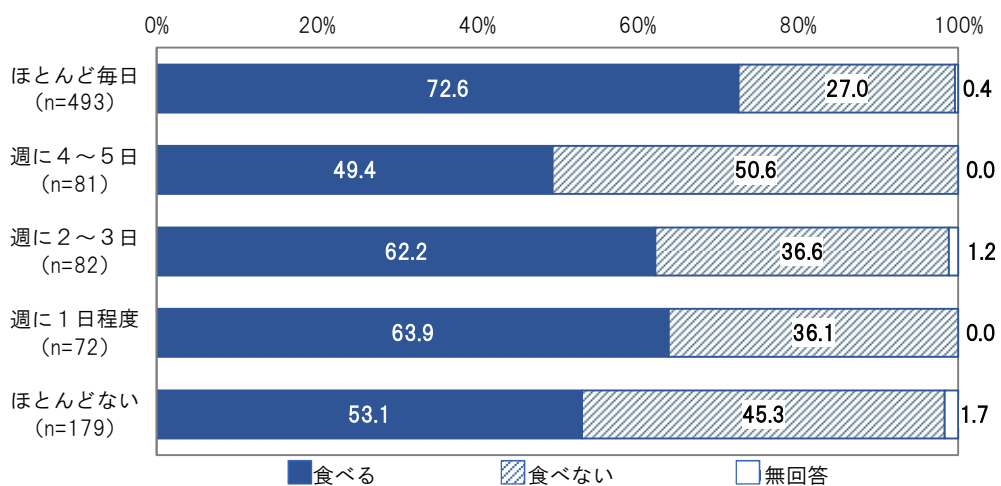
《朝食摂取別》

- 朝食摂取別にみると、ほとんど毎日食べる層では「食べる」が70.9%と約7割を占めているのに対し、朝食欠食のある層では半数未満となっている。



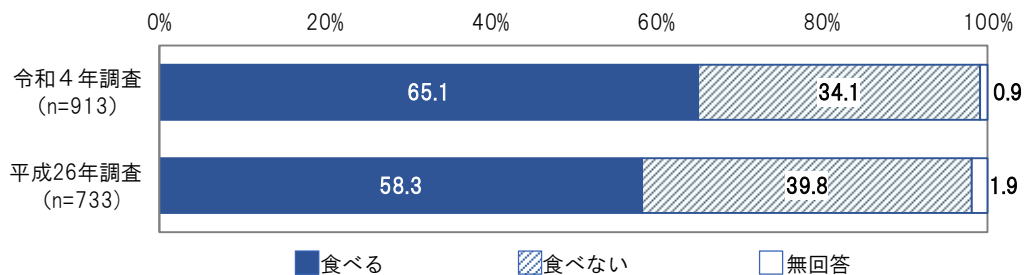
《共食状況別》

- 共食状況別にみると、ほとんど毎日共食している層では「食べる」が72.6%と7割を超えて高くなっている。



《経年比較》 ※平成26年調査は「食育市民アンケート調査」

- 平成26年調査と比較すると、「食べる」が58.3%から65.1%と大きく増加している。

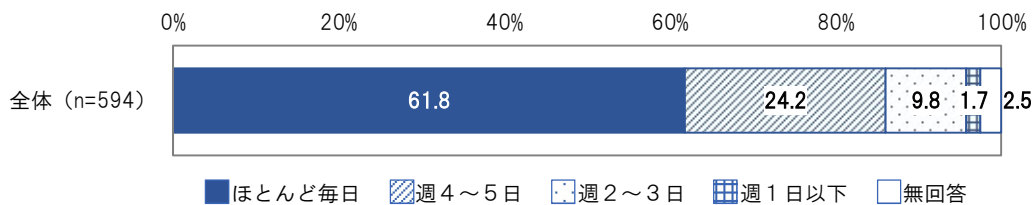


(3) -① 1日2回以上の主食・主菜・副菜の3つがそろった食事の頻度

※ (3) で「食べる」と回答した人のみ

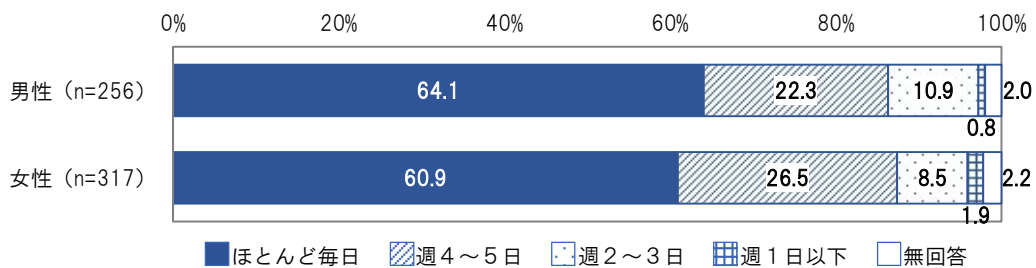
問 31 ②主食と主菜と副菜の3つそろえて食べることが1日2回以上あるのは、週に何日ありますか。(〇は1つだけ)

- 1日2回以上の主食・主菜・副菜の3つがそろった食事の頻度は、「ほとんど毎日」が61.8%と6割を超え、次いで「週4～5日」(24.2%)、「週2～3日」(9.8%)の順となっている。



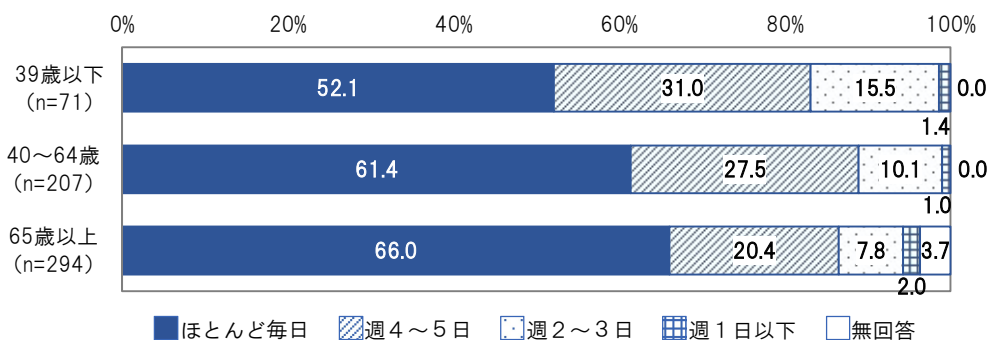
《性別》

- 性別にみると、男性では「ほとんど毎日」が64.1%と6割を超え、女性(60.9%)をやや上回っている。



《年代別》

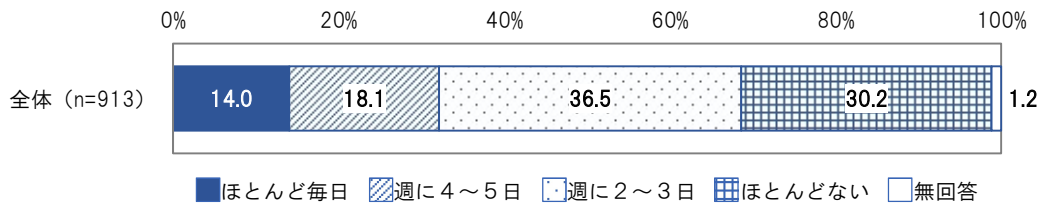
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「ほとんど毎日」が高くなっている。
- 一方で、『週5日以下』が39歳以下では47.9%と半数程度になっている。



(4) 1日350g以上の野菜の摂取状況

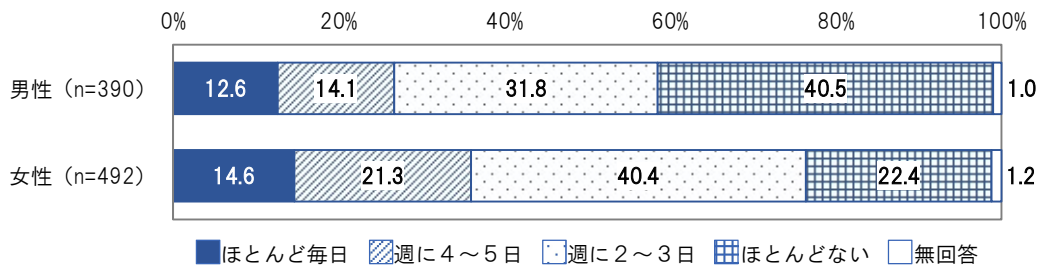
問 32 あなたは、1日350g以上(両手山盛りいっぱい)の野菜を食べていますか。(○は1つだけ)

- 1日350g以上の野菜の摂取状況は、「週に2～3日」が36.5%と3割を超えて最も高く、次いで「ほとんどない」が30.2%となっており、『週3日以下』が6割を超えている。



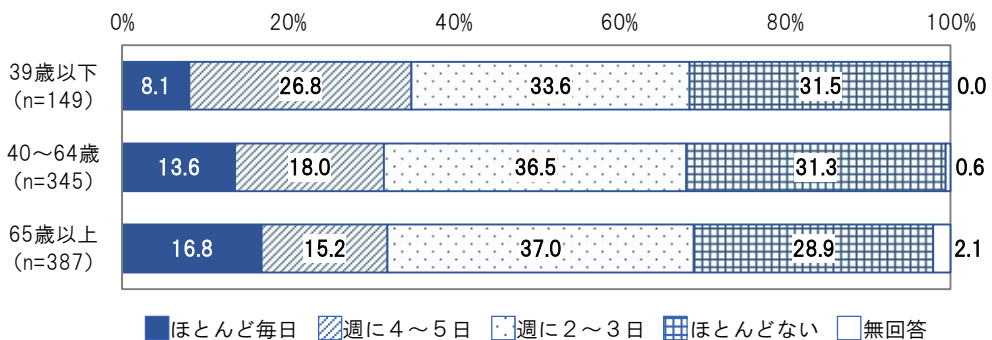
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で『週3日以下』が高くなっている。



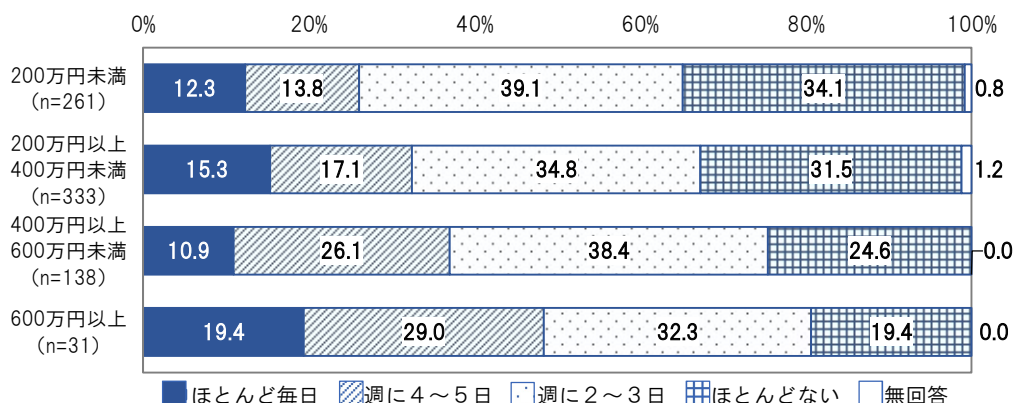
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「ほとんど毎日」が低くなっており、39歳以下では1割未満(8.1%)となっている。
- 「ほとんどない」の割合は、年代別による大きな差異はみられない。



《等価所得別》

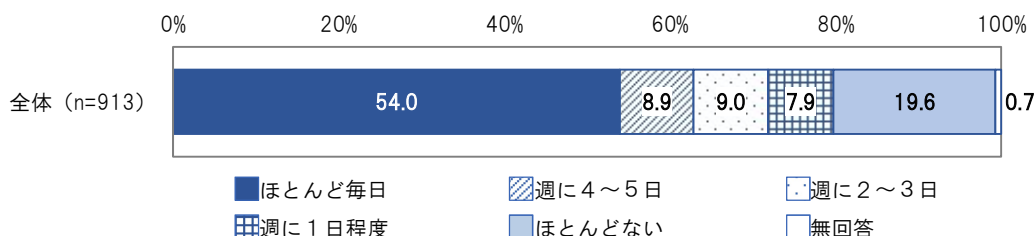
- 等価所得別にみると、所得が上がるにつれて「ほとんど毎日」と「週に4～5日」を合わせた『週に4日以上』が高くなっており、600万円以上では半数近く（48.4%）となっている。
- 「ほとんどない」の割合は、等価所得が下がるにつれて高くなってきている。



(5) 共食状況

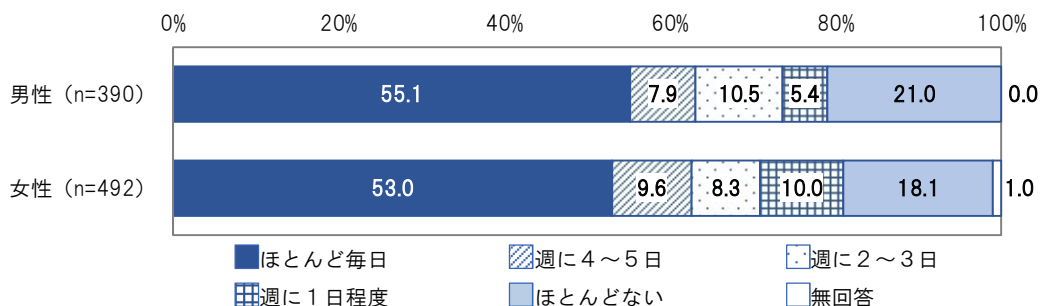
問 33 あなたは、家族や友人、同僚などと一緒に食事を食べる機会がどのくらいありますか。
(〇は1つだけ)

- 共食の機会は、「ほとんど毎日」が54.0%と半数を超えて最も高くなってきている。
- 一方で、次いで「ほとんどない」が19.6%と約2割となっており、「週に1日程度」（7.9%）と合わせた『週に1日以下』が3割近く（27.5%）となっている。



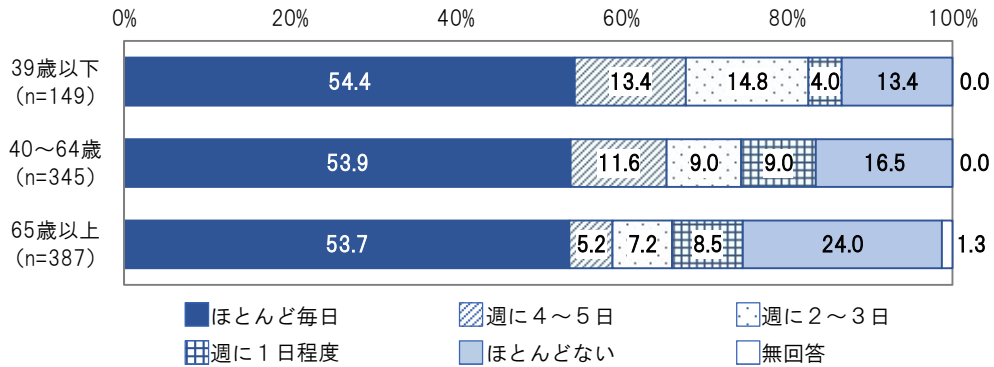
《性別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。



《年代別》

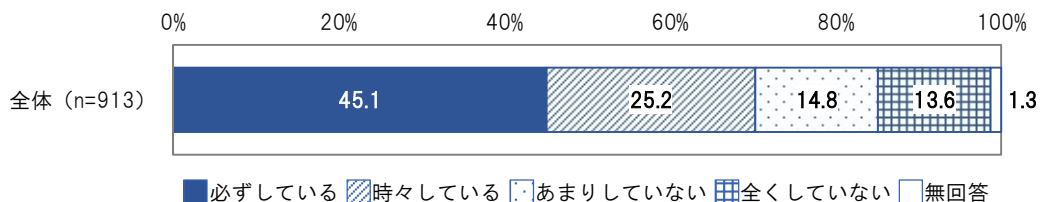
- 年代別にみると、「ほとんど毎日」は年代による大きな差異はみられない。
- 一方で、年代が上がるにつれて「ほとんどない」が高くなっており、65歳以上では2割を超えている。



(6) 食事の挨拶

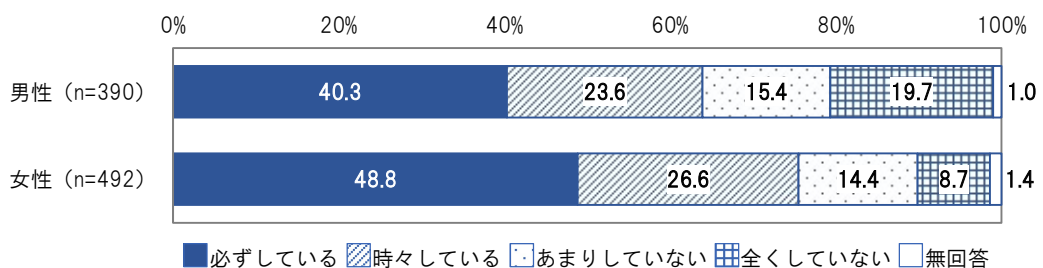
問 34 あなたは、食事の際に、「いただきます」「ごちそうさま」の挨拶をしていますか。
(〇は1つだけ)

- 食事の挨拶を、「必ずしている」が45.1%と4割を超えて最も高く、「時々している」(25.2%)と合わせると、『している』が約7割を占めている。
- 一方で、「あまりしていない」(14.8%)と「全くしていない」(13.6%)を合わせた『していない』は3割近くを占めている。



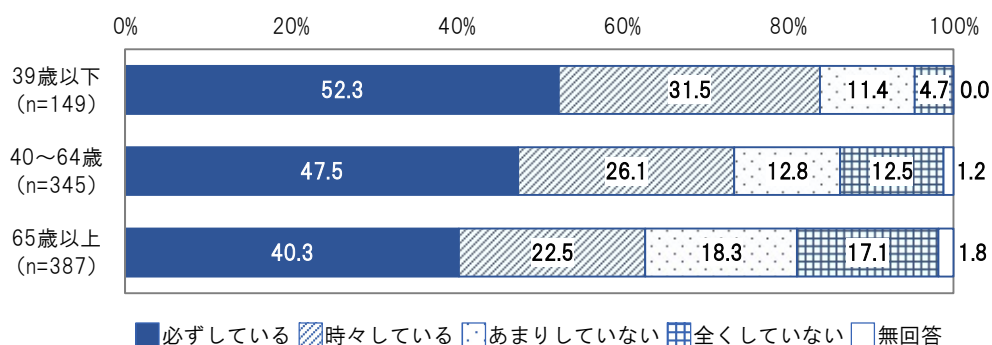
《性別》

- 性別にみると、『している』が、女性では75.4%と7割を超え、男性(63.9%)を10ポイント以上上回っている。
- 男性では『していない』が35.1%と3割を超えている。



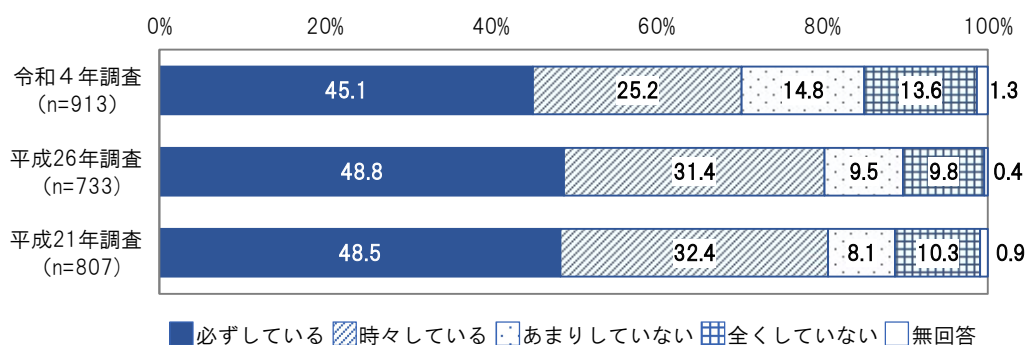
《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて『している』が高くなっており、39歳以下では8割を超えている。
- 一方で、『していない』は年代が上がるにつれて高くなっており、65歳以上では3割を超えている。



《経年比較》 ※平成21年調査、平成26年調査は「食育市民アンケート調査」

- 経年で比較すると、『している』が平成26年調査からやや減少しており、『していない』が10ポイント程度増加している。

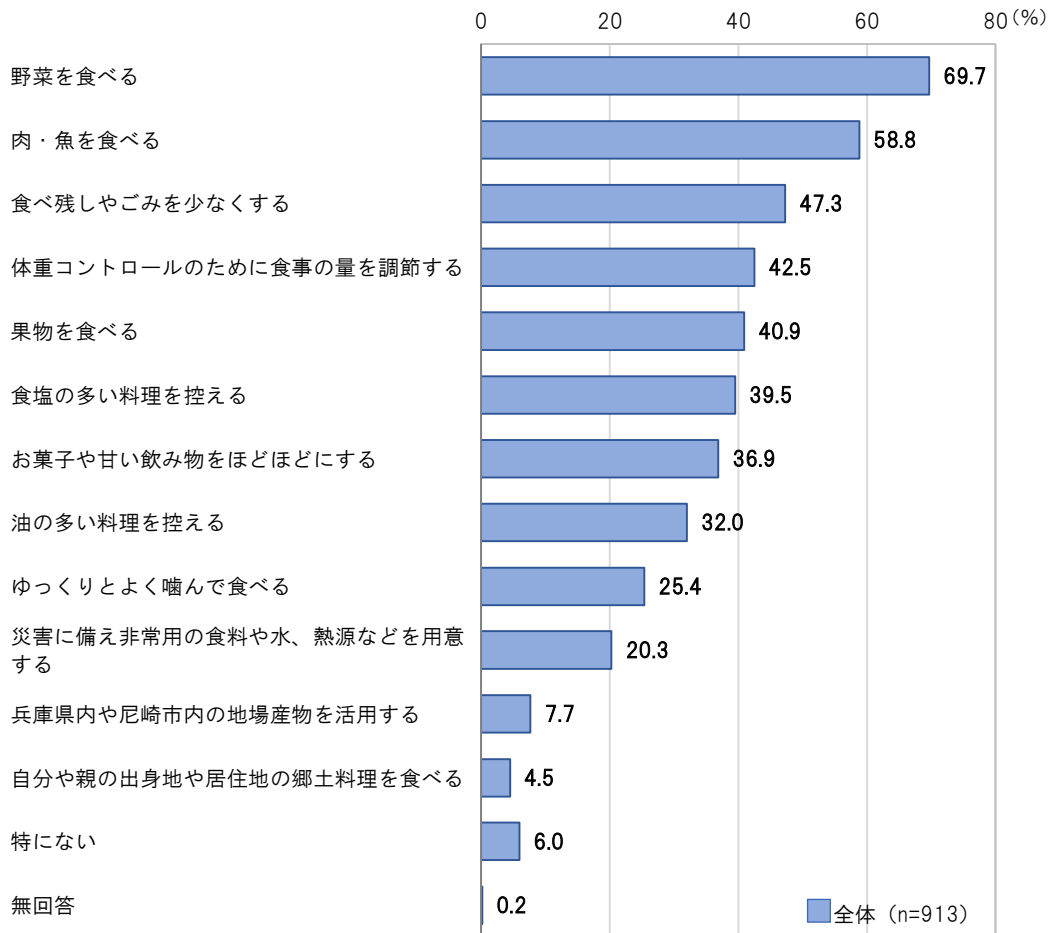


(7) 普段の食生活の中で意識していること

問 35 あなたは、普段の食生活の中で次のことを意識していますか。

(○はあてはまるものすべて)

- 普段の食生活の中で意識していることは、「野菜を食べる」が 69.7%と約7割を占めて最も高く、次いで「肉・魚を食べる」(58.8%)、「食べ残しやごみを少なくする」(47.3%)、「体重コントロールのために食事の量を調節する」(42.5%)、「果物を食べる」(40.9%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、ほとんどの項目で男性に比べて女性が高く、特に「野菜を食べる」や「食塩の多い料理を控える」、「油の多い料理を控える」、「災害に備え非常用の食料や水、熱源などを用意する」で、男性に比べて10ポイント以上上回っている。
- 年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「食塩の多い料理を控える」や「油の多い料理を控える」、「ゆっくりとよく噛んで食べる」、「災害に備え非常用の食料や水、熱源などを用意する」、「兵庫県内や尼崎市内の地場産物を活用する」などの回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数(人)	野菜を食べる	肉・魚を食べる	食べ残しやごみを少なくする	体重コントロールのために食事の量を調節する	果物を食べる	食塩の多い料理を控える	お菓子や甘い飲み物をほどにする
性別	男性	390	63.8	59.7	47.4	41.5	35.4	33.3	32.1
	女性	492	74.8	58.5	48.2	43.3	44.7	44.3	41.5
年代別	39歳以下	149	71.1	53.0	47.0	38.3	30.9	19.5	34.9
	40～64歳	345	67.8	52.5	46.7	44.9	29.6	33.0	31.9
	65歳以上	387	71.6	67.4	49.4	42.6	55.3	53.7	43.2

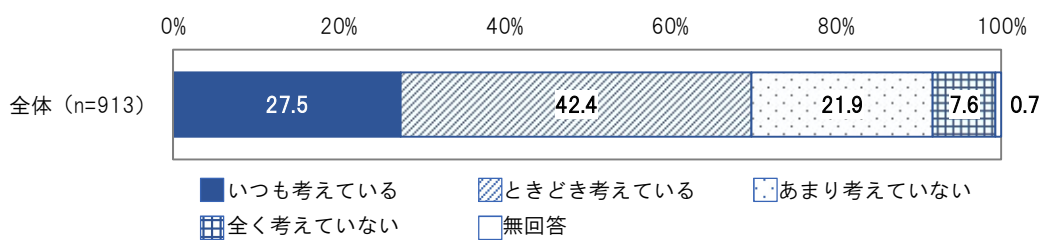
		油の多い料理を控える	ゆっくりとよく噛んで食べる	災害に備え非常用の食料や水、熱源などを用意する	兵庫県内や尼崎市内の地場産物を活用する	自分や親の出身地や居住地の郷土料理を食べる	特にない	無回答
(つづき)								
性別	男性	25.6	26.9	11.3	3.8	2.6	6.7	-
	女性	37.4	24.6	27.0	10.4	5.7	5.3	0.2
年代別	39歳以下	18.1	18.8	16.1	3.4	4.7	6.0	-
	40～64歳	29.3	21.2	20.0	6.1	4.9	6.1	-
	65歳以上	40.6	32.3	22.2	10.3	4.4	5.2	0.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(8) 食品購入時に食品の品質・安全性などを考えた選択

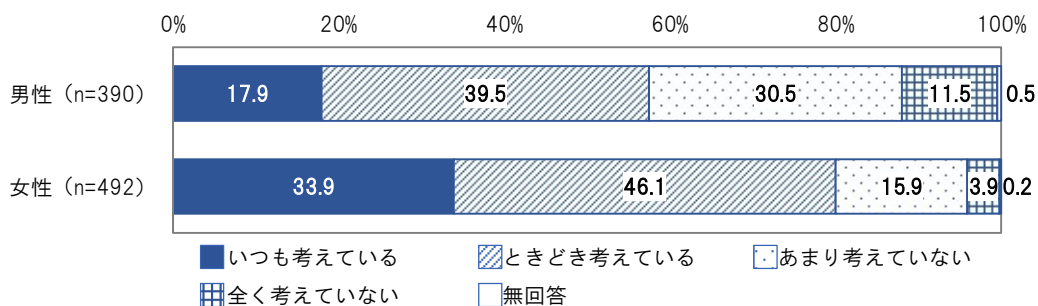
問 36 あなたは、食品を購入するとき、食品の表示を見るなど、食品の栄養や品質・安全性、産地などを考えながら選びますか。(〇は1つだけ)

- 食品購入時に食品の栄養や品質・安全性、産地などを、「ときどき考えている」が42.4%と4割を超えて最も高く、「いつも考えている」(27.5%) と合わせると、『考えている』が約7割を占めている。
- 一方で、「あまり考えていない」(21.9%) と「全く考えていない」(7.6%) を合わせた『考えていない』は約3割を占めている。



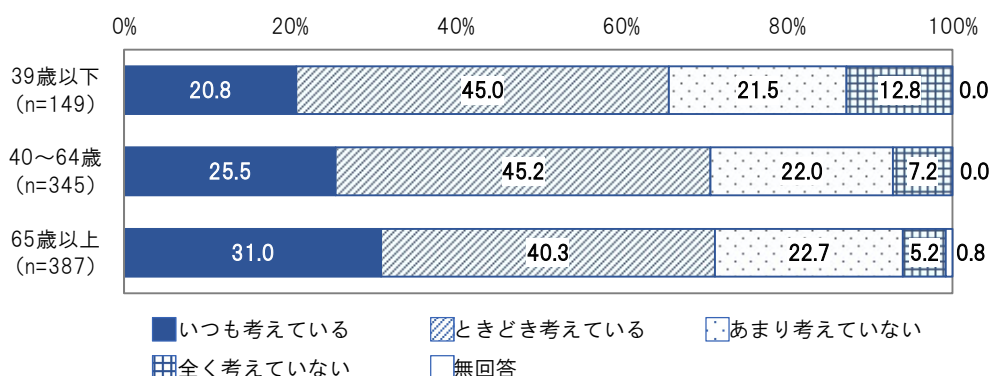
《性別》

- 性別にみると、『考えている』が、女性では80.0%と8割を占め、男性(57.4%)を20ポイント以上上回っている。
- 男性では『考えていない』が42.0%と4割を超えている。



《年代別》

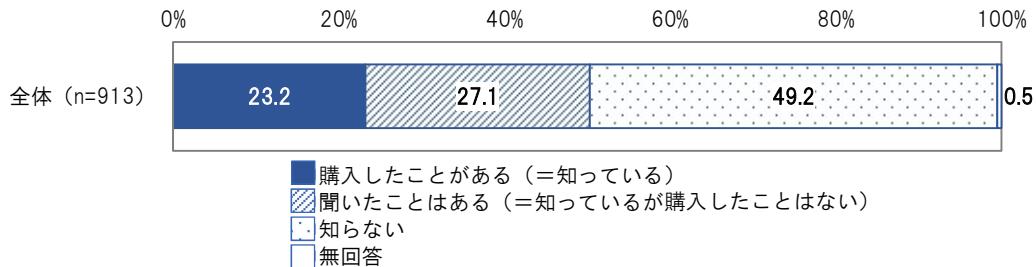
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『考えている』が高くなっており、40歳以上では7割を越えている。
- 一方で、39歳以下では「全く考えていない」が1割を超えている。



(9) 尼崎市産の野菜「あまやさい」の認知度

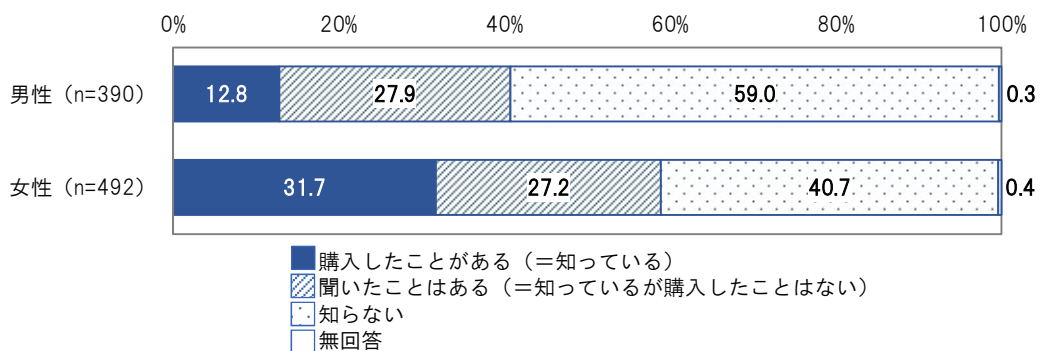
問 37 あなたは、尼崎市産の野菜「あまやさい」を知っていますか。(〇は1つだけ)

- ・尼崎市産の野菜“あまやさい”の認知度は、「知らない」が49.2%と約半数を占めている。



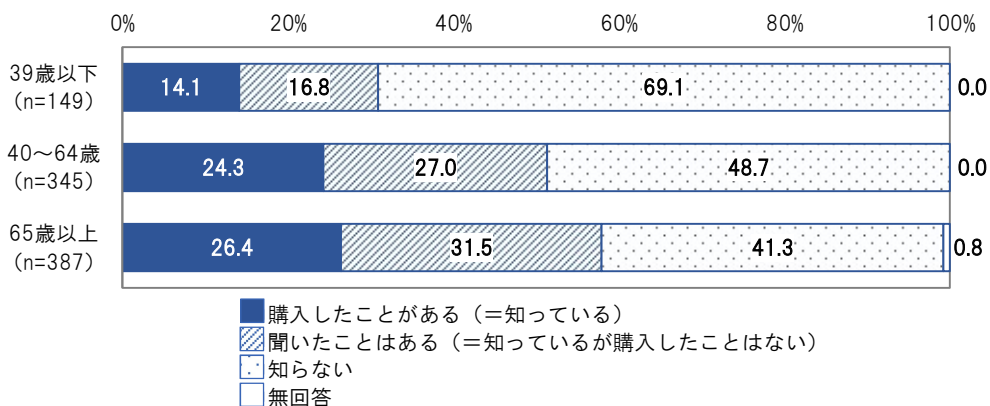
《性別》

- ・性別にみると、女性では「購入したことがある (=知っている)」と「聞いたことはある (=知っているが購入したことはない)」を合わせた『知っている』が58.9%と、男性(40.7%)を20ポイント近く上回っている。



《年代別》

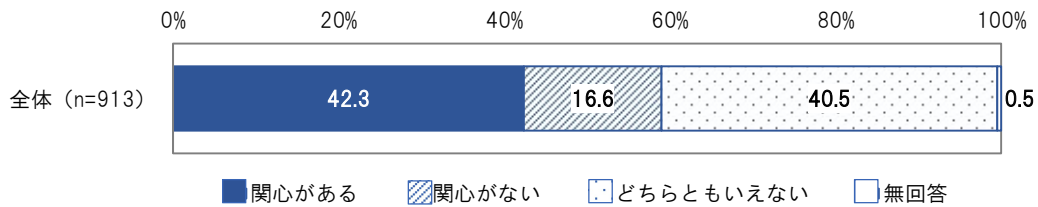
- ・年代別にみると、年代が上がるにつれて『知っている』が高くなっており、65歳以上で6割近くを占めている。
- ・また、39歳以下では「知らない」が69.1%と約7割を占め、その他の年代に比べて高くなっている。



(10) 有機農作物への関心度

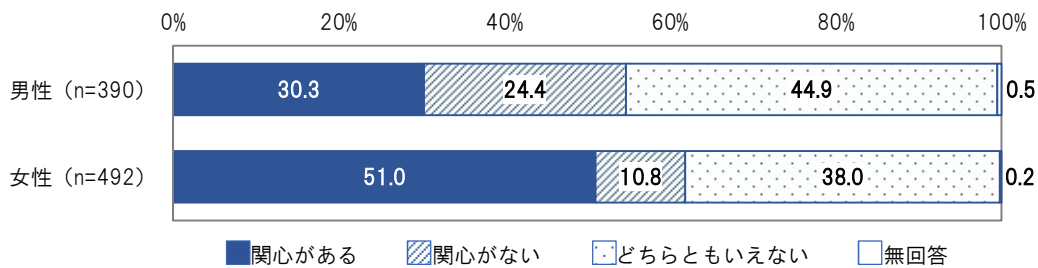
問 38 あなたは、有機農法で栽培された農作物に関心がありますか。(○は1つだけ)

- 有機農作物への関心度は、「関心がある」が 42.3%と4割を超えており、「関心がない」が 16.6%となっている。



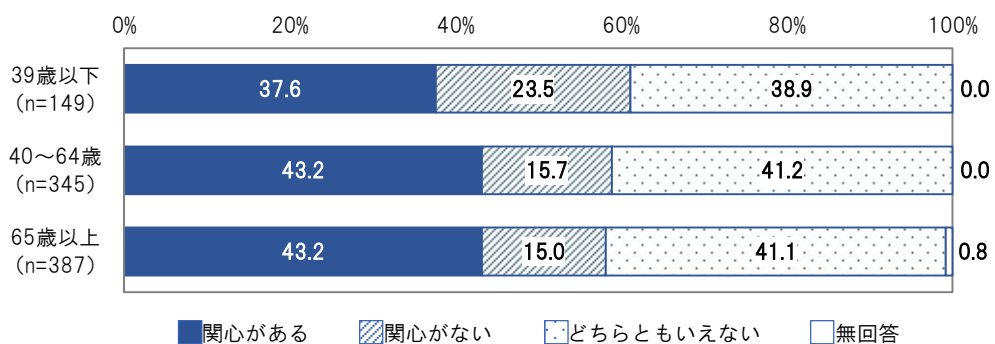
《性別》

- 性別にみると、「関心がある」が、女性では 51.0%と半数を超え、男性 (30.3%) を約 20 ポイント上回っている。
- 男性では「関心がない」が 24.4%と2割を超えている。



《年代別》

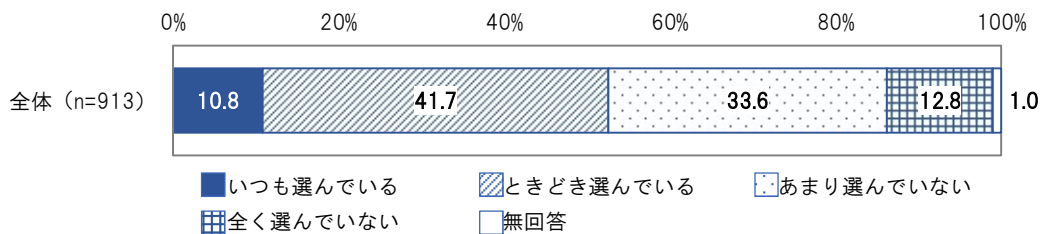
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「関心がない」が高くなっており、39 歳以下では2割を超えている。



(11) 食品購入時の環境への配慮

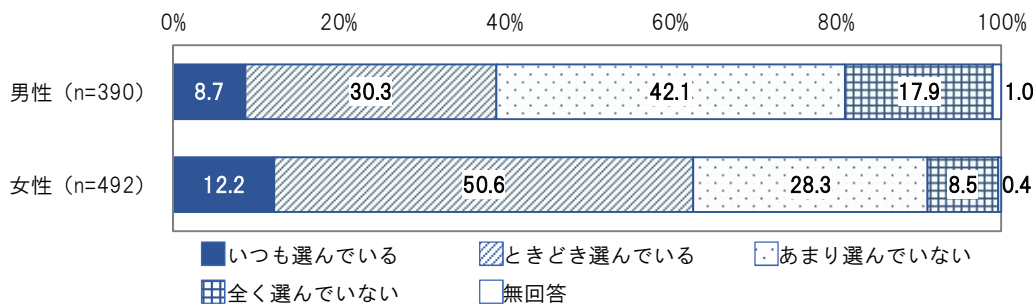
問 39 あなたは、食品を購入するとき、環境に配慮したものを選びますか。(○は1つだけ)

- 食品を購入するとき環境に配慮したものを、「ときどき選んでいる」が41.7%と4割を超えて最も高く、「いつも選んでいる」(10.8%)と合わせると、『選んでいる』が半数を超えている。
- 一方で、「あまり選んでいない」(33.6%)と「全く選んでいない」(12.8%)を合わせた『選んでいない』は4割を超えている。



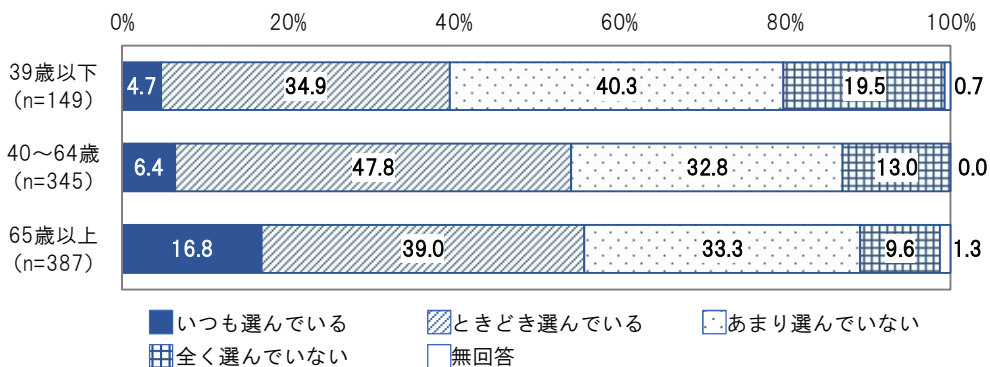
《性別》

- 性別にみると、『選んでいる』が、女性では62.8%と6割を占め、男性(39.0%)を20ポイント以上上回っている。
- 男性では『選んでいない』が60.0%と6割を占めている。



《年代別》

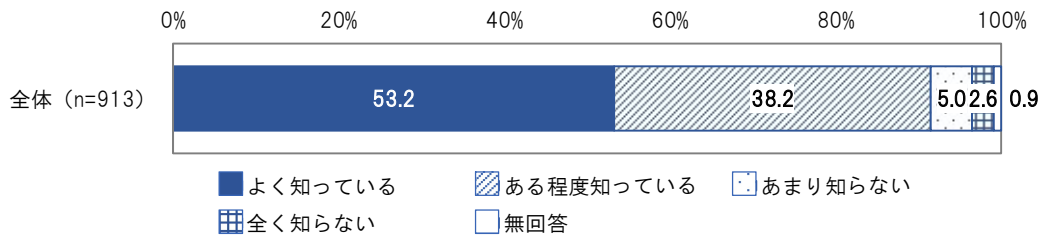
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『選んでいる』が高くなっており、40歳以上では半数を越えている。また、65歳以上では「いつも選んでいる」が16.8%と1割を超え、その他の年代に比べて高くなっている。
- 一方で、39歳以下で『選んでいない』が約6割を占めている。



(12) 食品ロスの認知度

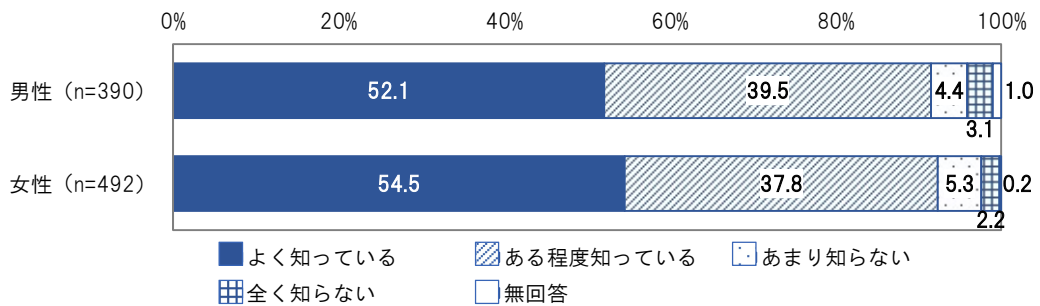
問 40 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。(○は1つだけ)

- 食品ロスの認知度は、「よく知っている」が 53.2%と半数を超えて最も高く、「ある程度知っている」(38.2%) と合わせると、『知っている』が9割を超えている。



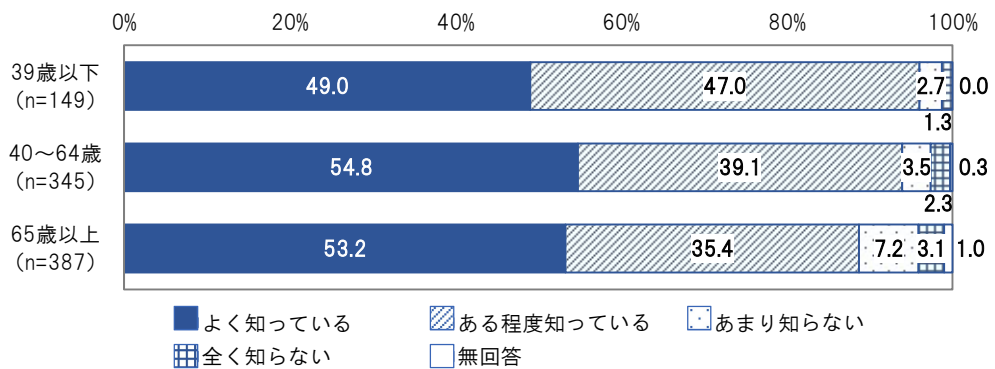
《性別》

- 性別による大きな差異はみられない。



《年代別》

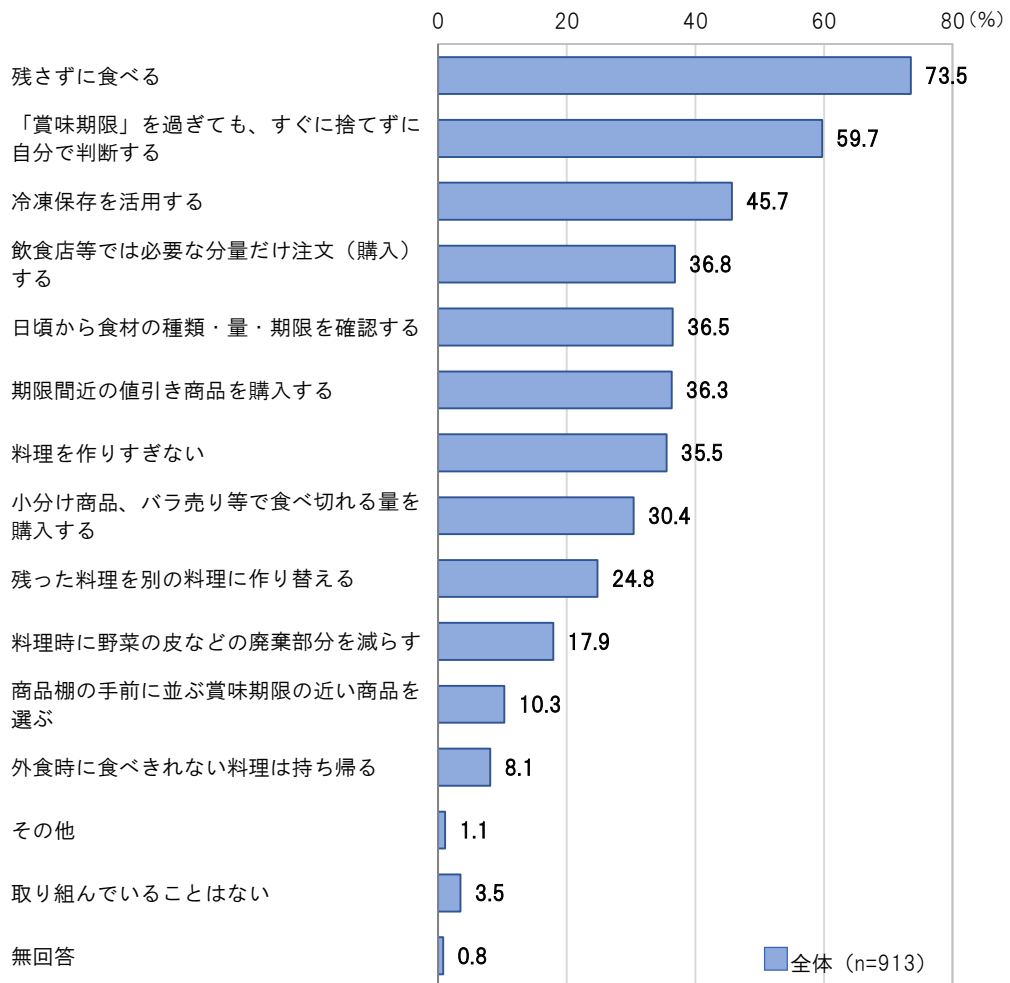
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「あまり知らない」と「全く知らない」を合わせた『知らない』が高くなっている。



(13) 食品ロス削減の取り組み

問 41 あなたは、「食品ロス」を減らすために、取り組んでいることはありますか。
 (〇はあてはまるものすべて)

- 食品ロス削減の取り組みは、「残さずに食べる」が73.5%と7割を超えて最も高く、次いで「賞味期限」を過ぎても、すぐに捨てずに自分で判断する」(59.7%)、「冷凍保存を活用する」(45.7%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、ほとんどの項目で男性に比べて女性が高く、特に「冷凍保存を活用する」や「小分け商品、バラ売り等で食べ切れる量を購入する」、「残った料理を別の料理に作り替える」で、男性に比べて20ポイント近く上回っている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「残さずに食べる」や「冷凍保存を活用する」が高くなっており、年代が上がるにつれて「賞味期限」を過ぎても、すぐに捨てずに自分で判断する」や「料理を作りすぎない」、「小分け商品、バラ売り等で食べ切れる量を購入する」、「料理時に野菜の皮などの廃棄部分を減らす」などの回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数(人)	残さずに食べる	「賞味期限」を過ぎても、すぐに捨てずに自分で判断する	冷凍保存を活用する	飲食店等では必要な分量だけ注文(購入)する	日頃から食材の種類・量・期限を確認する	期限間近の値引き商品を購入する	料理を作りすぎない
性別	男性	390	76.2	56.4	35.9	28.7	28.5	28.7	29.2
	女性	492	72.8	63.6	54.1	43.9	42.7	43.1	40.9
年代別	39歳以下	149	81.9	53.0	48.3	38.9	30.9	37.6	27.5
	40～64歳	345	75.7	61.2	45.8	39.4	38.6	41.7	34.2
	65歳以上	387	70.5	63.0	45.2	34.6	36.7	32.0	39.5

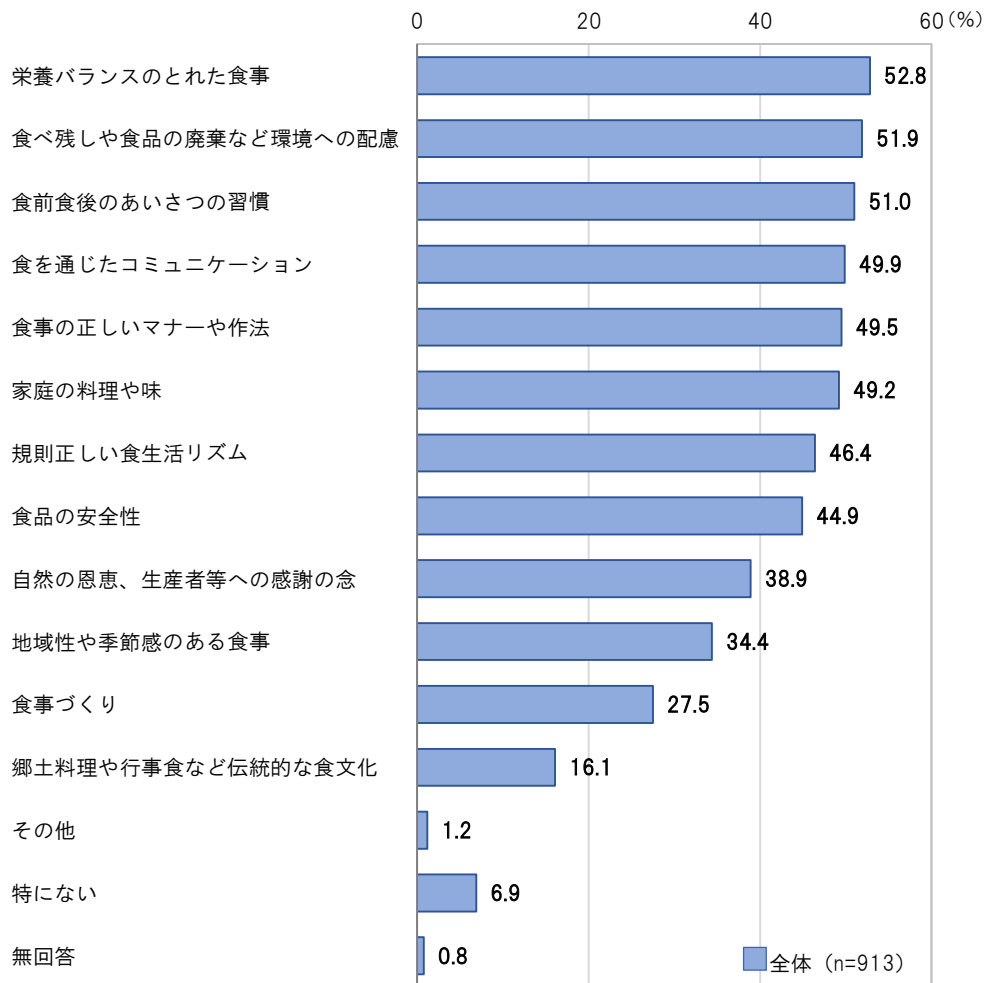
		小分け商品、バラ売り等で食べ切れる量を購入する	残った料理を別の料理に作り替える	料理時に野菜の皮などの廃棄部分を減らす	商品棚の手前に並ぶ賞味期限の近い商品を選ぶ	外食時に食べきれない料理は持ち帰る	その他	取り組んでいることはない	無回答
(つづき)									
性別	男性	19.7	14.4	11.3	6.9	3.3	1.8	3.8	0.8
	女性	39.0	33.3	23.0	13.2	11.4	0.6	3.0	0.2
年代別	39歳以下	26.8	22.1	10.1	12.8	8.7	-	4.0	-
	40～64歳	30.1	25.8	17.1	12.8	8.4	0.6	3.2	-
	65歳以上	33.1	25.3	21.2	7.5	7.0	2.1	3.1	1.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(14) 食育について次世代に伝えたいこと

問 42 あなたが食育について大切に思い、次世代に伝えたいことはどのようなことですか。
(〇はあてはまるものすべて)

- 食育について次世代に伝えたいことは、「栄養バランスのとれた食事」が52.8%と最も高く、次いで「食べ残しや食品の廃棄など環境への配慮」(51.9%)、「食前食後のあいさつの習慣」(51.0%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、ほとんどの項目で男性に比べて女性が高く、特に「栄養バランスのとれた食事」や「食前食後のあいさつの習慣」、「食事の正しいマナーや作法」、「食品の安全性」、「自然の恩恵、生産者等への感謝の念」、「地域性や季節感のある食事」、「食事づくり」などで、男性に比べて10ポイント以上上回っている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「食を通じたコミュニケーション」や「食事の正しいマナーや作法」が高くなっており、年代が上がるにつれて「家庭の料理や味」や「規則正しい食生活リズム」、「食品の安全性」などの回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

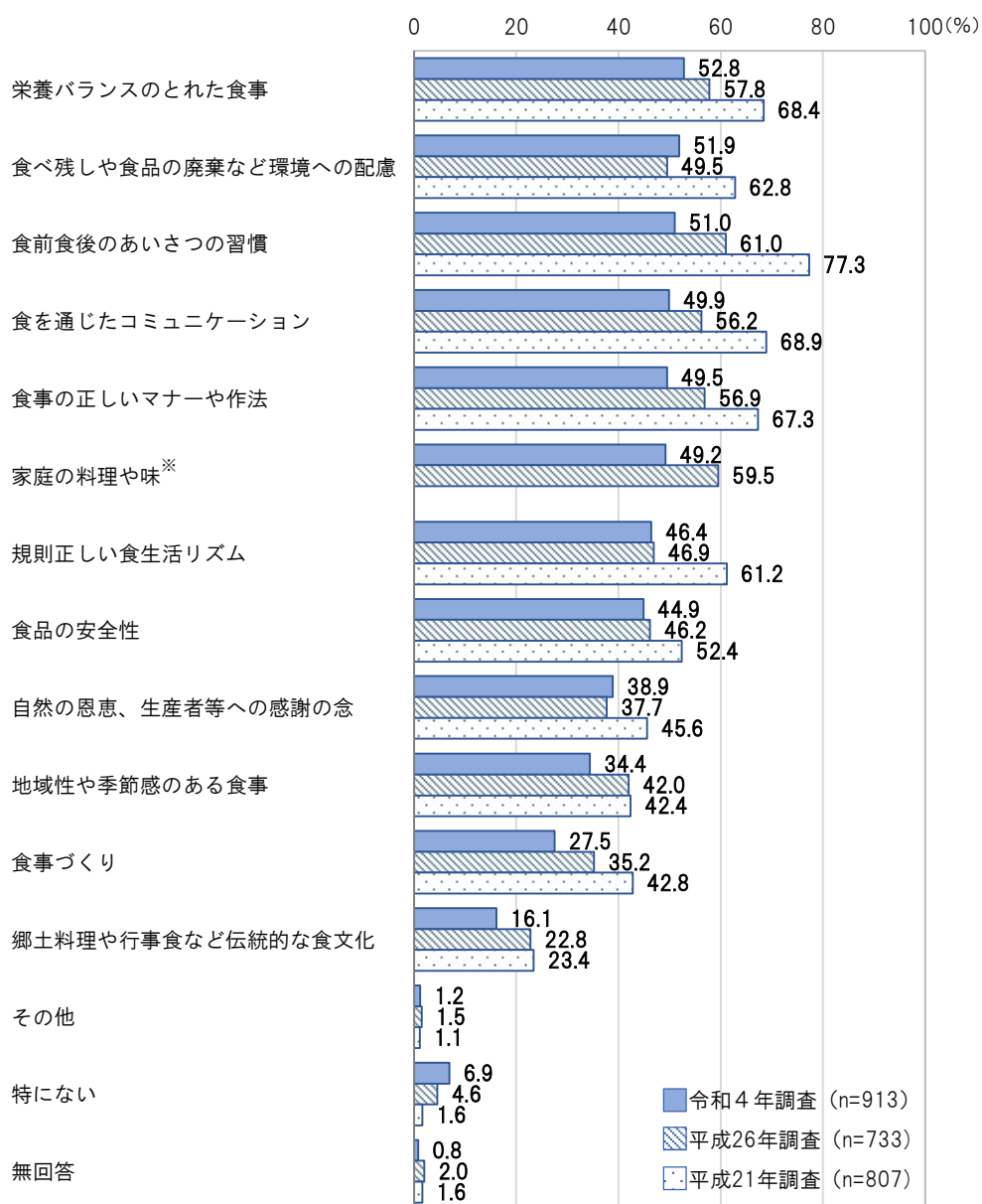
		回答者数(人)	栄養バランスのとれた食事	食べ残しや食品の廃棄など環境への配慮	食前食後のあいさつの習慣	食を通じたコミュニケーション	食事の正しいマナーや作法	家庭の料理や味	規則正しい食生活リズム
性別	男性	390	45.9	49.7	44.6	47.9	41.5	45.4	42.3
	女性	492	59.3	55.3	57.3	52.6	57.1	53.5	50.6
年代別	39歳以下	149	47.0	45.0	51.0	56.4	57.7	43.0	34.2
	40～64歳	345	56.5	54.8	54.2	54.5	55.7	49.0	44.6
	65歳以上	387	53.2	53.5	49.9	44.4	42.4	53.2	53.7

		食品の安全性	自然の恩恵、生産者等への感謝の念	地域性や季節感のある食事	食事づくり	郷土料理や行事食など伝統的な食文化	その他	特にない	無回答
(つづき)									
性別	男性	39.2	33.3	26.4	20.3	12.8	1.0	9.5	0.8
	女性	49.8	43.7	41.3	32.9	18.5	1.0	4.3	0.2
年代別	39歳以下	34.2	30.9	29.5	28.9	16.1	2.0	7.4	-
	40～64歳	44.3	43.2	38.0	30.4	19.4	0.6	4.6	-
	65歳以上	50.1	38.5	34.6	24.3	13.2	1.0	8.3	1.0

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

《経年比較》 ※平成 21 年調査、平成 26 年調査は「食育市民アンケート調査」

- 経年で比較すると、平成 21 年・平成 26 年調査では「食前食後のあいさつの習慣」が最も高くなっているものの、ほとんどの項目で年々減少している。



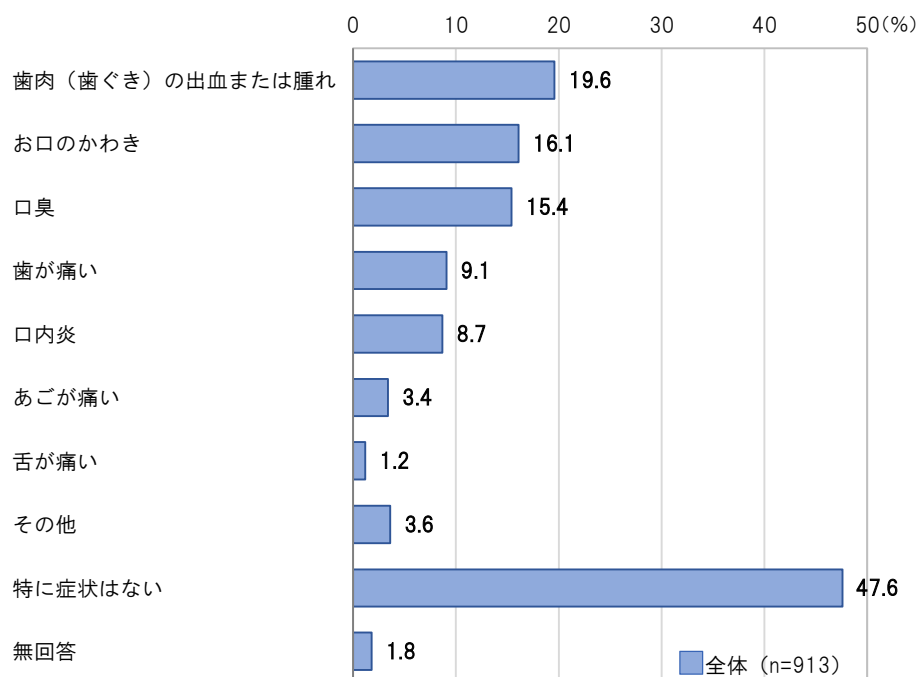
※「家庭の料理や味」は、平成 26 年調査・令和 4 年調査のみの項目

8. お口の状態について

(1) お口の症状

問 43 あなたのお口について、次のような症状がありますか。(○はあてはまるものすべて)

- お口の症状については、「特に症状はない」が47.6%と半数近くを占めている。
- 症状のある人では、「歯肉（歯ぐき）の出血または腫れ」が19.6%と約2割を占めて高く、次いで「お口のかわき」（16.1%）、「口臭」（15.4%）の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「口臭」や「歯が痛い」などで女性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「お口のかわき」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が下がるにつれて「口臭」や「あごが痛い」などの回答が高くなる傾向がみられる。

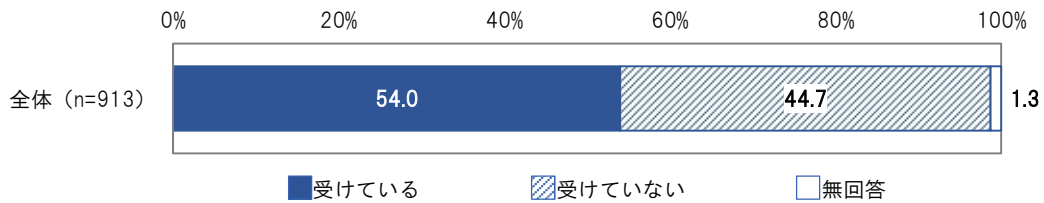
		回答者数 (人)	腫れ 歯肉 (歯ぐき) の出血 または	お口 のかわき	口臭	歯 が 痛 い	口 内 炎	あ ご が 痛 い	舌 が 痛 い	そ の 他	特 に 症 状 は な い	無 回 答
性別	男性	390	19.2	16.4	17.9	12.3	9.5	3.6	0.5	4.4	45.9	1.0
	女性	492	20.3	16.1	13.6	6.5	8.1	3.5	1.6	3.3	49.4	1.4
年代別	39歳以下	149	15.4	12.1	18.1	8.1	6.0	7.4	-	3.4	56.4	0.7
	40～64歳	345	23.8	14.2	16.8	8.7	10.1	2.6	1.2	2.0	48.1	0.6
	65歳以上	387	18.6	19.1	14.2	9.6	8.8	2.8	1.6	5.4	43.7	2.1

※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 定期的（年1回以上）な歯科検診の受診状況

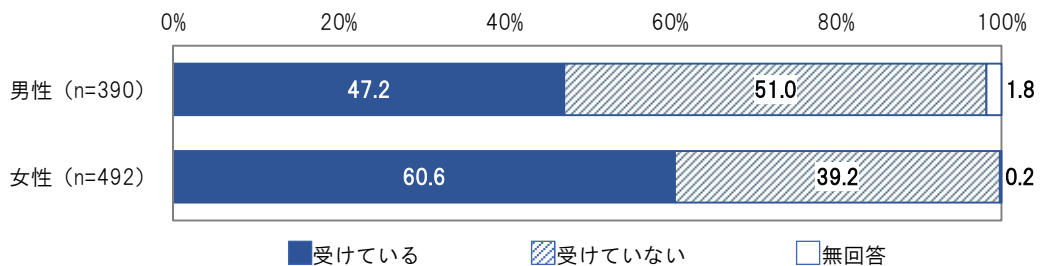
問 44 ①定期的（年1回以上）に、歯科検診を受けていますか。（○は1つだけ）

- 定期的（年1回以上）な歯科検診の受診状況は、「受けている」が54.0%と半数を超えているものの、「受けていない」が4割以上（44.7%）となっている。



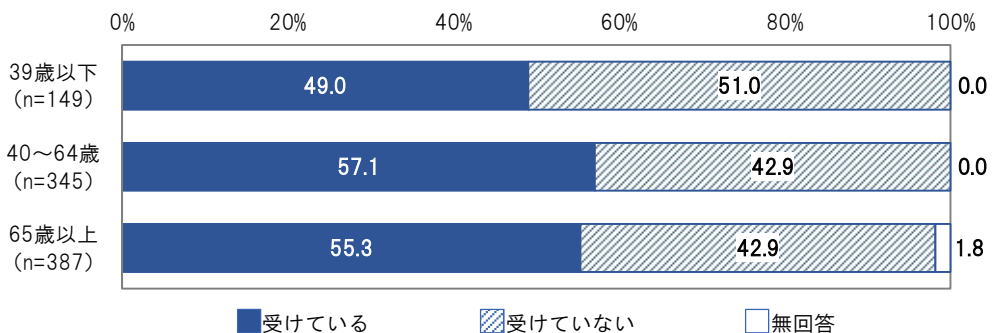
《性別》

- 性別にみると、「受けている」が、女性では60.6%と約6割を占め、男性（47.2%）に比べて高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、「受けている」が40～64歳で57.1%と6割近くを占めて最も高くなっている。
- 39歳以下では、「受けていない」が51.0%と半数を超え、「受けている」（49.0%）を上回っている。

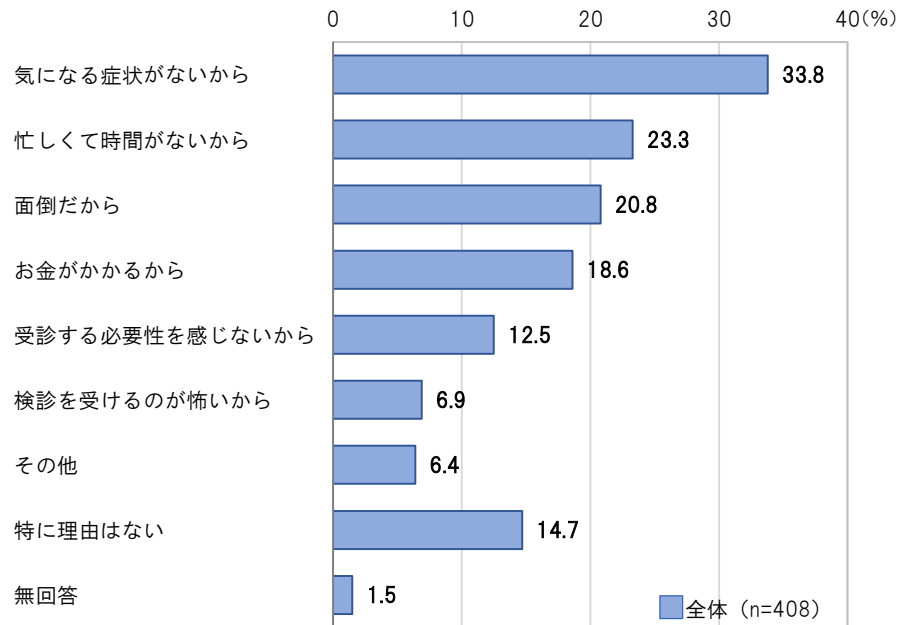


(2) -① 定期的（年1回以上）な歯科検診を受けていない理由

※ (2) で「受けていない」と回答した人のみ

問 44 ②受けていない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

・定期的（年1回以上）な歯科検診を受けていない人の受けていない理由では、「気になる症状がないから」が33.8%と3割を超えて最も高く、次いで「忙しくて時間がないから」(23.3%)、「面倒だから」(20.8%)、「お金がかかるから」(18.6%)の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、男性では「受診する必要性を感じないから」で女性に比べて高くなっている。
- ・年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「気になる症状がないから」や「受診する必要性を感じないから」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が下がるにつれて「忙しくて時間がないから」や「面倒だから」、「お金がかかるから」などの回答が高くなる傾向がみられる。

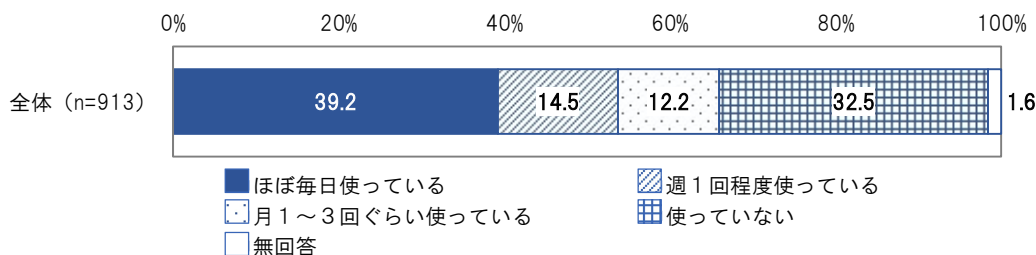
		回答者数(人)	気になる症状がないから	忙しくて時間がないから	面倒だから	お金がかかるから	受診する必要性を感じないから	検診を受けるのが怖いから	その他	特に理由はない	無回答
性別	男性	199	34.2	22.1	21.6	16.1	16.1	6.5	4.0	16.1	3.0
	女性	193	33.7	24.9	20.2	20.7	8.3	6.2	8.8	12.4	-
年代別	39歳以下	76	27.6	39.5	30.3	27.6	6.6	2.6	1.3	9.2	1.3
	40～64歳	148	28.4	32.4	24.3	23.6	7.4	8.1	7.4	10.8	2.0
	65歳以上	166	41.0	7.8	14.5	8.4	19.9	7.8	7.8	19.3	1.2

※ 1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(3) 歯間部清掃用具の使用状況

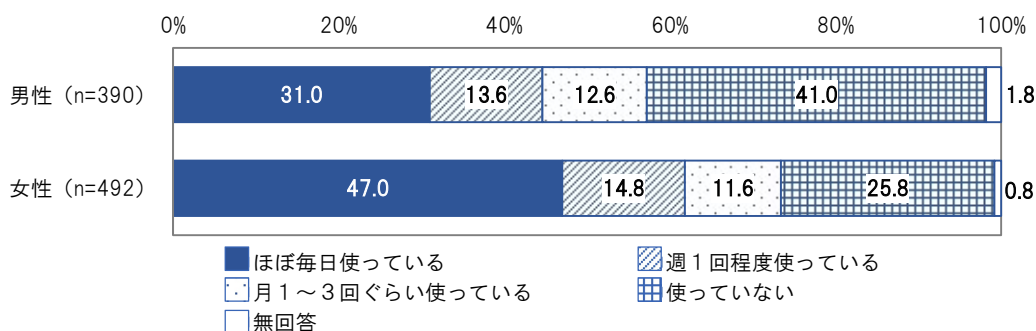
問 45 歯ブラシ以外に、糸ようじ（フロス）や歯間ブラシなど、歯と歯の間を清掃するための用具を使っていますか。（○は1つだけ）

- 歯間部清掃用具の使用状況は、「ほぼ毎日使っている」が 39.2%と約4割を占めており、「週1回程度使っている」（14.5%）、「月1～3回ぐらい使っている」（12.2%）と合わせると、『使っている』が6割を超えている。
- 一方で、「使っていない」が32.5%と3割を超えている。



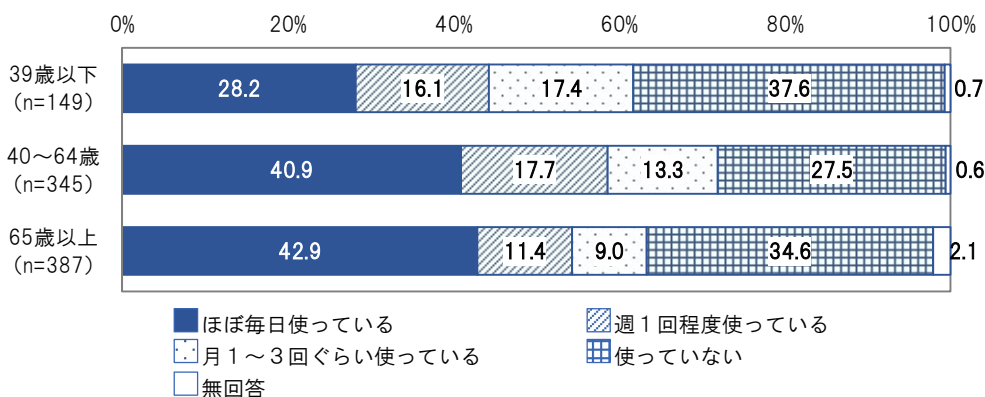
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『使っている』が高くなっている。



《年代別》

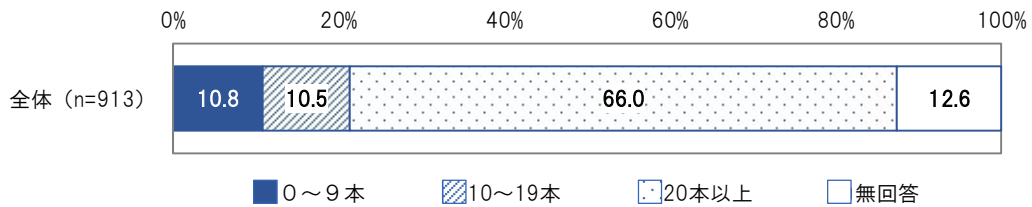
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「ほぼ毎日使っている」が高くなっており、40歳以上で4割を超えている。
- 一方で、「使っていない」が39歳以下で37.6%と4割近くを占め、その他の年代に比べて高くなっている。



(4) 歯の本数

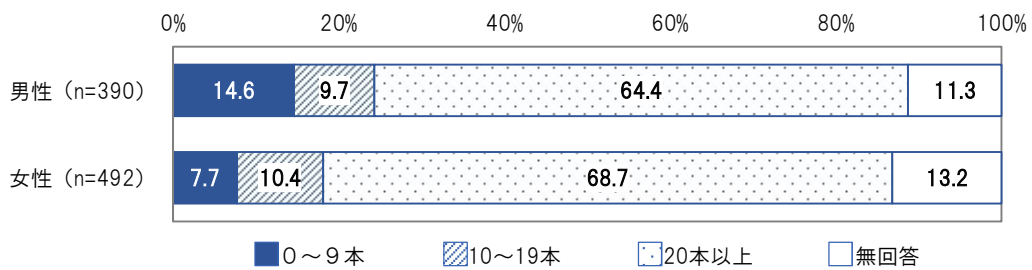
問 46 あなたは現在、自分の歯が何本ありますか。(むし歯などの治療済みの歯も含みます)

- 歯の本数は、「20 本以上」が 66.0%と 6 割を超え、次いで「0～9 本」(10.8%)、「10～19 本」(10.5%) の順となっている。



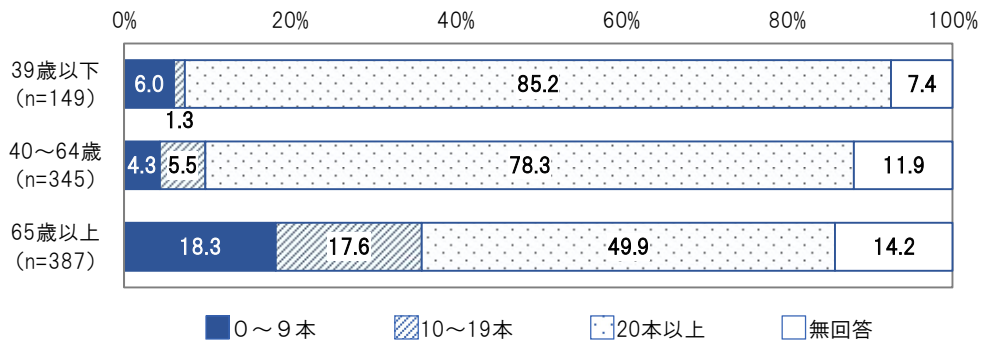
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で「20 本以上」がやや高くなっている。



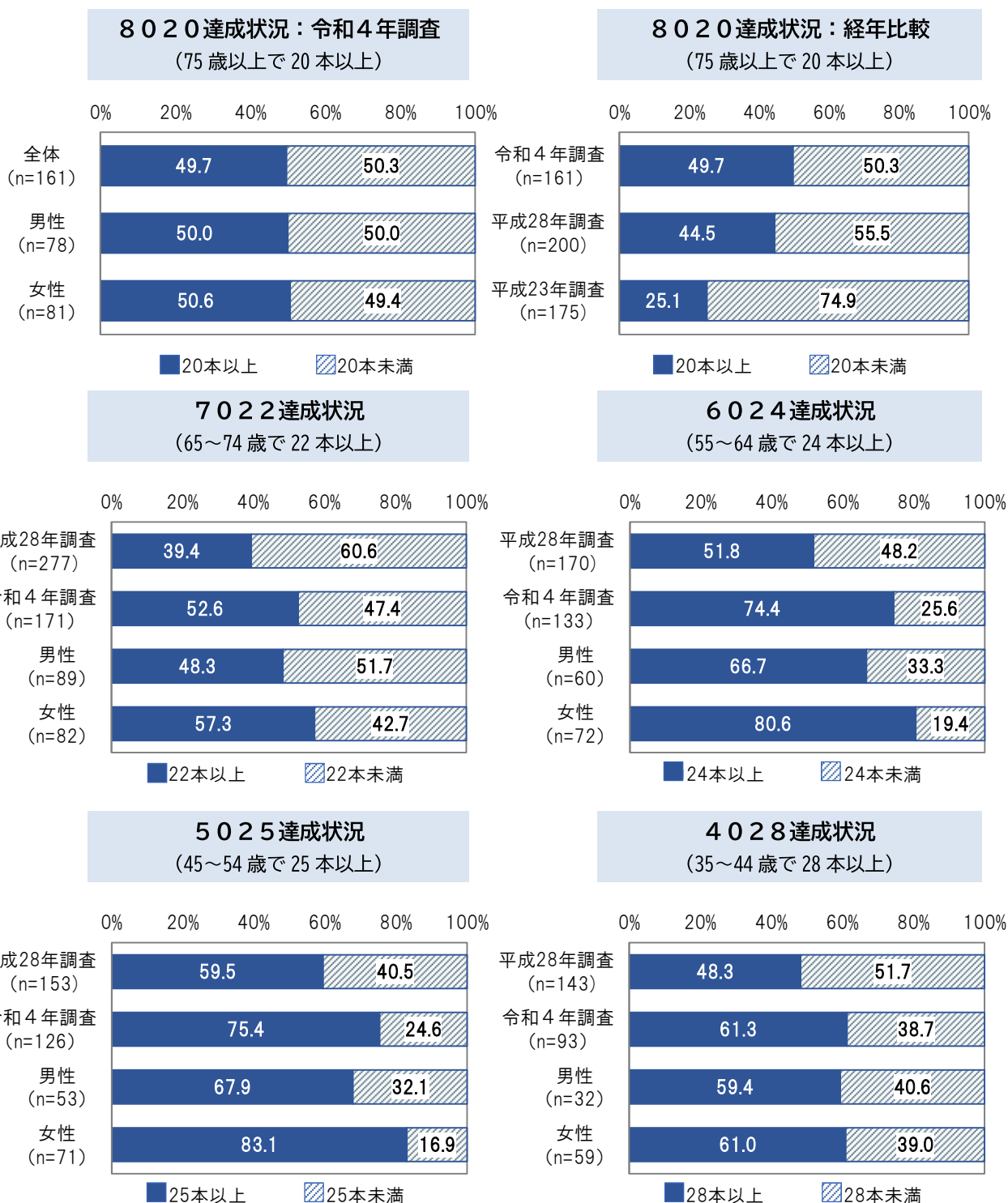
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて歯の本数が減っていく傾向がみられる。



《各年代での達成状況》

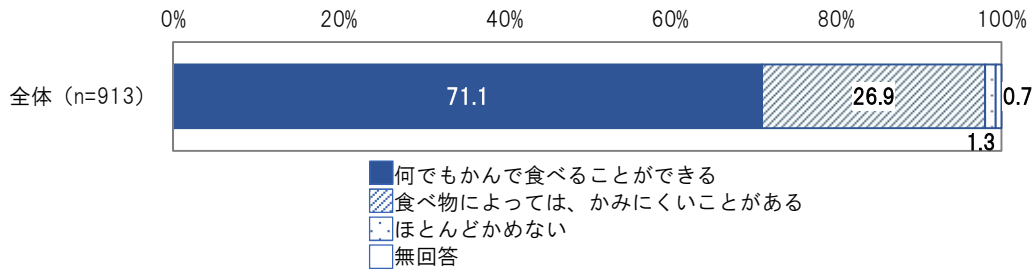
- 各年代別での歯の本数の達成率をみると、8020（75歳以上で20本以上）の達成率は年々上昇している。
- 5025（45～54歳で25本以上）、6024（55～64歳で24本以上）達成状況はともに7割を超えて高い達成率となっている。特に、女性では8割を超えている。
- 4028（35～44歳で28本以上）・8020達成状況では、男性と女性がほぼ同程度となっているのに対し、その他の5025・6024・7022達成状況では女性が男性に比べて高くなっている。



(5) 咀嚼状況

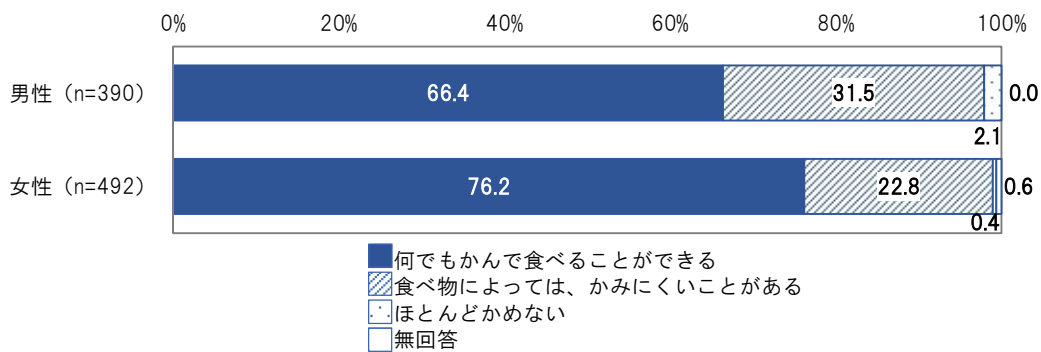
問 47 食事をかんで食べる時の状態は、どれにあてはまりますか。(○は1つだけ)

- 咀嚼状況は、「何でもかんで食べることができる」が71.1%と7割以上を占めている。
- 「食べ物によっては、かみにくいことがある」(26.9%)と「ほとんどかめない」(1.3%)を合わせた『支障がある』は3割近く(28.2%)となっている。



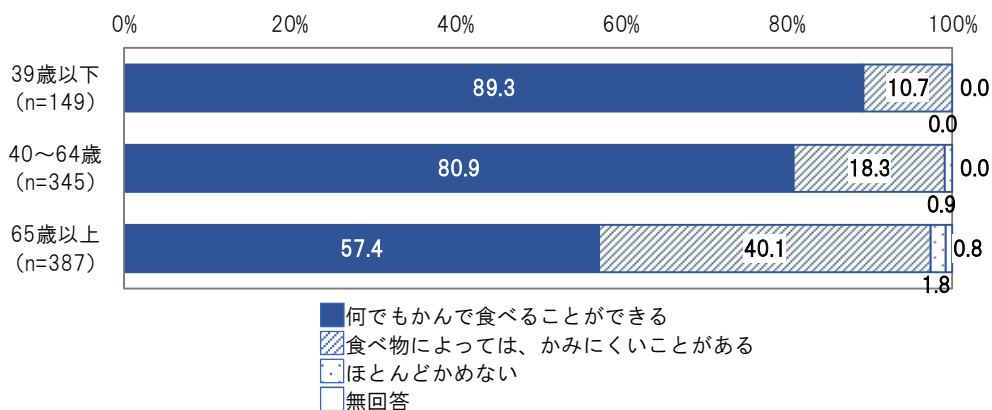
《性別》

- 性別にみると、女性では「何でもかんで食べることができる」が76.2%と7割を超え、男性(66.4%)を約10ポイント上回っている。



《年代別》

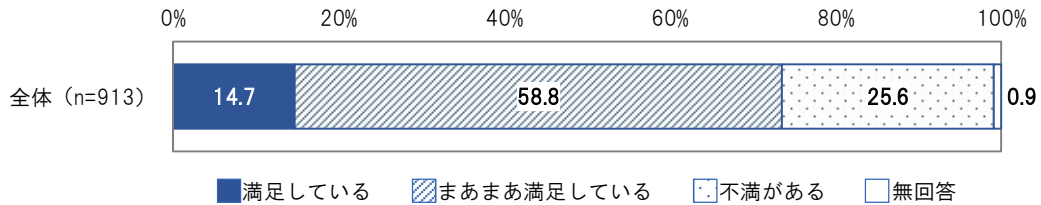
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「何でもかんで食べることができる」が低くなっており、65歳以上で57.4%と6割未満となっている。
- また、65歳以上では「食べ物によっては、かみにくいことがある」が40.1%と約4割を占めている。



(6) お口の状態の満足度

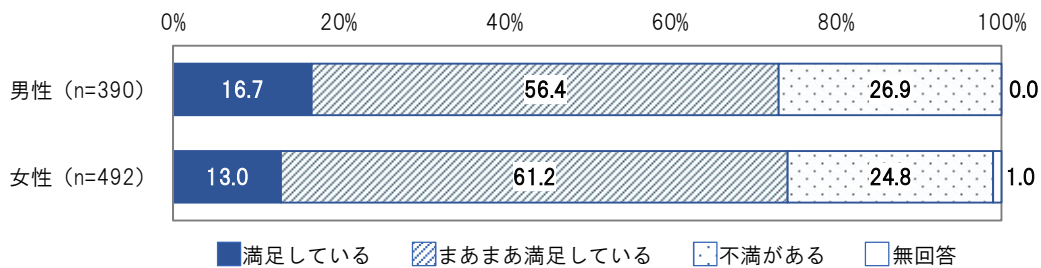
問 48 あなたは、現在のお口の状態に満足していますか。(○は1つだけ)

- お口の状態の満足度は、「まあまあ満足している」が 58.8%と6割近くを占めて最も高く、「満足している」(14.7%) と合わせると、『満足している』が7割を超えている。
- 一方で、「不満がある」は 25.6%と、2割を超えている。



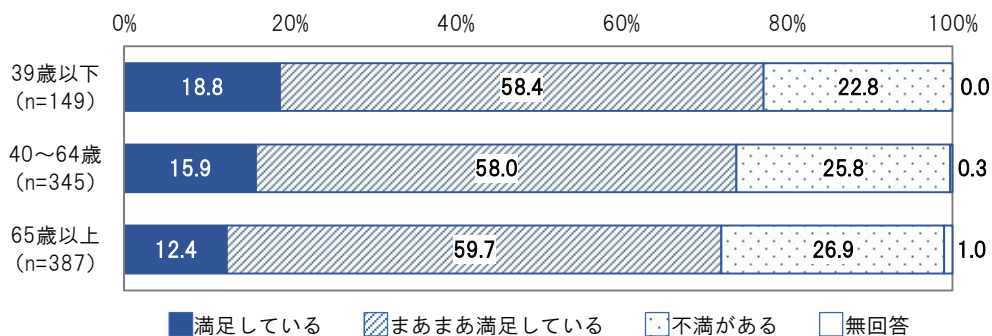
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『満足している』がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて『満足している』が高くなっており、39歳以下では8割近くを占めている。

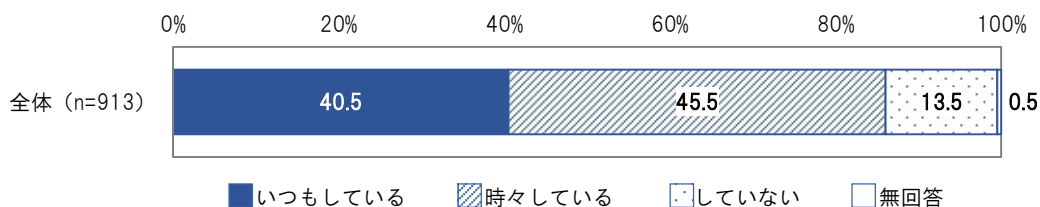


9. 運動習慣について

(1) 健康のため体を動かすこと

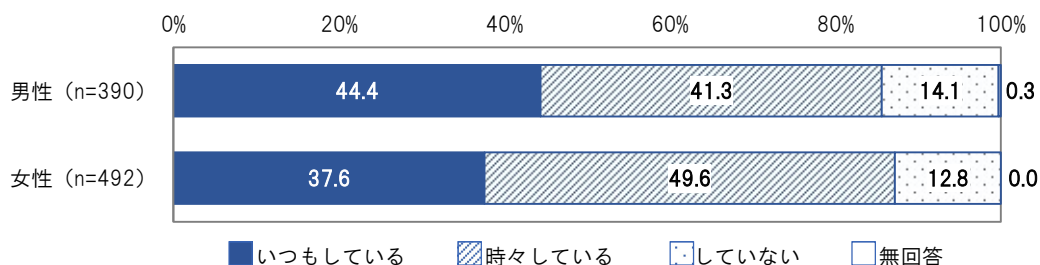
問 49 日ごろから日常生活のなかで、健康のため意識的に体を動かすように心がけていますか。
(例：なるべく歩く、階段を使うなど) (○は1つだけ)

- 健康のため体を動かすことは、「時々している」が 45.5%と4割を超えて最も高く、「いつもしている」(40.5%) と合わせると、『している』が8割を超えている。
- 一方で、「していない」は 13.5%と、1割を超えている。



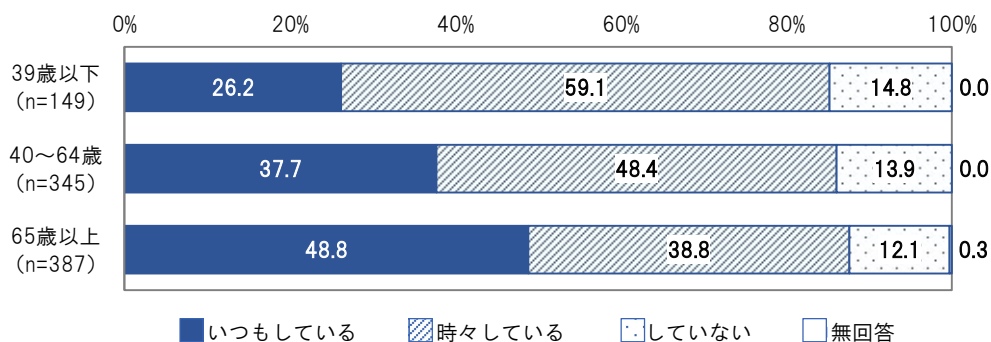
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で「いつもしている」が高くなっているものの、『している』の割合には大きな差異はみられない。



《年代別》

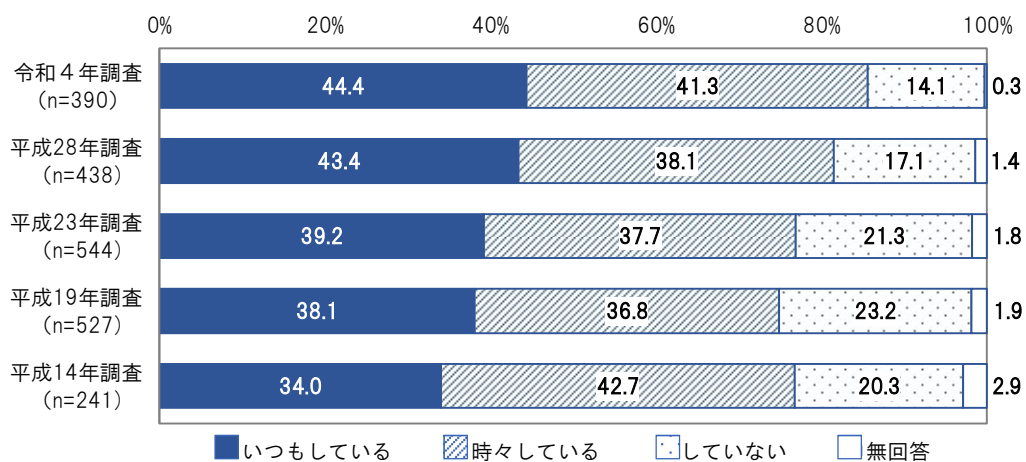
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「いつもしている」が高くなっており、65歳以上では半数近くを占めている。



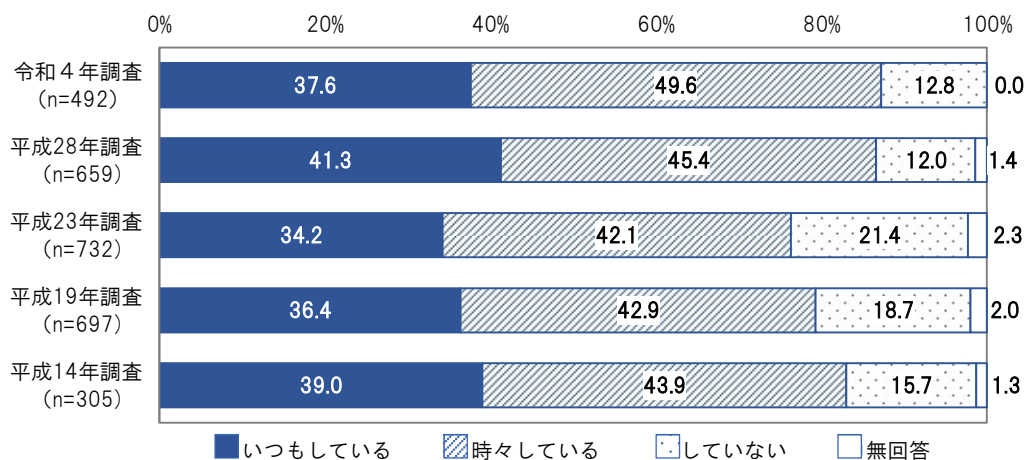
《経年比較》

- 経年で比較すると、男性では「いつもしている」が年々増加傾向となっており、『している』が平成19年調査以降増加傾向となっている。女性では、平成28年調査に比べて「いつもしている」がやや減少しているものの、『している』の割合は同程度となっている。

男性



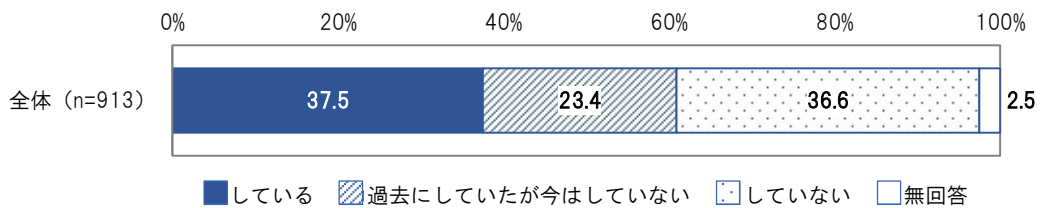
女性



(2) 運動やスポーツの習慣

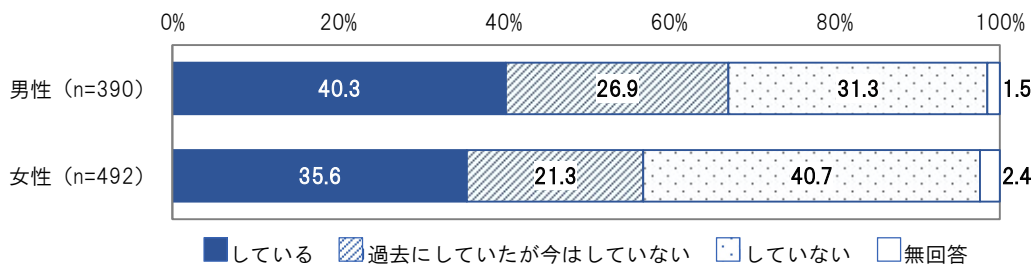
問 50 健康のために、何か運動やスポーツ（1回30分以上）をしていますか。（○は1つだけ）

- 運動やスポーツ（1回30分以上）の習慣は、「している」が37.5%と4割近くを占めて最も高くなっている。
- 一方で、「過去にしていたが今はしていない」（23.4%）と「していない」（36.6%）を合わせた『していない』は6割を占めている。



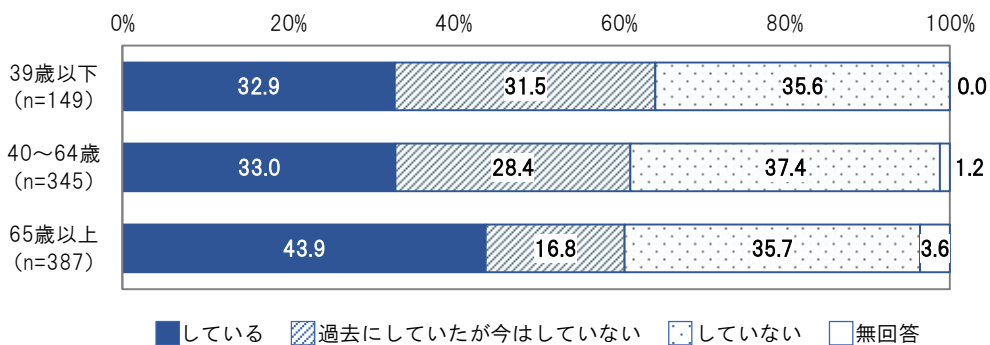
《性別》

- 性別にみると、「している」が、男性では40.3%と約4割を占め、女性（35.6%）を上回っている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「している」が高くなっており、65歳以上では4割以上を占めている。



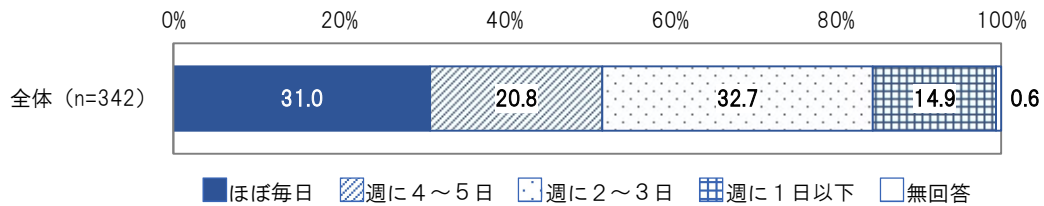
(2) -① 運動・スポーツの実施頻度

※ (2) で「している」と回答した人のみ

問 50 で (何か運動やスポーツを) 「している」と答えた方におたずねします。

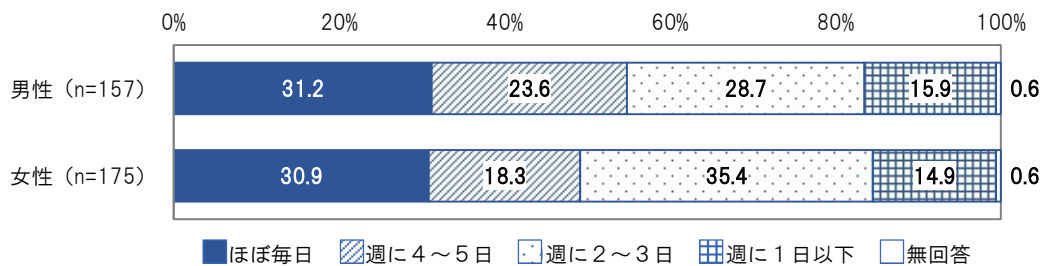
問 50-1 その運動・スポーツは1週間にどのくらいしていますか。(○は1つだけ)

- 運動・スポーツをしている人の実施頻度は、「週に2～3日」が32.7%と最も高く、次いで「ほぼ毎日」(31.0%)、「週に4～5日」(20.8%)となっており、『週2日以上』が8割を超えている。



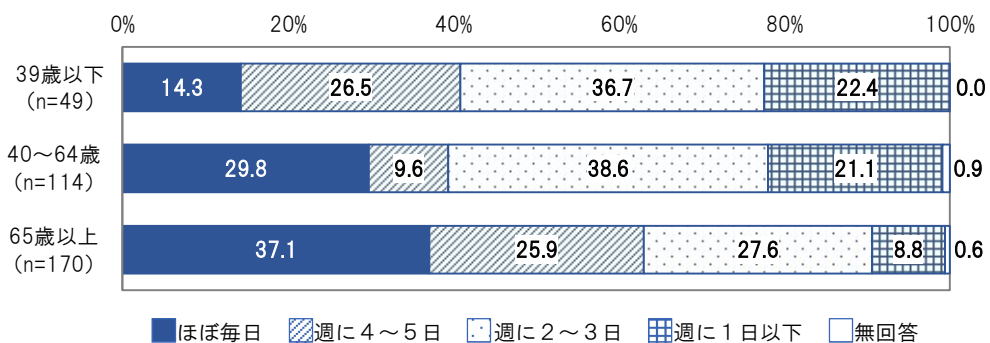
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で『週に4日以上』が高くなっている。



《年代別》

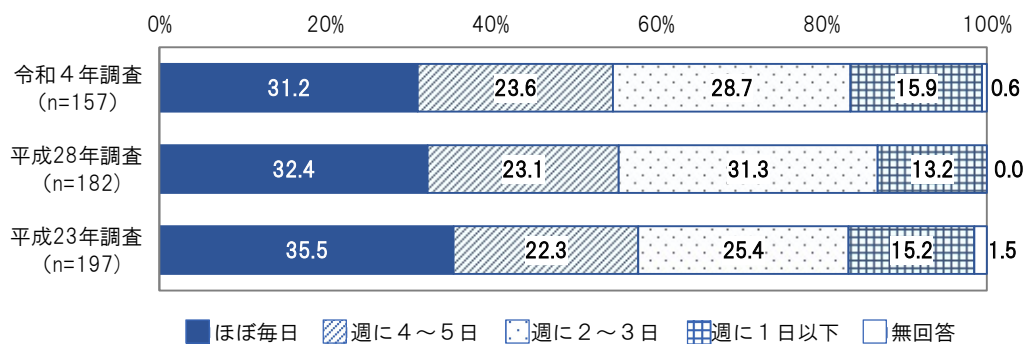
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「ほぼ毎日」が高くなっており、65歳以上では37.1%と4割近くを占めている。
- 『週2日以上』割合は、64歳以下では約8割、65歳以上では約9割となっている。



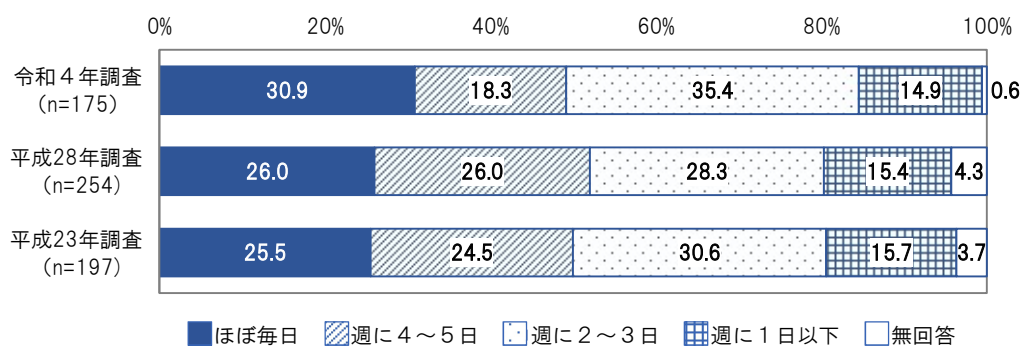
《経年比較》

- 経年で比較すると、男性では「ほぼ毎日」や「週に4～5日」が減少傾向となっており、運動頻度が減少しているのに対し、女性では、「ほぼ毎日」と「週に2～3日」が増加している。

男性



女性



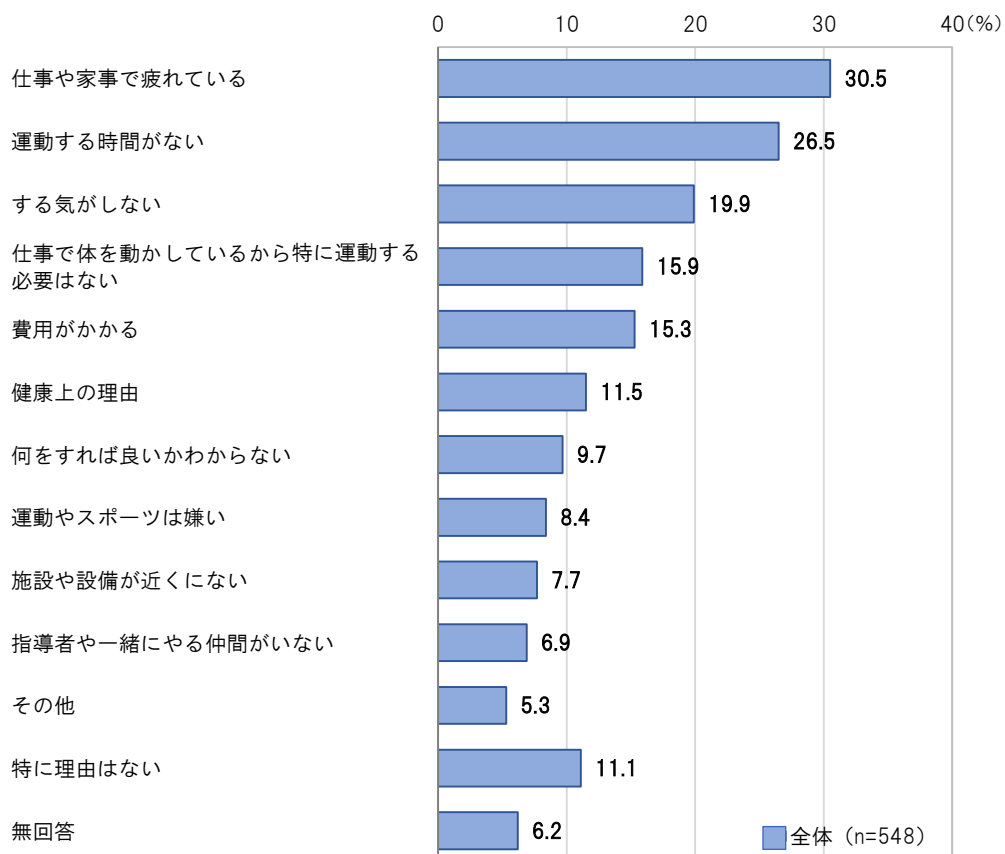
(2) -② 運動していない理由

※ (2) で「過去にしていたが今はしていない」または「していない」と回答した人のみ

問 50 で「過去にしていたが今はしていない」「していない」と答えた方におたずねします。

問 50-2 運動していない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

・運動・スポーツをしていない人の理由は、「仕事や家事で疲れている」が 30.5%と約3割を占めて最も高く、次いで「運動する時間がない」(26.5%)、「する気がしない」(19.9%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「する気がしない」や「健康上の理由」などで女性に比べてやや高く、女性では「仕事や家事で疲れている」や「運動する時間がない」、「費用がかかる」、「運動やスポーツは嫌い」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「仕事や家事で疲れている」や「運動する時間がない」、「する気がしない」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「健康上の理由」の回答が高くなる傾向がみられる。

(%)

		回答者数 (人)	仕事や家事で疲れている	運動する時間がない	する気がしない	仕事で体を動かしているから特に運動する必要はない	費用がかかる	健康上の理由
性別	男性	227	20.3	23.8	22.0	17.2	10.6	13.2
	女性	305	37.7	28.2	18.4	15.4	19.0	10.5
年代別	39歳以下	100	47.0	50.0	28.0	12.0	19.0	1.0
	40～64歳	227	42.3	30.8	21.6	19.4	22.0	10.1
	65歳以上	203	9.9	11.3	14.3	14.8	5.9	18.7

		何をすれば良いかわからない	運動やスポーツは嫌い	施設や設備が近くにない	指導者や一緒にやる仲間がない	その他	特に理由はない	無回答
(つづき)								
性別	男性	9.3	2.6	7.0	8.4	3.5	16.7	5.7
	女性	10.5	13.1	8.5	6.2	6.9	6.6	5.9
年代別	39歳以下	10.0	20.0	9.0	8.0	4.0	5.0	2.0
	40～64歳	7.9	5.7	8.4	7.0	5.3	9.7	3.5
	65歳以上	11.8	6.4	6.9	6.9	5.9	15.3	9.4

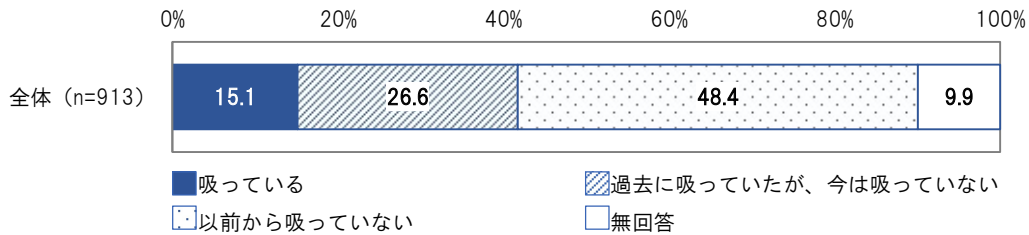
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

10. たばこについて

(1) 喫煙状況

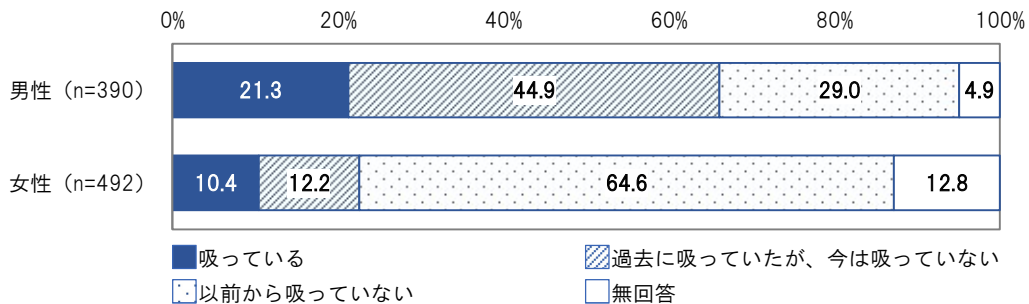
問 51 あなたは現在、たばこを吸っていますか。(加熱式たばこも含まます) (○は1つだけ)

- 喫煙状況については、「以前から吸っていない」が 48.4%と半数近くを占めて最も高く、「過去に吸っていたが、今は吸っていない」(26.6%) と合わせると、『吸っていない』が7割を超えている。
- 一方で、「吸っている」は 15.1%となっている。



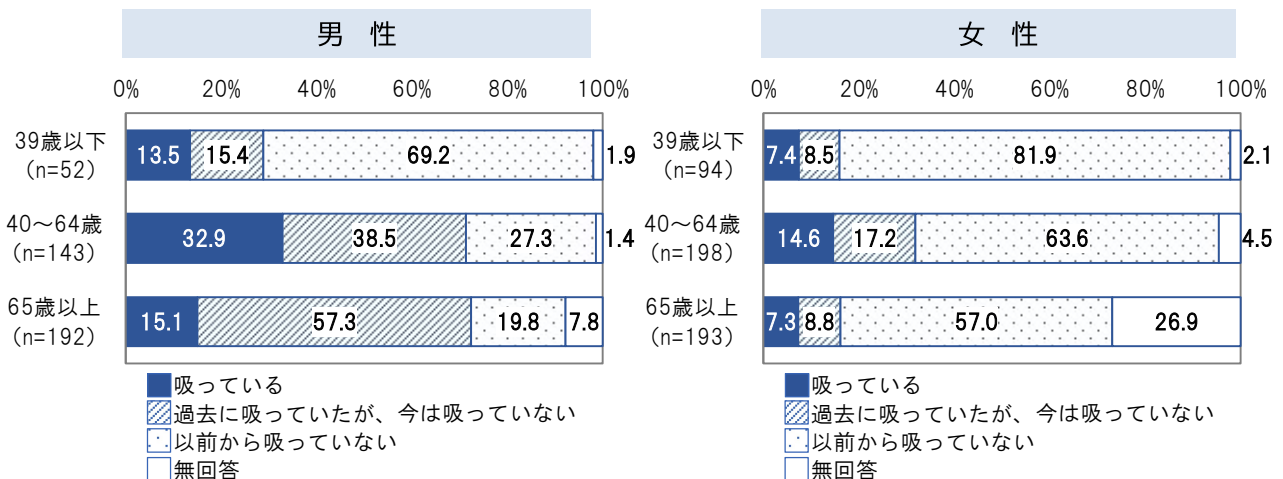
《性別》

- 性別にみると、「吸っている」が、男性では 21.3%と2割を超え、女性 (10.4%) を 10ポイント以上上回っている。



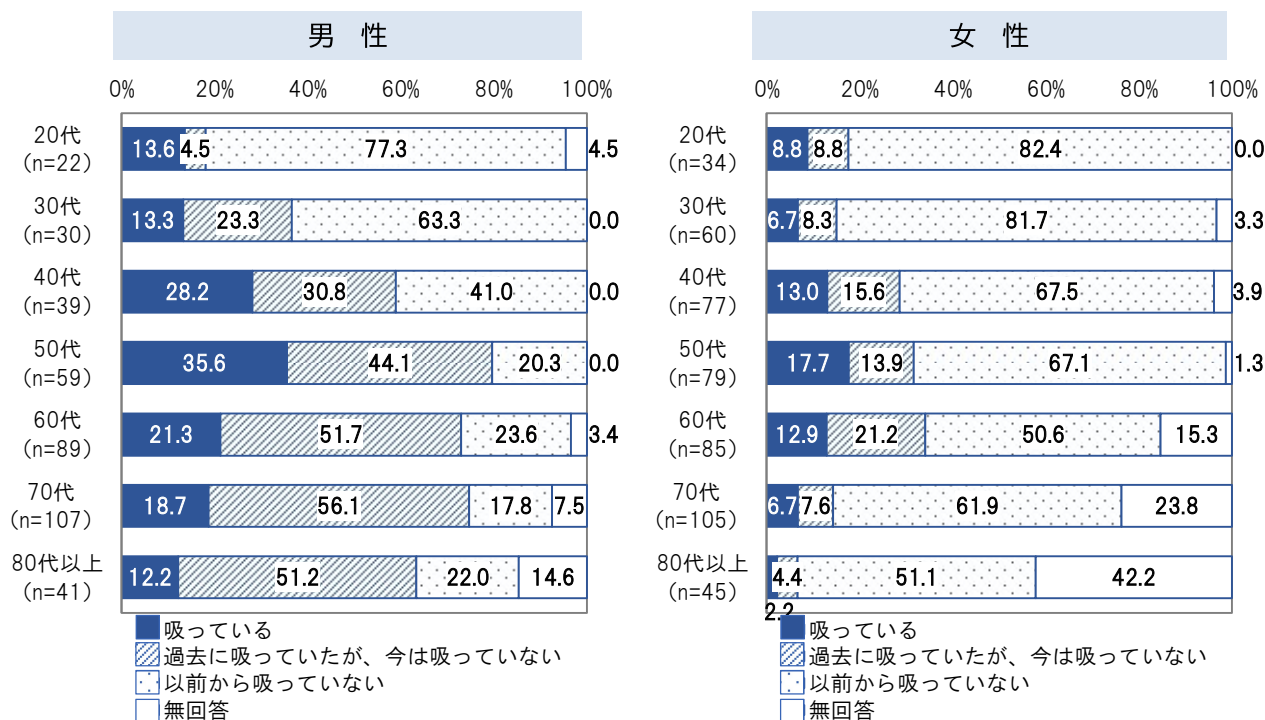
《性・年代別》

- 性・年代別にみると、男性・女性ともに 40～64 歳で「吸っている」がその他の年代に比べて高くなっており、特に男性では 32.9%と3割を超えている。
- また、男性では、年代が上がるにつれて「過去に吸っていたが、今は吸っていない」が高くなっており、65歳以上では6割近くを占めている。



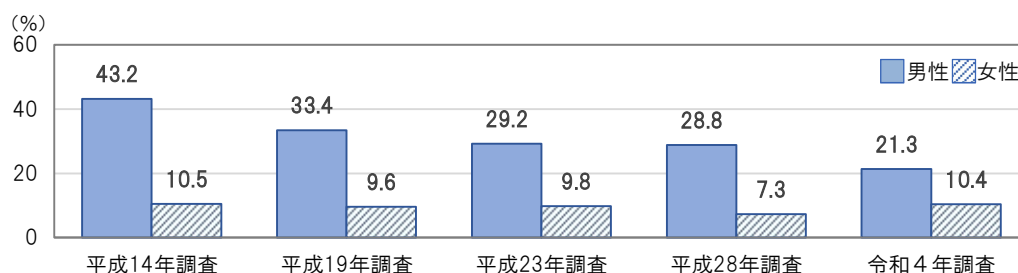
《性・年代10歳刻み別》

- ・性・年代10歳刻み別にみると、男性・女性ともに50代で「吸っている」が最も高く、特に男性では3割を超えている。
- ・また、男性では年代が上がるにつれて「過去に吸っていたが、今は吸っていない」が高くなる傾向にあり、60代以上では半数以上を占めている。



《喫煙率の経年比較》

- ・喫煙率（「吸っている」と回答した人の割合）のみ経年で比較すると、男性では年々減少傾向となっているのに対し、女性では平成28年調査の7.3%から10.4%と3.1ポイント増加している。

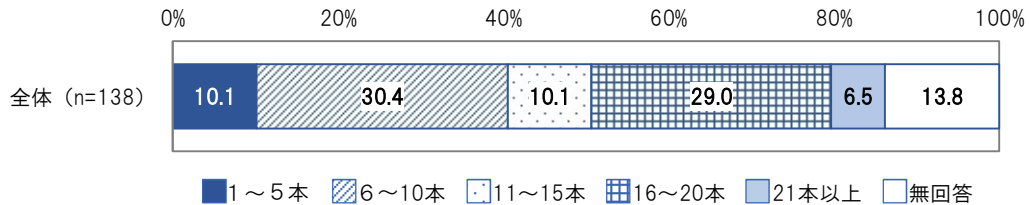


(1) -① 1日あたりの平均喫煙本数

※(1)で「吸っている」と回答した人のみ

問 51 1日平均何本吸っていますか。

- 1日あたりの平均喫煙本数は、「6～10本」が30.4%と約3割を占めて最も高く、次いで「16～20本」(29.0%)となっており、平均14.6本となっている。

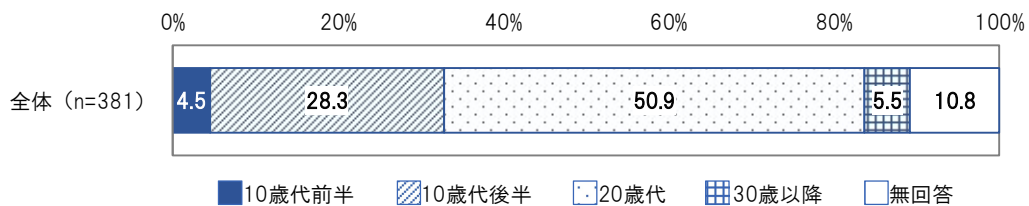


(1) -② 喫煙を始めた時期

※(1)で「吸っている」または「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と回答した人のみ

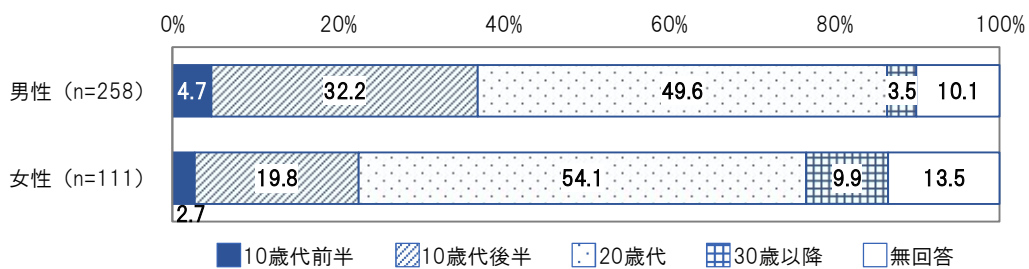
問 51 で「吸っている」「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と答えた方におたずねします。
問 51-1 あなたはいつごろからたばこを吸い始めましたか。(○は1つだけ)

- 喫煙を始めた時期は、「20歳代」が50.9%と約半数を占めて最も高くなっているものの、次いで「10歳代後半」(28.3%)となっており、「10歳代前半」(4.5%)と合わせると、『10歳代』から喫煙している人が3割以上となっている。



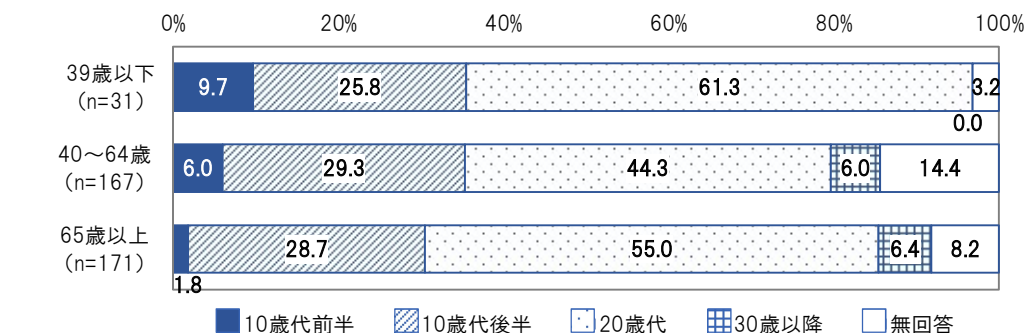
《性別》

- 性別にみると、女性に比べて男性で『10歳代』が高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「10歳代前半」が高くなっており、39歳以下では約1割となっている。



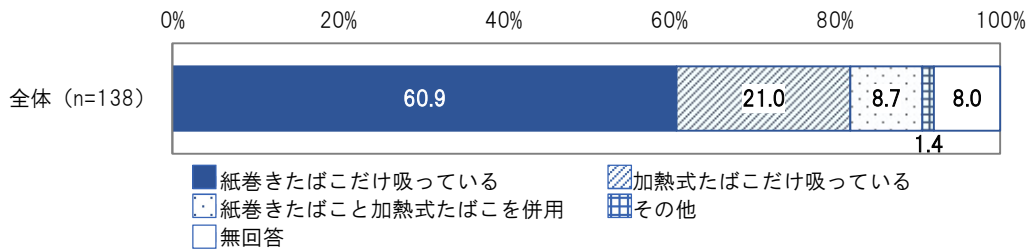
(1) -③ 喫煙しているたばこの種類

※ (1) で「吸っている」と回答した人のみ

問 51 で「吸っている」と答えた方におたずねします。

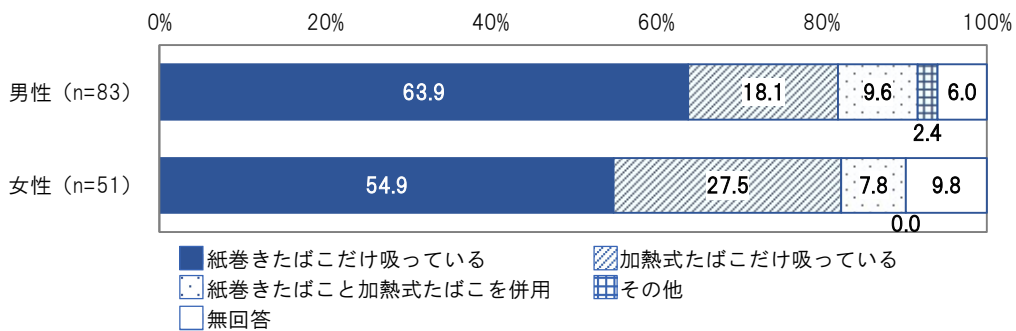
問 51-2 どんなたばこを吸っていますか。(○は1つだけ)

- ・喫煙しているたばこの種類は、「紙巻きたばこだけ吸っている」が60.9%と約6割を占めて最も高く、次いで「加熱式たばこだけ吸っている」(21.0%)、「紙巻きたばこと加熱式たばこを併用」(8.7%)となっている。



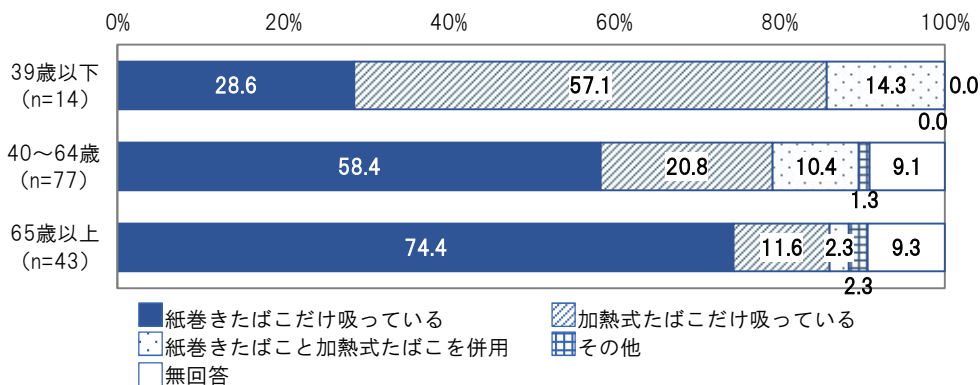
《性別》

- ・性別にみると、女性に比べて男性で「紙巻きたばこだけ吸っている」が高くなっている。



《年代別》

- ・年代別にみると、年代が上がるにつれて「紙巻きたばこだけ吸っている」が高くなっており、65歳以上では7割を超えている。
- ・年代が下がるにつれて「加熱式たばこだけ吸っている」および「紙巻きたばここと加熱式たばこを併用」が高くなっている。



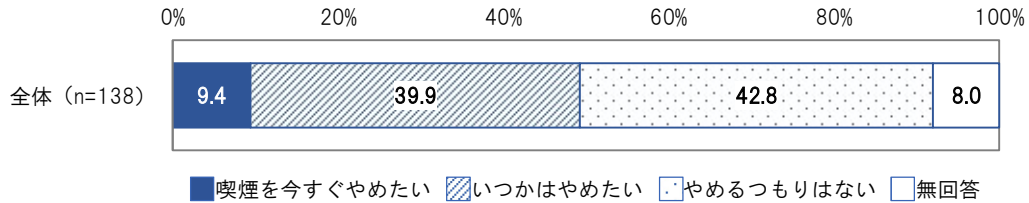
(1) -④ 喫煙についての今後の意向

※ (1) で「吸っている」と回答した人のみ

問 51 で「吸っている」と答えた方におたずねします。

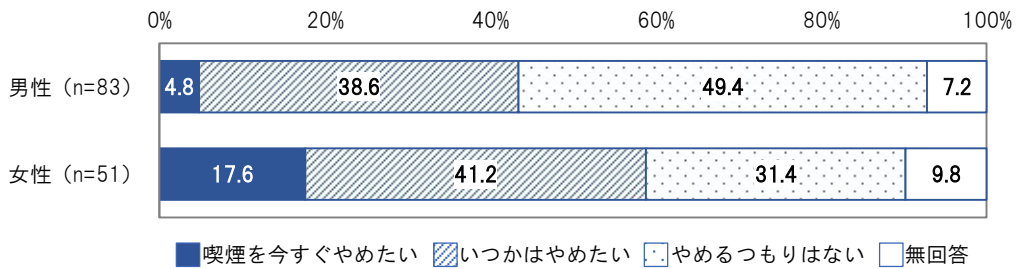
問 51-3 ①喫煙について今後、どうしたいですか。(○は1つだけ)

- 喫煙についての今後の意向は、「やめるつもりはない」が42.8%と4割を超えて最も高くなっている。次いで、「いつかはやめたい」が約4割(39.9%)となっており、「喫煙を今すぐやめたい」(9.4%)と合わせると、『やめたい』が約半数となっている。



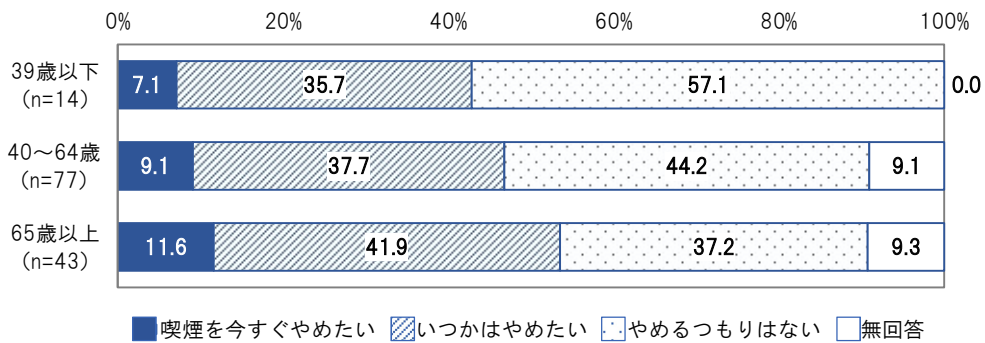
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『やめたい』が高くなっている。



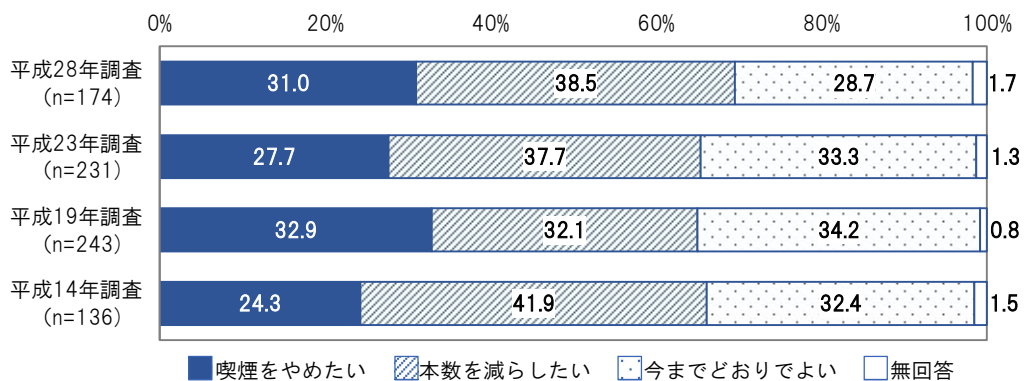
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『やめたい』が高くなっており、65歳以上では半数を超えている。



《経年比較（参考）》※選択肢が今回調査と違うため過去調査のみを掲載

- 過去の調査では、「喫煙をやめたい」が増加し、「今までどおりでよい」が減少する傾向となっている。

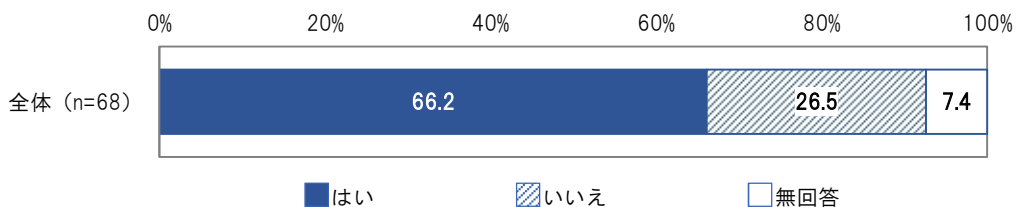


(1) -⑤ 禁煙治療が保険診療でできることの認知度

※(1) -④で「喫煙を今すぐやめたい」または「いつかはやめたい」と回答した人のみ

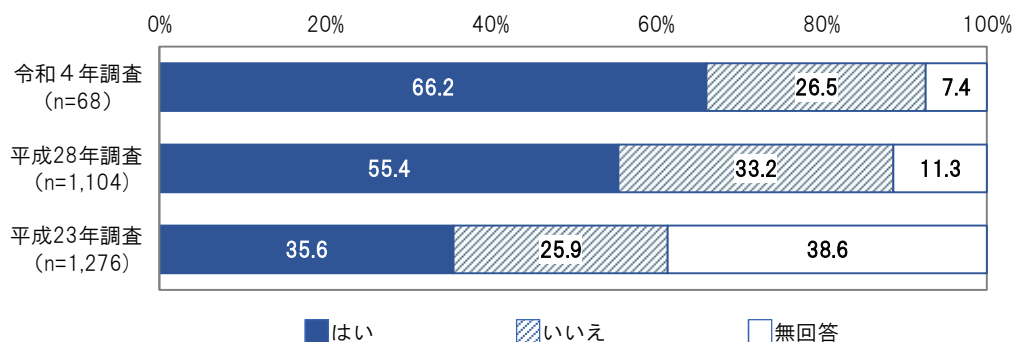
問 51-3 ②禁煙治療が保険診療で認められていることを知っていますか。(○は1つだけ)
 ※禁煙治療で貼り薬や飲み薬などがあります。

- 禁煙治療が保険診療でできることの認知度は、「はい（知っている）」が66.2%と7割近くを占めており、「いいえ（知らない）」は26.5%となっている。



《経年比較（参考）》※平成23年・平成28年調査では全員を対象としている

- 経年で比較すると、「はい（知っている）」が増加している。



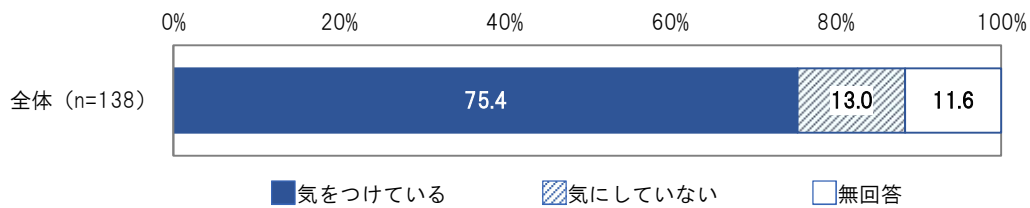
(1) -⑥ 受動喫煙をさせないような配慮

※ (1) で「吸っている」と回答した人のみ

問 51 で「吸っている」と答えた方におたずねします。

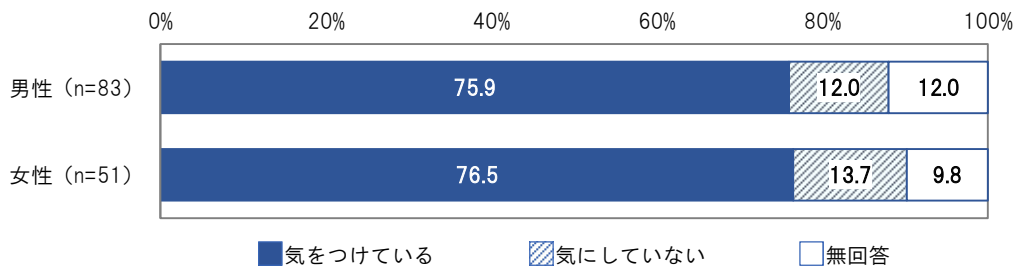
問 51-4 周りの人に受動喫煙をさせないように気をつけていますか。(○は1つだけ)

- 受動喫煙をさせないような配慮については、「気をつけている」が 75.4%と7割を超えている。
- 一方で、「気にしていない」が 13.0%と1割を超えている。



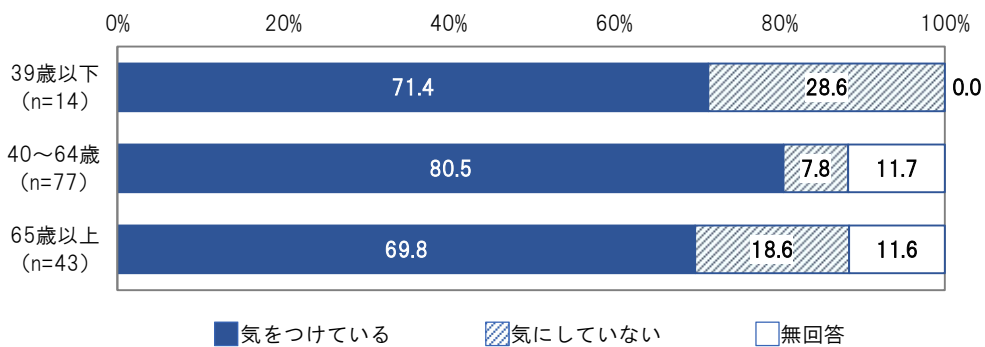
《性別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、「気をつけている」が 40～64 歳で 80.5%と約8割を占めて最も高くなっている。

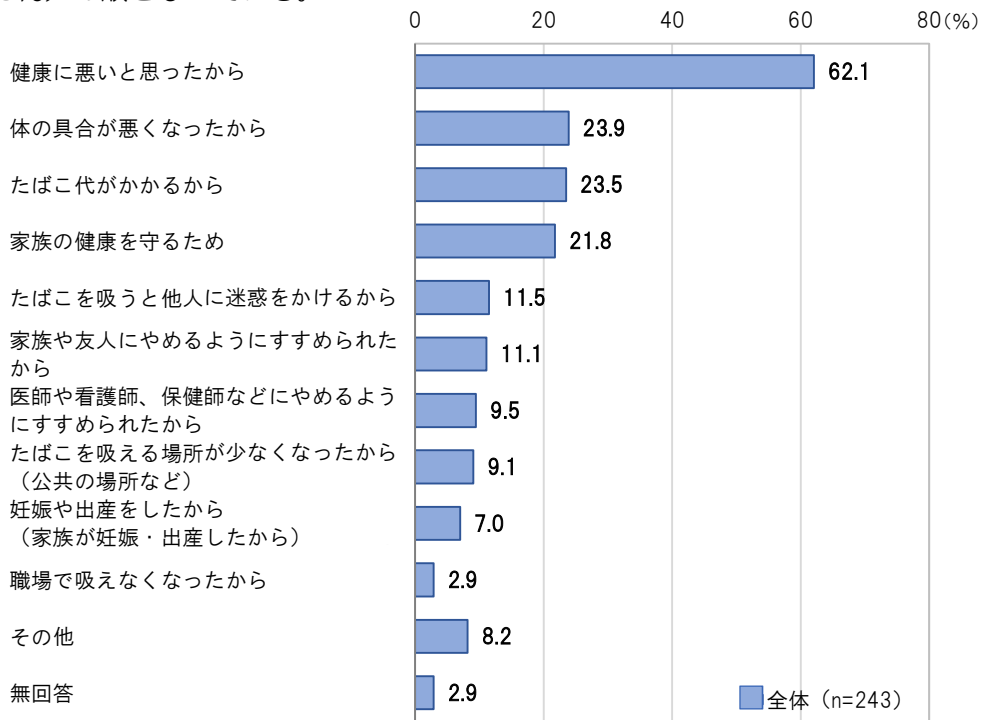


(1) -⑦ 喫煙をやめた理由

※(1)で「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と回答した人のみ

問 51 で「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と答えた方におたずねします。
 問 51-5 やめた理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

・喫煙をやめた理由は、「健康に悪いと思ったから」が62.1%と6割を超えて最も高く、次いで「体の具合が悪くなったから」(23.9%)、「たばこ代がかかるから」(23.5%)、「家族の健康を守るため」(21.8%)の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、女性では「妊娠や出産をしたから(家族が妊娠・出産したから)」で男性に比べて高くなっており、その他の項目では男性が女性に比べて高くなっている。
- ・年代別にみると、概ね年代が上がるにつれて「体の具合が悪くなったから」や「家族の健康を守るため」、「家族や友人にやめるようにすすめられたから」などの回答が高くなる傾向がみられる。

		回答者数 (人)	健康に悪いと思ったから	体の具合が悪くなったから	たばこ代がかかるから	家族の健康を守るため	たばこを吸うと他人に迷惑をかけるから	家族や友人にやめるようにすすめられたから	医師や看護師、保健師などにやめるようにすすめられたから	たばこを吸える場所が少なくなったから(公共の場所など)	妊娠・出産をしたから(家族が妊娠・出産したから)	職場で吸えなくなったから	その他	無回答
性別	男性	175	64.0	29.1	25.1	24.0	10.9	12.6	11.4	9.7	2.3	4.0	8.0	1.7
	女性	60	55.0	10.0	18.3	11.7	10.0	8.3	3.3	6.7	18.3	-	10.0	5.0
年代別	39歳以下	17	47.1	11.8	29.4	11.8	-	5.9	-	11.8	29.4	-	5.9	-
	40～64歳	90	65.6	14.4	31.1	17.8	8.9	10.0	3.3	8.9	8.9	4.4	5.6	3.3
	65歳以上	128	60.2	32.0	18.0	24.2	14.1	13.3	14.1	8.6	2.3	2.3	10.9	2.3

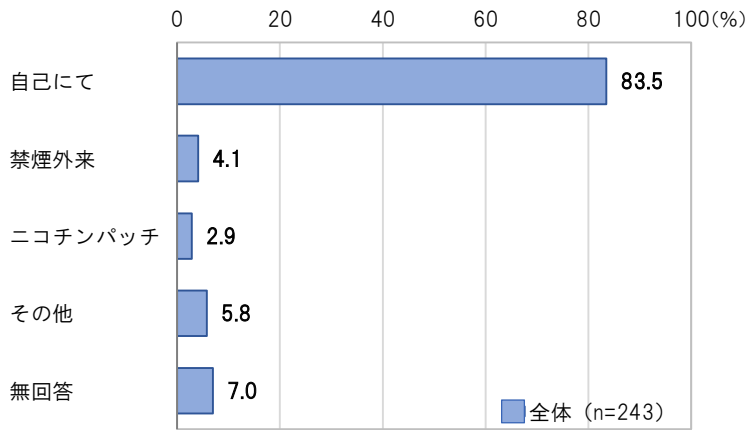
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(1) -⑧ 禁煙方法

※(1)で「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と回答した人のみ

問 51 で「過去に吸っていたが、今は吸っていない」と答えた方におたずねします。
 問 51-6 どのような禁煙方法で禁煙されましたか。(○はあてはまるものすべて)

- 喫煙をやめた人の禁煙方法は、「自己にて」が 83.5%と8割を超えて最も高くなっており、「禁煙外来」や「ニコチンパッチ」などを利用した人は1割未満となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性で「禁煙外来」や「ニコチンパッチ」で女性に比べてやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。
- 年代別にみると、40～64歳では「自己にて」が78.9%と8割未満となっており、その他の年代に比べて低くなっている。

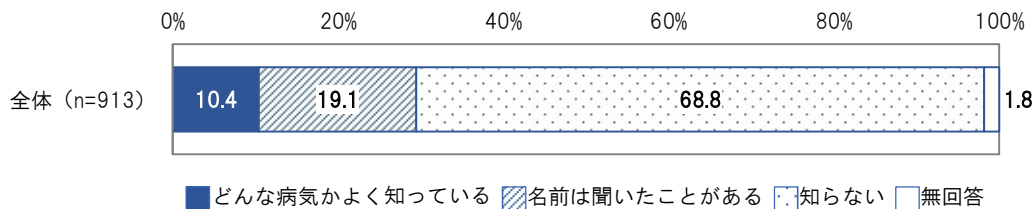
		回答者数 (人)	自己にて	禁煙外来	ニコチンパッチ	その他	無回答
性別	男性	175	83.4	4.6	2.9	6.3	6.9
	女性	60	83.3	3.3	1.7	5.0	8.3
年代別	39歳以下	17	100.0	-	-	-	-
	40～64歳	90	78.9	4.4	5.6	5.6	10.0
	65歳以上	128	83.6	4.7	1.6	7.0	6.3

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) COPD (シー・オー・ピー・ディー/慢性閉塞性肺疾患) の認知度

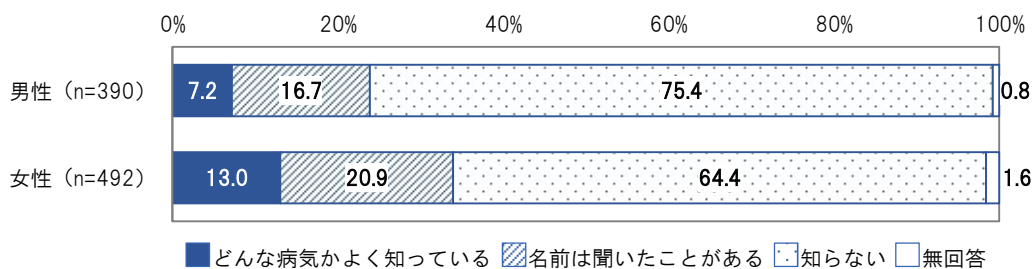
問 52 あなたはCOPD (シー・オー・ピー・ディー/慢性閉塞性肺疾患) という病気を知っていますか。(○は1つだけ)

- COPD (慢性閉塞性肺疾患) の認知度は、「知らない」が68.8%と7割近くを占めており、「名前は聞いたことがある」(19.1%) と合わせると、『どんな病気か知らない』が9割近くを占めている。また、「どんな病気かよく知っている」は約1割(10.4%)となっている。



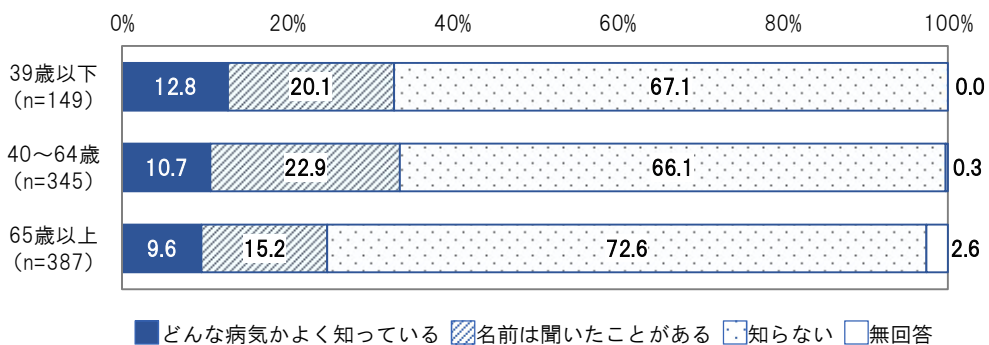
《性別》

- 性別にみると、「どんな病気かよく知っている」が、女性では13.0%と1割を超え、男性(7.2%)を上回っている。



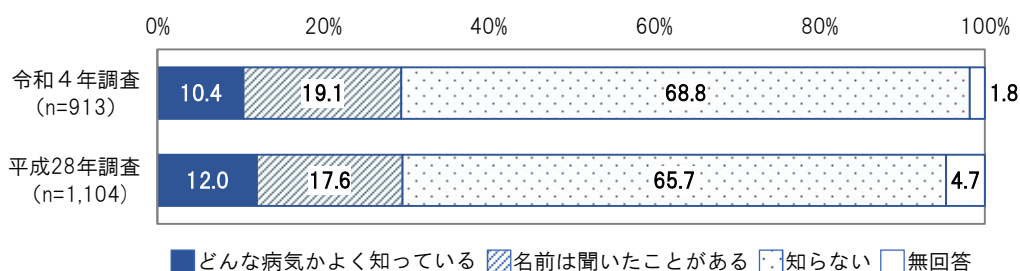
《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「どんな病気かよく知っている」が低くなっており、65歳以上では1割未満となっている。



《経年比較》

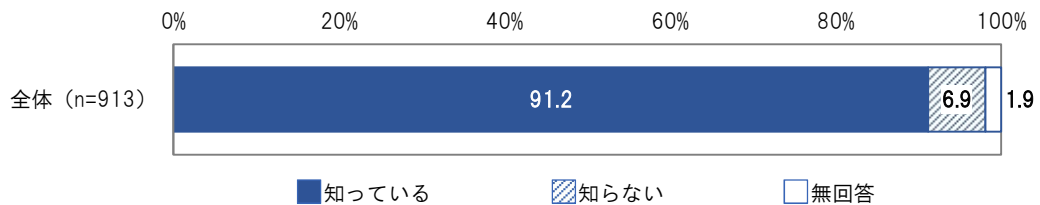
- 平成28年調査と比較すると、「どんな病気かよく知っている」がやや減少しているものの、大きな差異はみられない。



(3) 受動喫煙でも健康に悪影響が出ることの認知度

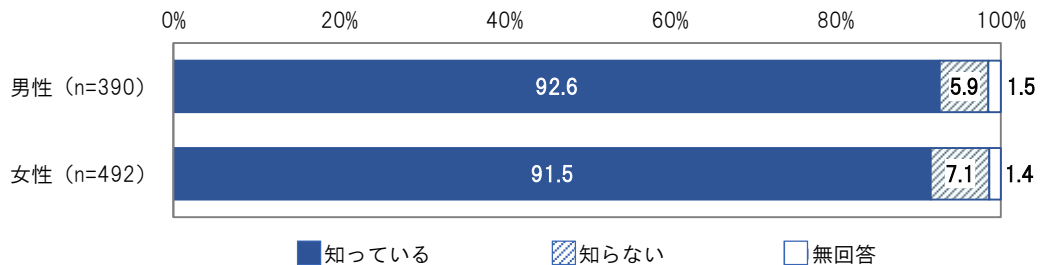
問 53 喫煙者だけでなく、受動喫煙でも健康に悪影響が出ることを知っていますか。
(○は1つだけ)

- 受動喫煙でも健康に悪影響が出ることの認知度は、「知っている」が91.2%と9割を超えており、「知らない」は6.9%となっている。



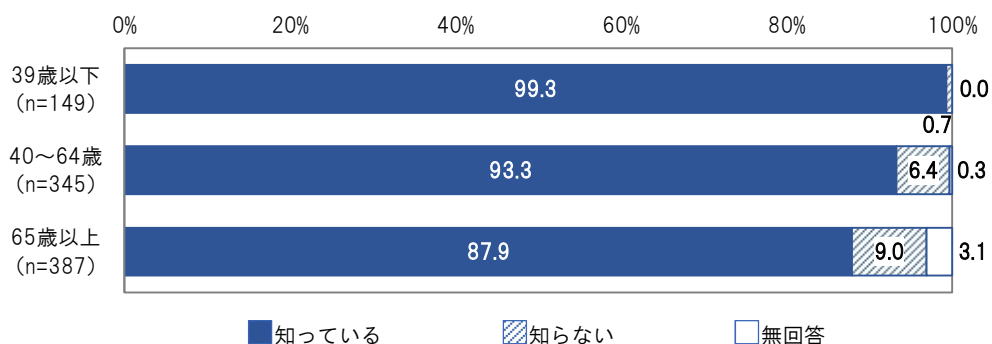
《性別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。



《年代別》

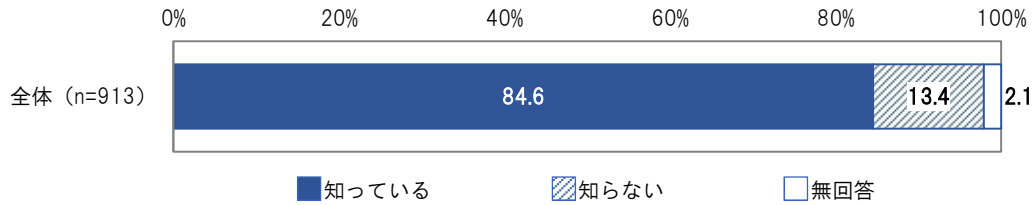
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「知っている」が高くなっており、39歳以下ではほぼ全員となっている。
- また、「知らない」が65歳以上で約1割（9.0%）となっている。



(4) 子どもの受動喫煙が大人よりも体に悪影響が出ることの認知度

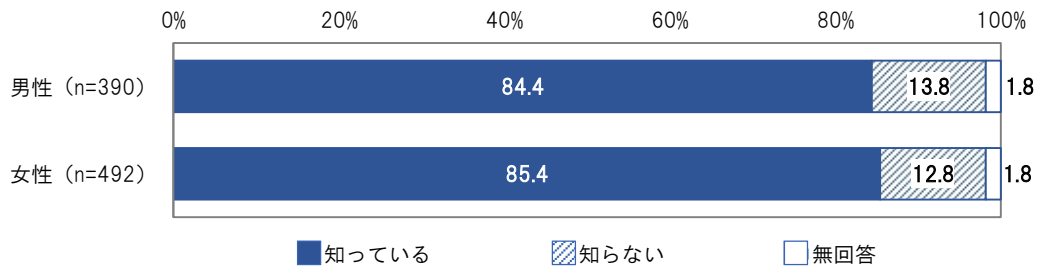
問 54 子どもがたばこの煙を吸うと、大人よりも体に悪影響が出ることを知っていますか。
(○は1つだけ)

- 子どもの受動喫煙が大人よりも体に悪影響が出ることの認知度は、「知っている」が84.6%と8割を超えており、「知らない」は13.4%となっている。



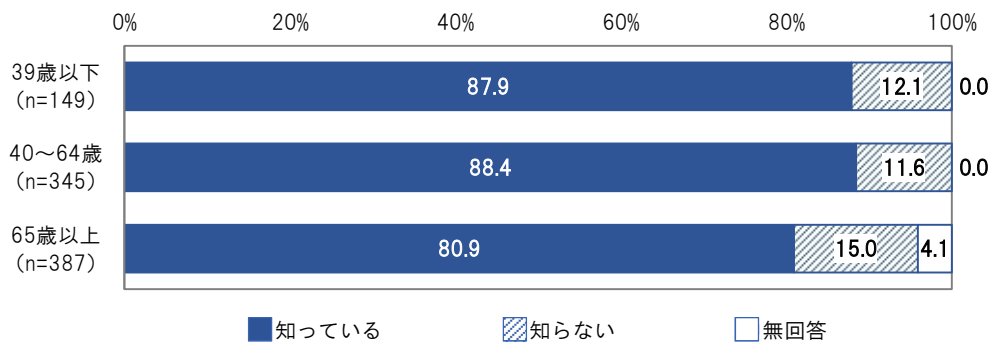
《性別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。



《年代別》

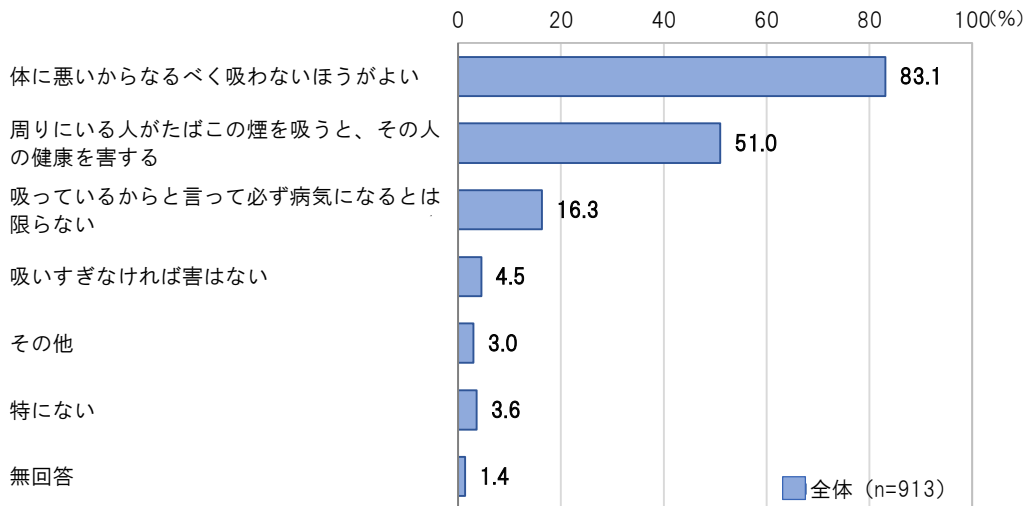
- 年代別にみると、「知っている」は64歳以下では9割近くを占めているのに対し、65歳以上では約8割となっている。



(5) たばこについて思うこと

問 55 たばこについて、あなたはどのように思っていますか。(○はあてはまるものすべて)

- たばこについて思うことは、「体に悪いからなるべく吸わないほうがよい」が83.1%と8割を超えて最も高く、次いで「周りにいる人がたばこの煙を吸うと、その人の健康を害する」(51.0%)、「吸っているからと言って必ず病気になるとは限らない」(16.3%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「吸っているからと言って必ず病気になるとは限らない」や「吸いすぎなければ害はない」で女性に比べて高くなっており、女性では「体に悪いからなるべく吸わないほうがよい」や「周りにいる人がたばこの煙を吸うと、その人の健康を害する」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、40歳以上で「周りにいる人がたばこの煙を吸うと、その人の健康を害する」が、39歳以下に比べてやや高くなっている。

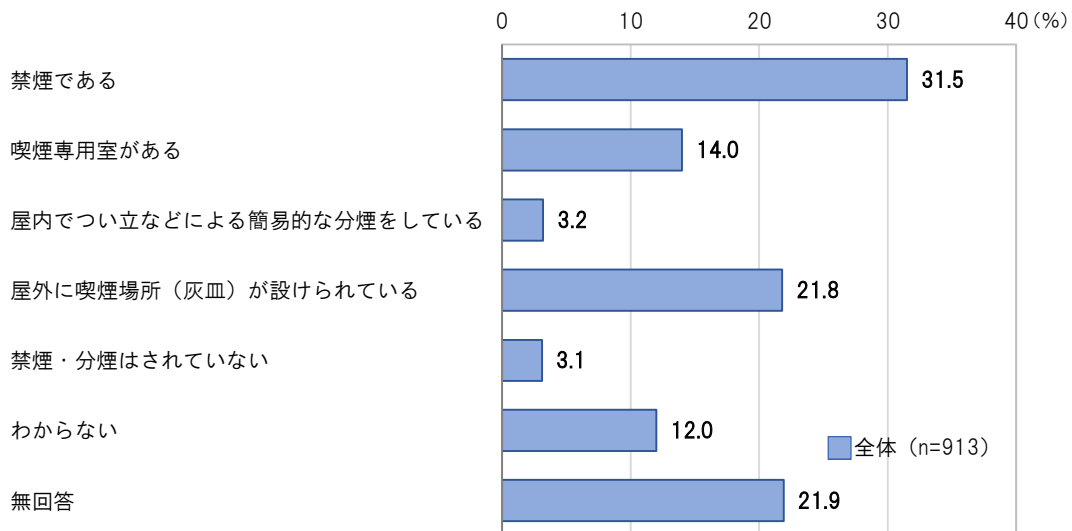
		回答者数(人)	体に悪いからなるべく吸わないほうがよい	周りにいる人がたばこの煙を吸うと、その人の健康を害する	吸っているからと言って必ず病気になるとは限らない	吸いすぎなければ害はない	その他	特にない	無回答
性別	男性	390	80.3	43.8	20.0	6.4	2.6	4.6	1.0
	女性	492	86.8	57.7	13.2	2.8	3.3	2.6	0.8
年代別	39歳以下	149	85.9	45.0	12.8	3.4	4.0	4.0	-
	40～64歳	345	82.0	53.9	19.7	5.2	3.5	4.9	-
	65歳以上	387	84.5	52.2	14.5	3.9	2.1	2.6	2.1

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) 職場での禁煙や分煙の状況

問 56 あなたの職場では、禁煙や分煙がされていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 職場での禁煙や分煙の状況は、「禁煙である」が31.5%と3割を超えて最も高く、次いで「屋外に喫煙場所（灰皿）が設けられている」（21.8%）、「喫煙専用室がある」（14.0%）の順となっている。
- 「禁煙・分煙はされていない」が3.1%となっており、「わからない」（12.0%）及び無回答を除いた、6割以上の職場では禁煙や分煙の対策が取られていることがわかる結果となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「喫煙専用室がある」や「屋外に喫煙場所（灰皿）が設けられている」で女性に比べて高く、女性では「禁煙である」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、すべての年代で「禁煙である」が最も高くなっており、特に39歳以下では4割を超えている。

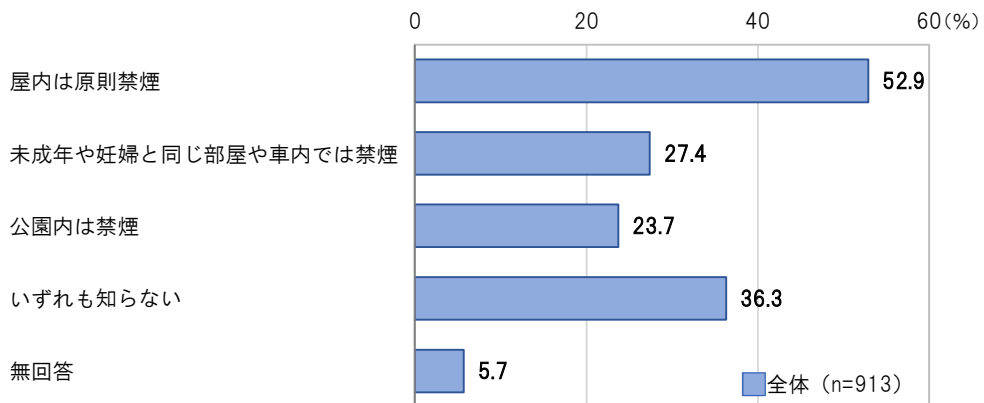
		回答者数 (人)	禁煙である	喫煙専用室がある	屋内でつい立などによる簡易的な分煙をしている	屋外に喫煙場所（灰皿）が設けられている	禁煙・分煙はされていない	わからない	無回答
性別	男性	390	27.7	16.9	4.6	27.2	3.3	12.1	18.5
	女性	492	35.2	12.0	2.0	18.1	2.6	12.0	23.8
年代別	39歳以下	149	46.3	21.5	4.0	28.9	0.7	8.1	-
	40～64歳	345	39.4	17.7	4.6	30.4	3.8	8.7	4.6
	65歳以上	387	19.4	8.5	1.6	12.1	3.1	16.8	44.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 健康増進法の改正による受動喫煙防止の取組開始の認知度

問 57 健康増進法の改正により、2020 年 4 月から次の受動喫煙防止の取組が開始されていることを知っていますか。(〇はあてはまるものすべて)

- 健康増進法の改正による受動喫煙防止の取組開始の認知度は、「屋内は原則禁煙」が 52.9%と半数を超えて最も高く、次いで「未成年や妊婦と同じ部屋や車内では禁煙」(27.4%)、「公園内は禁煙」(23.7%) の順となっている。
- また、「いずれも知らない」が 36.3%と 3 割を超えている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「屋内は原則禁煙」が低くなっており、65 歳以上では 48.8%と半数未満となっている。

		回答者数 (人)	屋内は原則禁煙	未成年や妊婦と同じ部屋や車内では禁煙	公園内は禁煙	いずれも知らない	無回答
性別	男性	390	52.6	29.5	25.6	37.2	4.4
	女性	492	53.9	25.8	22.0	35.8	5.9
年代別	39歳以下	149	57.0	20.8	20.8	39.6	-
	40～64歳	345	56.5	27.2	27.0	37.1	0.3
	65歳以上	387	48.8	30.0	22.0	34.9	11.4

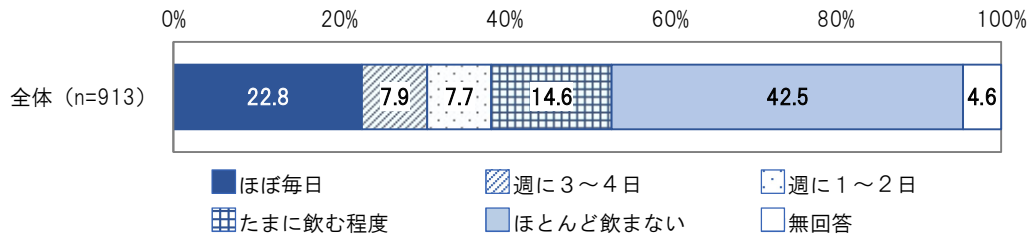
※1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

11. 飲酒について

(1) 飲酒頻度

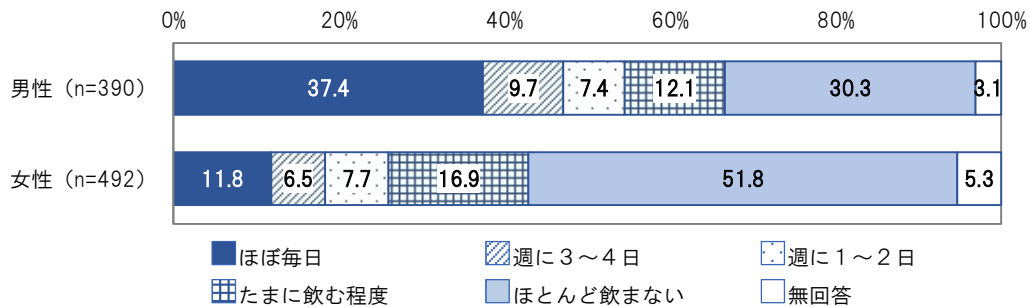
問 58 アルコール（洋酒・日本酒・ビール・焼酎など）をどのくらい飲みますか。
 (○は1つだけ)

- ・飲酒頻度は、「ほとんど飲まない」が42.5%と4割を超えて最も高くなっている。
- ・一方で、「ほぼ毎日」が22.8%と次いで高くなっており、「週に3～4日」(7.9%)、「週に1～2日」(7.7%)を合わせた『週1日以上』が4割近く(38.4%)となっている。



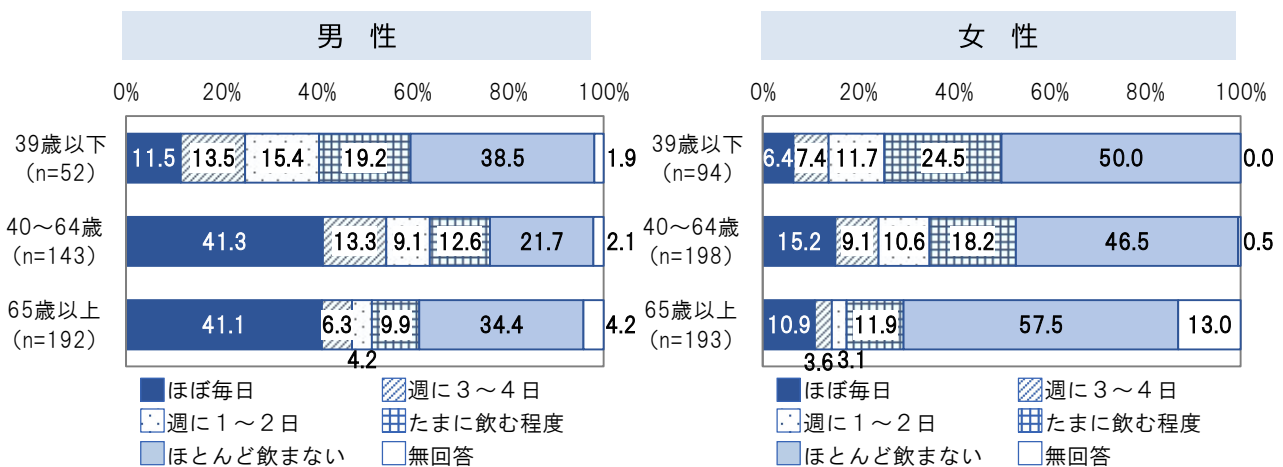
《性別》

- ・性別にみると、「ほぼ毎日」が、男性では37.4%と4割近くを占め、女性(11.8%)に比べて高くなっている。



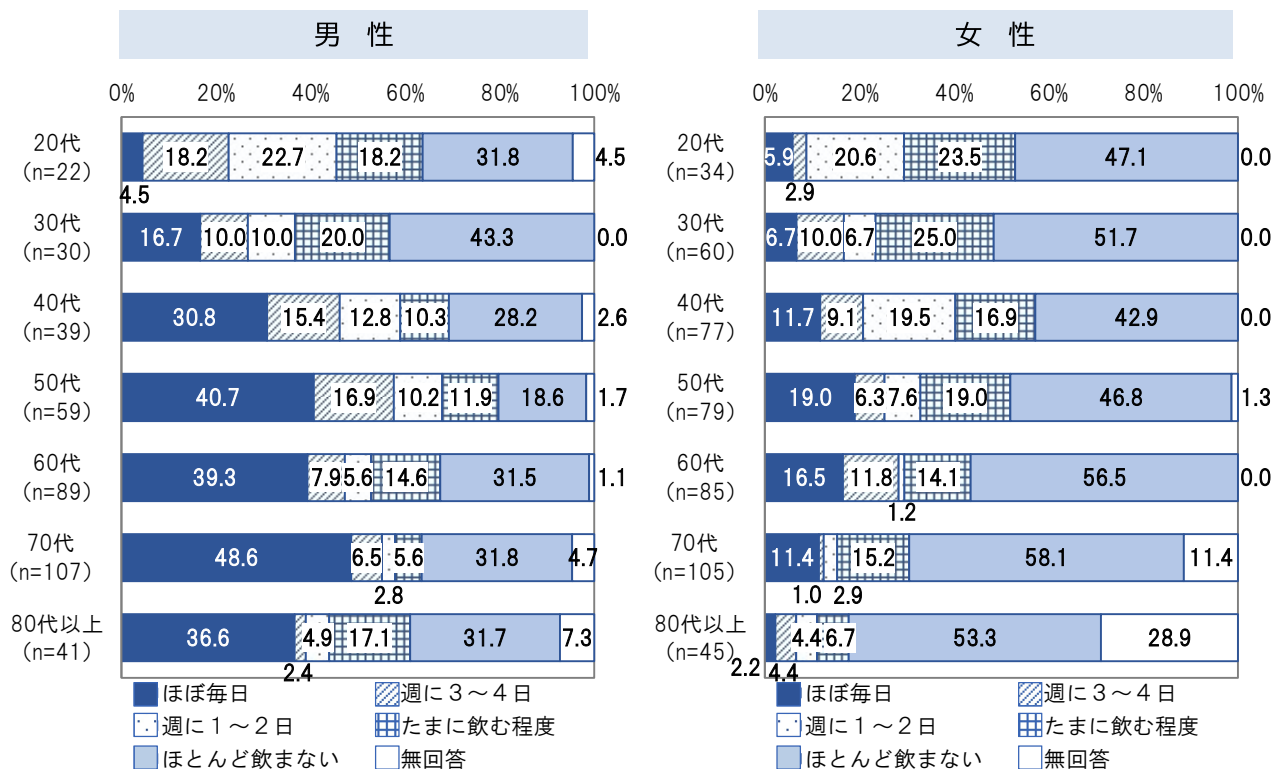
《性・年代別》

- ・性・年代別にみると、男性では40歳以上で「ほぼ毎日」が4割を超えている。
- ・女性では、40～64歳で「ほぼ毎日」が1割を超え、その他の年代に比べて高くなっている。



《性・年代10歳刻み別》

・性・年代10歳刻み別にみると、女性ではすべての年代で「ほとんど飲まない」が最も高くなっているのに対し、男性では40代以上で「ほぼ毎日」が最も高く、特に70代では半数近くを占めている。



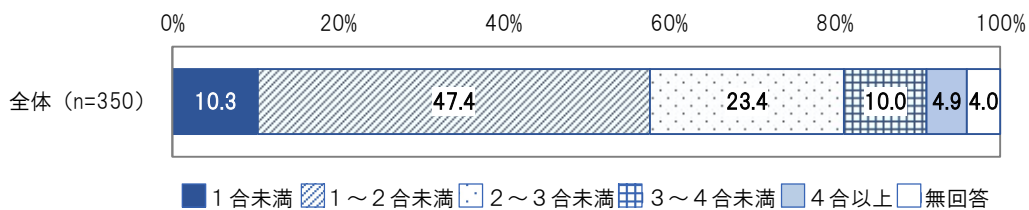
(1) -① 1日あたりの飲酒量

※ (1) で「ほぼ毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」のいずれかを回答した人のみ

問 58 で「ほぼ毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」と答えた方におたずねします。

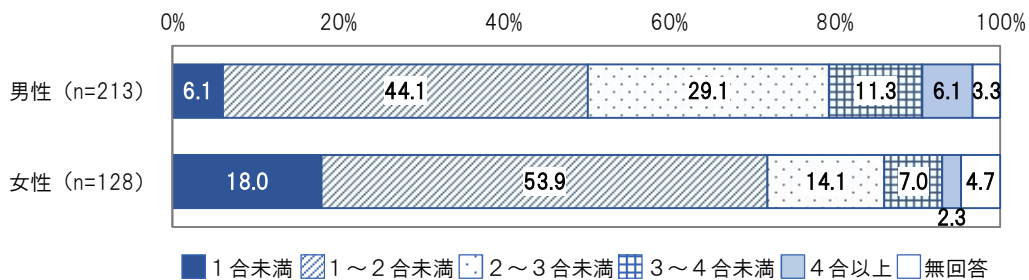
問 58-1 飲んだ量を日本酒に換算すると、ふだん1日にどれだけの量を飲んでいることになりま
すか。

- ・飲酒している人の1日あたりの飲酒量は、「1～2合未満」が47.4%と半数近くを占めて最も高く、次いで「2～3合未満」(23.4%)、「1合未満」(10.3%)、「3～4合未満」(10.0%)、「4合以上」(4.9%)の順になっている。



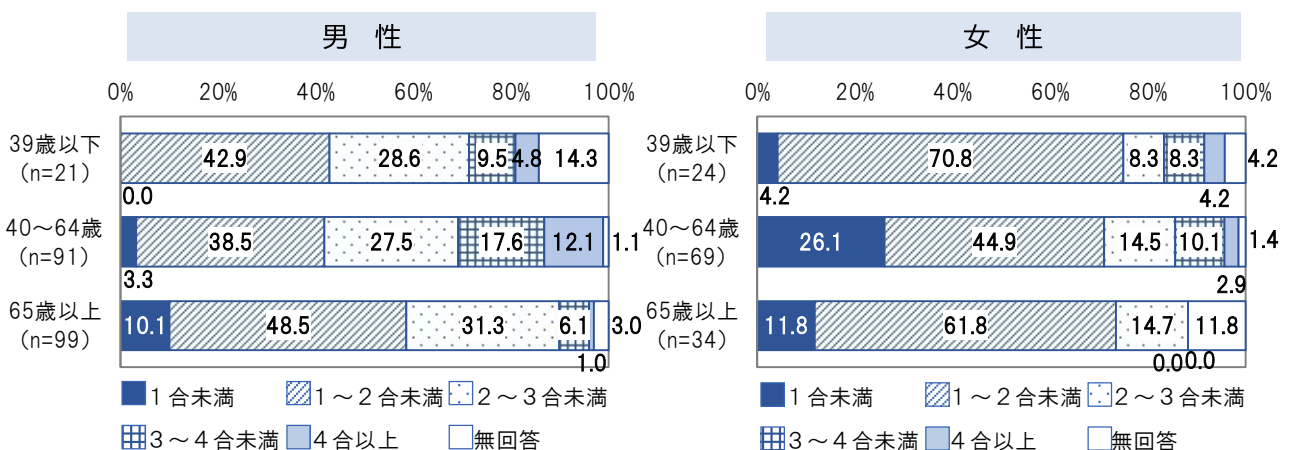
《性別》

- ・適量飲酒量を超える飲酒量である、男性で『2合以上』飲酒している人は46.5%、女性で『1合以上』飲酒している人は77.3%となっている。



《性・年代別》

- ・性・年代別にみると、男性で適量飲酒量を超える『2合以上』飲酒している人は40～64歳で最も多く、女性で『1合以上』飲酒している人は39歳以下で最も多くなっている。



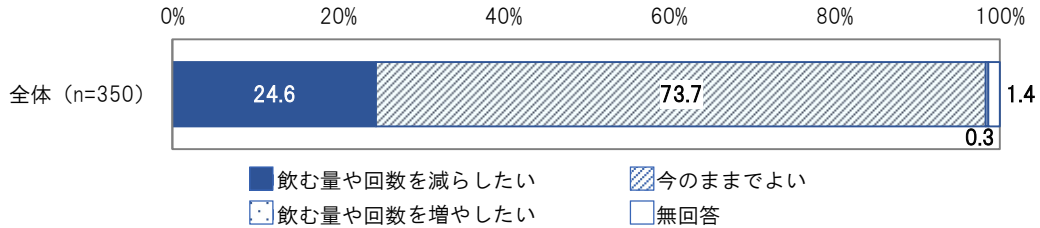
(1) -② 飲酒についての今後の意向

※ (1) で「ほぼ毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」のいずれかを回答した人のみ

問 58 で「ほぼ毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」と答えた方におたずねします。

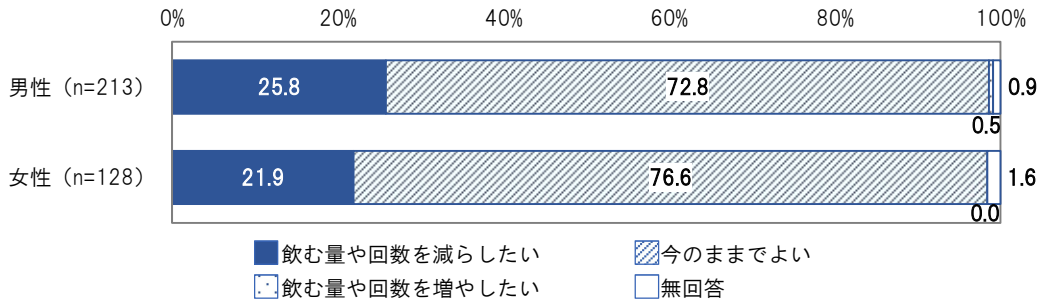
問 58-2 飲んでいるお酒の量について今後どうしたいと思いますか。(○は1つだけ)

- ・飲酒についての今後の意向は、「今のままでよい」が73.7%と7割を超えて最も高くなっている。
- ・「飲む量や回数を減らしたい」が24.6%と2割を超えている。



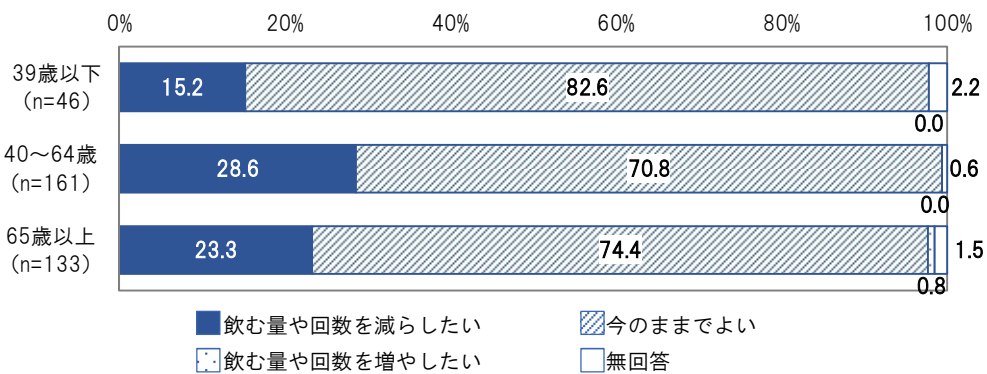
《性別》

- ・性別にみると、女性に比べて男性で「飲む量や回数を減らしたい」が高くなっている。



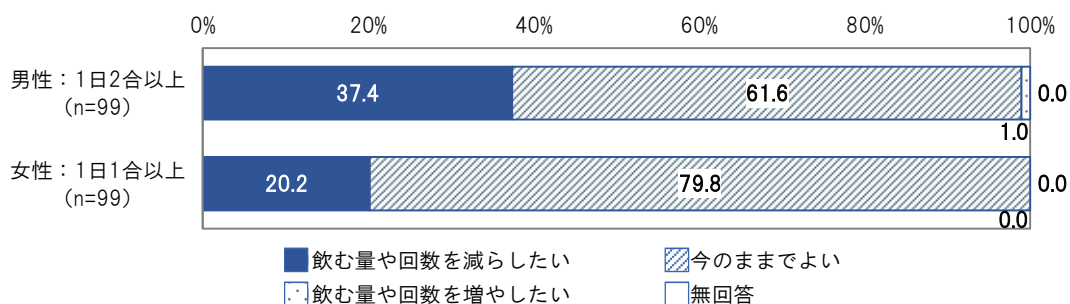
《年代別》

- ・年代別にみると、「飲む量や回数を減らしたい」が40～64歳で28.6%と3割近くを占めて最も高く、65歳以上で23.3%、39歳以下で15.2%の順になっている。



《多量飲酒者（男性1日2合以上、女性1日1合以上の飲酒者）の状況》

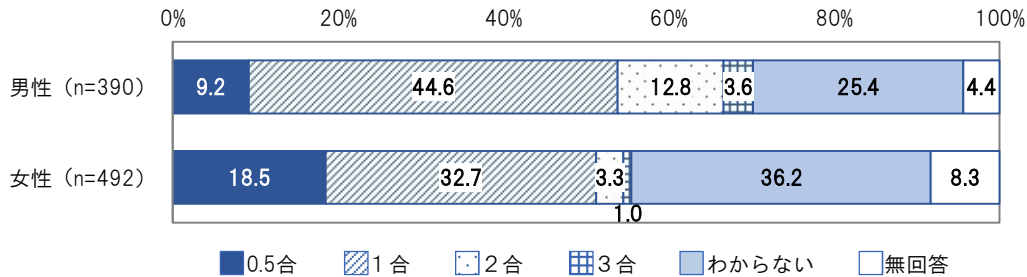
- ・多量飲酒者をみると、女性に比べて男性で「飲む量や回数を減らしたい」が高くなっている。



(2) 飲酒の適量の認知度

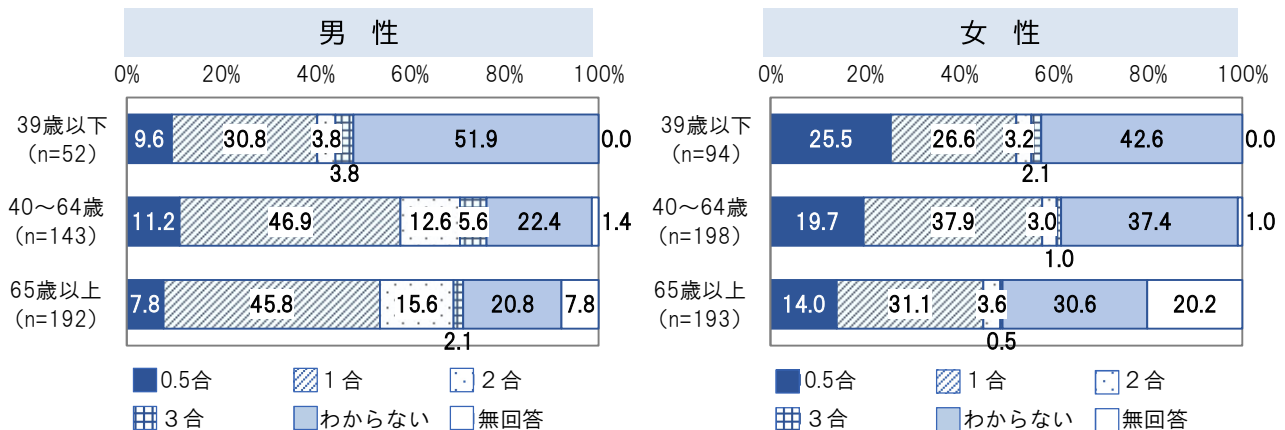
問 59 1日あたりの飲酒の適量は、日本酒でどのくらいだと思いますか。(〇は1つだけ)

- ・飲酒の適量の認知度は、性別にみると、女性に比べて男性で『2合以上』が高くなっている。
- ・また、女性では「わからない」が36.2%と3割を超え、男性に比べて高くなっている。
- ・男性の適正飲酒量（2合まで）の認知度は6割を超えているのに対し、女性の適正飲酒量（1合まで）の認知度は約半数となっている。



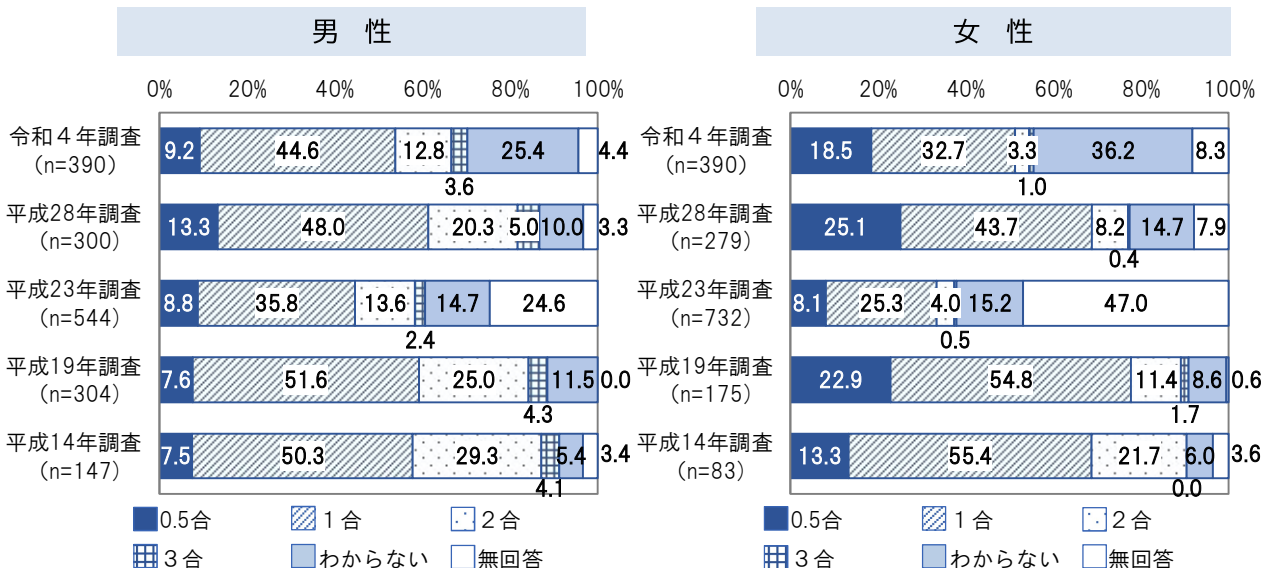
《性・年代別》

- ・性・年代別にみると、男性・女性ともに年代が下がるにつれて「わからない」が高くなる傾向がみられ、特に男性では39歳以下で半数を超えている。



《経年比較》

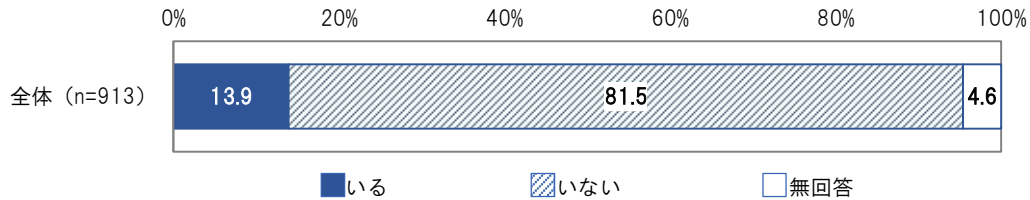
- ・性別に経年で比較すると、男性・女性ともに平成28年調査と比べて、適正飲酒量の認知度は低下している。



(3) 周囲で問題のある飲酒習慣がある人の有無

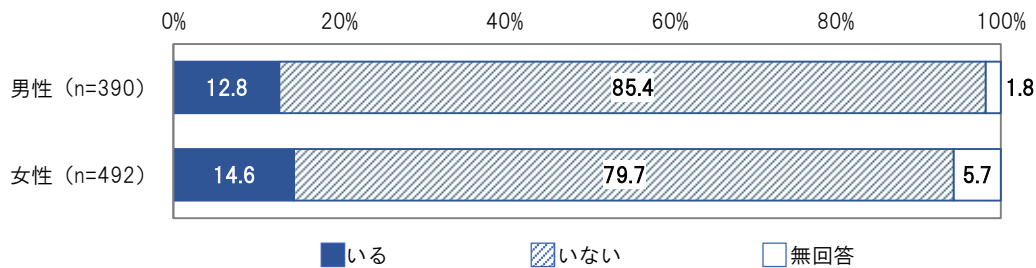
問 60 あなたの周囲に、問題のある飲酒習慣（健康を害している、生活に支障がある、周囲に迷惑をかけている等）がある人はいますか。（○は1つだけ）

- 周囲で問題のある飲酒習慣がある人の有無は、「いない」が81.5%と8割を超えており、「いる」は13.9%となっている。



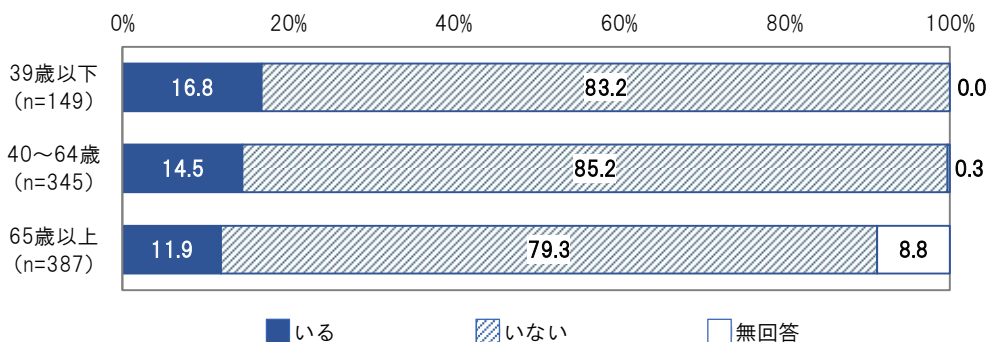
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で「いる」がやや高くなっているものの、大きな差異はみられない。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「いる」が高くなっており、39歳以下では16.8%となっている。

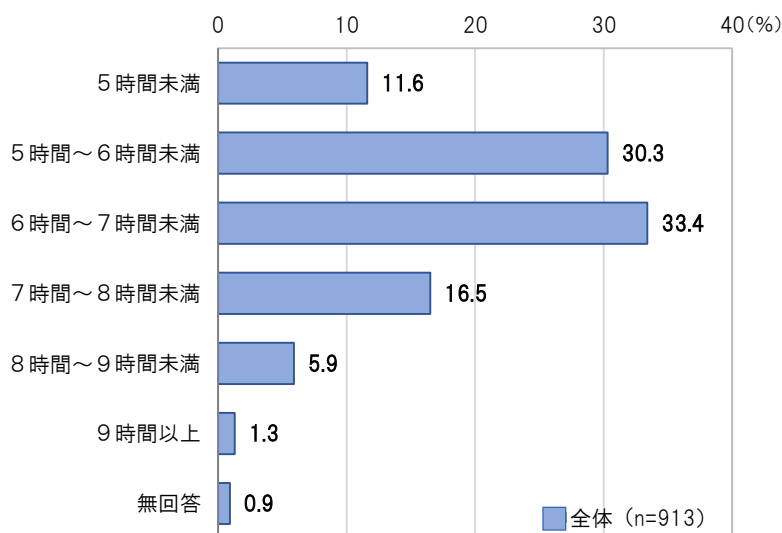


12. 休養・こころの健康について

(1) 1日の平均睡眠時間

問 61 1日の睡眠時間は平均してどのくらいですか。(○は1つだけ)

- 1日の平均睡眠時間は、「6時間～7時間未満」が33.4%と最も高く、次いで「5時間～6時間未満」(30.3%)、「7時間～8時間未満」(16.5%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。
- 年代別にみると、40～64歳では「5時間～6時間未満」、その他の年代では「6時間～7時間未満」が最も高くなっている。また、年代が上がるにつれて「5時間未満」が高くなっている。
- また、睡眠時間が十分に確保できている者として、59歳以下で『6時間～9時間未満』が53.2%、60歳以上で『6時間～8時間未満』が51.8%と、ともに半数以上を占めている。

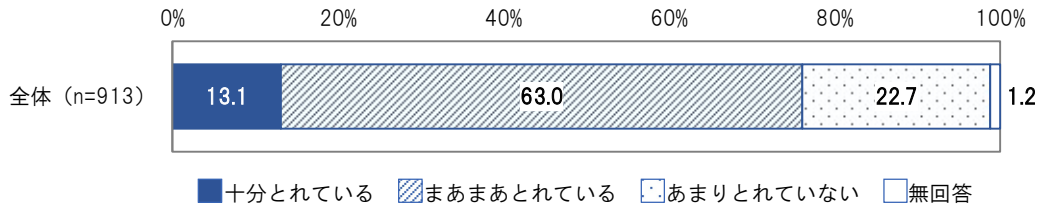
		回答者数(人)	5時間未満	5時間～6時間未満	6時間～7時間未満	7時間～8時間未満	8時間～9時間未満	9時間以上	無回答
性別	男性	390	12.8	28.7	33.1	17.4	6.7	1.3	-
	女性	492	10.8	31.1	33.9	16.3	5.5	1.4	1.0
年代別	39歳以下	149	8.7	28.2	38.9	16.8	3.4	2.7	1.3
	40～64歳	345	11.9	38.0	33.3	12.5	4.1	0.3	-
	65歳以上	387	12.7	23.5	32.3	20.7	8.5	1.8	0.5
	59歳以下	406	10.8	34.2	36.2	13.1	3.9	1.2	0.5
	60歳以上	475	12.4	26.3	31.8	20.0	7.6	1.5	0.4

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(2) 睡眠による休養の状況

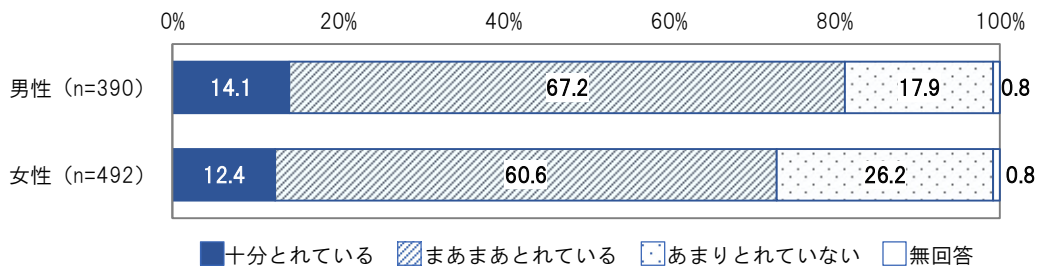
問 62 睡眠によって疲れがとれていますか。(○は1つだけ)

- 睡眠による休養の状況は、「まあまあとれている」が 63.0%と6割を超えて最も高く、「十分とれている」(13.1%) と合わせると、『とれている』が8割近くを占めている。
- 一方で、「あまりとれていない」が 22.7%と2割を超えている。



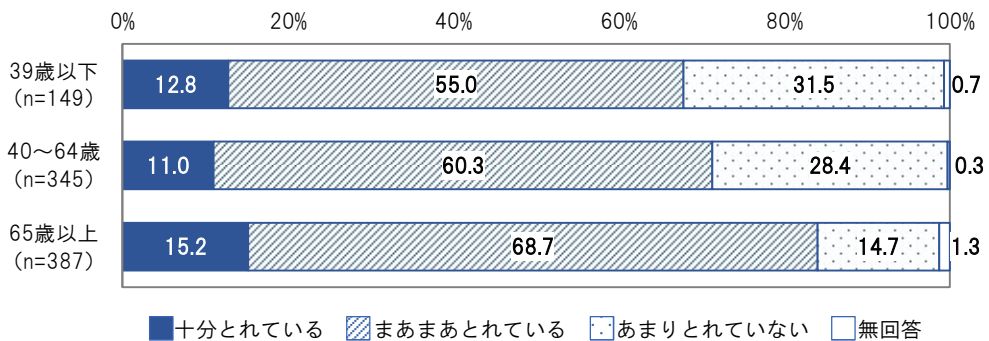
《性別》

- 性別にみると、女性では「あまりとれていない」が 26.2%と2割を超え、男性(17.9%)を10ポイント近く上回っている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が上がるにつれて『とれている』が高くなっており、65歳以上では8割を超えている。
- また、39歳以下では「あまりとれていない」が3割を超えている。

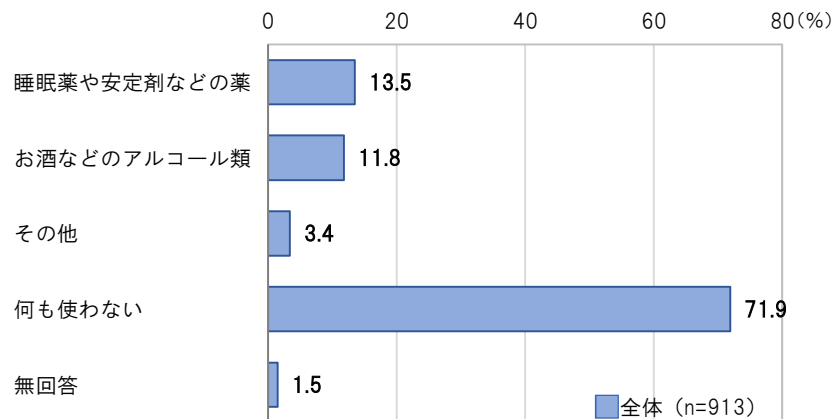


(3) 睡眠補助剤などの使用

問 63 睡眠を助けるため、次のようなものを使うことがありますか。

(○はあてはまるものすべて)

- 睡眠補助剤などの使用は、「何も使わない」が71.9%と7割を超えて最も高くなっている。
- 使っている人では、「睡眠薬や安定剤などの薬」が13.5%と高く、次いで「お酒などのアルコール類」が11.8%となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、「何も使わない」が女性では7割以上を占めているのに対し、男性では7割未満となっている。また、「お酒などのアルコール類」で男性が18.5%と2割近くを占め、女性(7.3%)を10ポイント以上上回っている。
- 年代別にみると、年代が上がるにつれて「睡眠薬や安定剤などの薬」が高くなっている。また、40～64歳では「お酒などのアルコール類」が17.4%と2割近くを占め、その他の年代に比べて高くなっている。

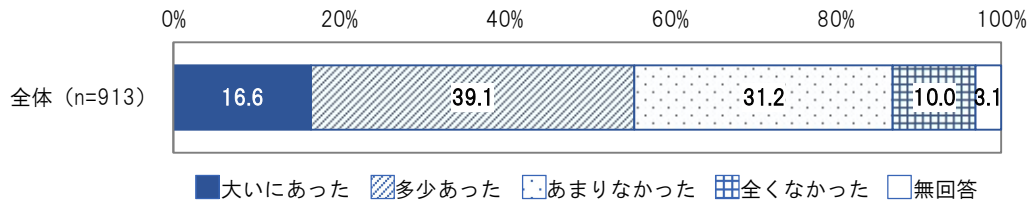
		回答者数 (人)	睡眠薬や安定剤などの薬 (%)	お酒などのアルコール類 (%)	その他 (%)	何も使わない (%)	無回答 (%)
性別	男性	390	12.6	18.5	3.1	67.4	1.5
	女性	492	14.0	7.3	3.7	75.6	0.6
年代別	39歳以下	149	4.7	9.4	5.4	81.2	0.7
	40～64歳	345	13.6	17.4	3.5	68.1	0.3
	65歳以上	387	16.3	8.8	2.6	72.1	1.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(4) この1か月間のストレスの程度

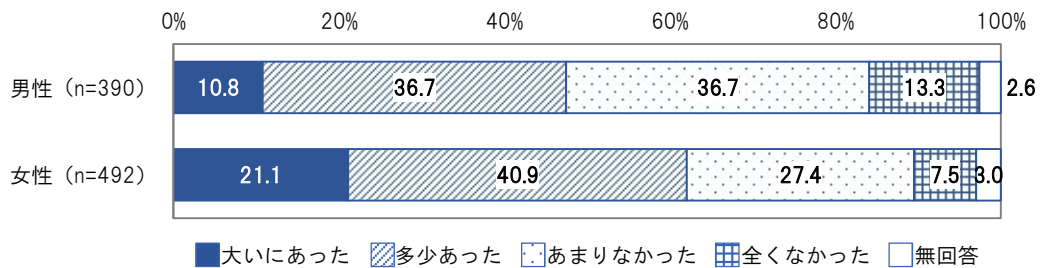
問 64 この1か月の間に、ストレスがどの程度ありましたか。(○は1つだけ)

- この1か月間のストレスの程度は、「多少あった」が39.1%と約4割を占めて最も高く、「大いにあった」(16.6%)と合わせると、『あった』が半数を超えている。
- 一方で、「あまりなかった」(31.2%)と「全くなかった」(10.0%)を合わせた『なかった』は4割程度となっている。



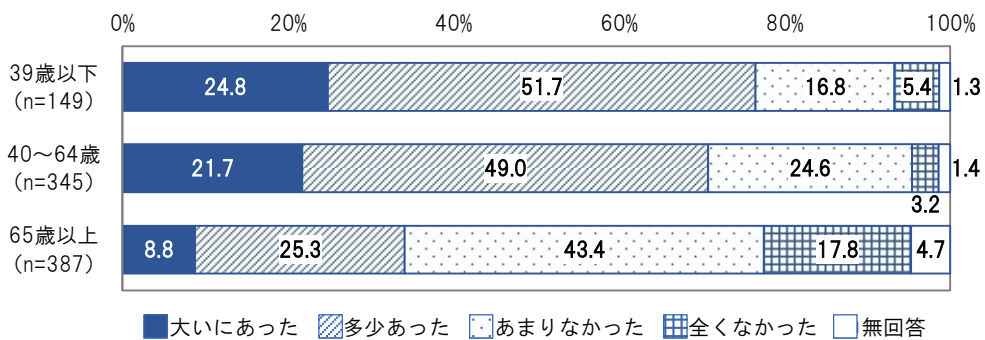
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で『あった』が高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて『あった』が高くなっており、39歳以下では76.5%と8割近くを占めている。



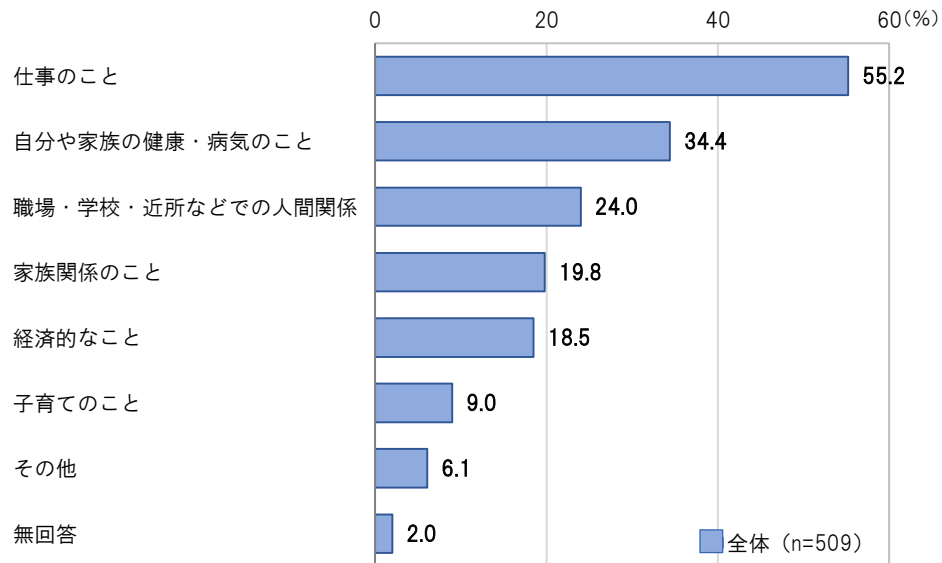
(4) -① ストレスの原因

※ (4) で「大いにあった」または「多少あった」と回答した人のみ

問 64 で「大いにあった」「多少あった」と答えた方におたずねします。

問 64-1 そのストレスは、何が原因だと思われますか。(○はあてはまるものすべて)

- ・ストレスの原因は、「仕事のこと」が 55.2%と半数を超えて最も高く、次いで「自分や家族の健康・病気のこと」(34.4%)、「職場・学校・近所などでの人間関係」(24.0%)、「家族関係のこと」(19.8%)、「経済的なこと」(18.5%)の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、男性では「仕事のこと」で女性に比べて高く、女性では「自分や家族の健康・病気のこと」や「職場・学校・近所などでの人間関係」、「家族関係のこと」などで男性に比べて高くなっている。
- ・年代別にみると、64歳以下では「仕事のこと」、65歳以上では「自分や家族の健康・病気のこと」が最も高くなっている。
- ・また、概ね年代が下がるにつれて「仕事のこと」や「職場・学校・近所などでの人間関係」、「子育てのこと」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「自分や家族の健康・病気のこと」や「家族関係のこと」などの回答が高くなる傾向がみられる。

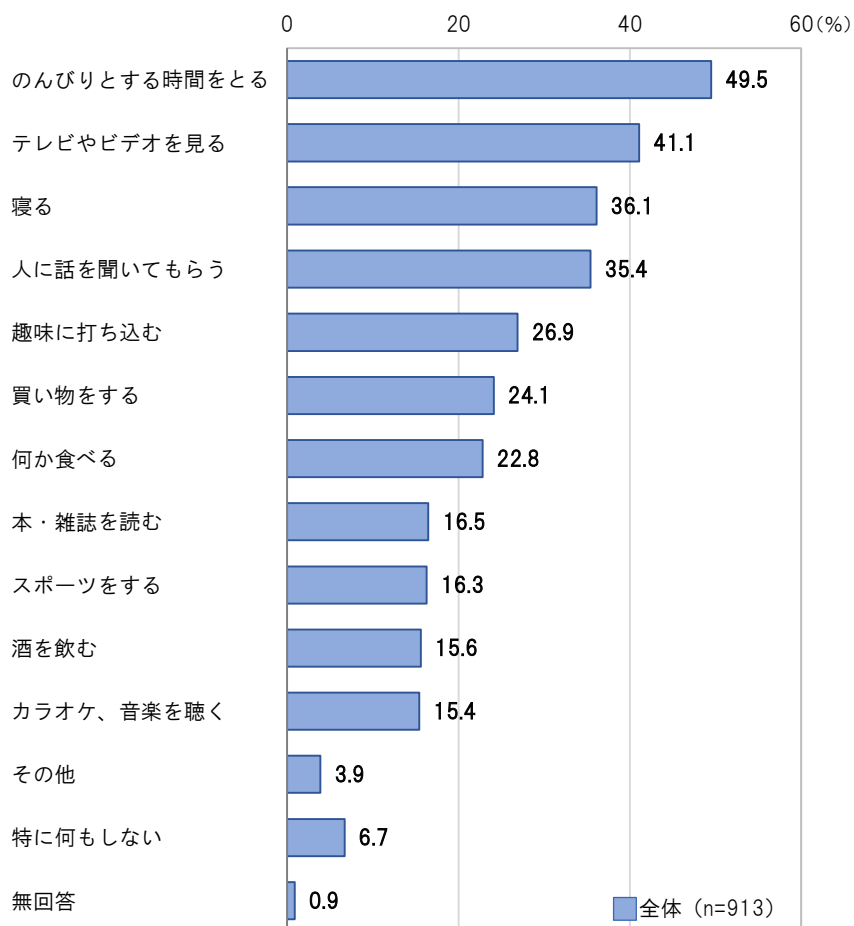
		回答者数 (人)	仕事のこと	自分や家族の健康・病気のこと	職場・学校・近所などでの人間関係	家族関係のこと	経済的なこと	子育てのこと	その他	無回答
性別	男性	185	66.5	28.6	18.4	13.5	18.9	5.4	4.9	2.2
	女性	305	50.8	36.7	27.5	23.6	17.7	10.2	6.6	2.0
年代別	39歳以下	114	70.2	21.1	28.1	13.2	23.7	17.5	4.4	-
	40～64歳	244	67.2	29.1	29.1	20.9	15.6	7.8	4.5	1.6
	65歳以上	132	24.2	53.0	9.8	23.5	16.7	1.5	9.8	4.5

※ 1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) ストレスを解消するためにとる方法

問 65 ストレスを解消するためにどの方法をとりますか。(〇はあてはまるものすべて)

- ストレスを解消するためにとる方法では、「のんびりとする時間をとる」が49.5%と約半数を占めて最も高く、次いで「テレビやビデオを見る」(41.1%)、「寝る」(36.1%)、「人に話を聞いてもらう」(35.4%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「趣味に打ち込む」や「スポーツをする」、「酒を飲む」などで女性に比べて高く、女性では「人に話を聞いてもらう」や「買い物をする」、「何か食べる」などで男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「のんびりとする時間をとる」や「寝る」、「人に話を聞いてもらう」、「趣味に打ち込む」、「買い物をする」、「何か食べる」などの回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「本・雑誌を読む」などの回答が高くなる傾向がみられる。
- また、40～64歳では「酒を飲む」が2割を超え、その他の年代に比べてやや高くなっている。

(%)

		回答者数(人)	のんびりとする時間をとる	テレビやビデオを見る	寝る	人に話を聞いてもらう	趣味に打ち込む	買い物をする	何か食べる
性別	男性	390	49.5	39.7	37.9	19.0	31.5	13.3	14.4
	女性	492	49.4	42.7	35.0	48.8	23.4	32.5	29.9
年代別	39歳以下	149	57.7	43.0	53.0	46.3	39.6	32.2	41.6
	40～64歳	345	52.5	38.8	42.0	37.7	25.8	24.6	29.3
	65歳以上	387	44.2	43.7	24.5	29.7	23.8	19.9	10.6

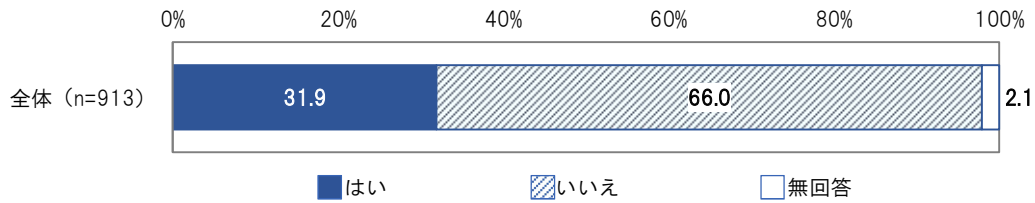
		本・雑誌を読む	スポーツをする	酒を飲む	カラオケ、音楽を聴く	その他	特に何もしない	無回答
(つづき)								
性別	男性	14.6	20.0	22.6	14.4	4.4	8.2	-
	女性	18.5	13.6	10.6	16.1	3.9	5.3	0.8
年代別	39歳以下	9.4	16.1	17.4	23.5	2.7	2.0	-
	40～64歳	17.7	16.2	22.6	15.9	4.3	3.2	-
	65歳以上	19.4	17.1	9.3	12.1	4.4	10.9	0.8

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(6) この1年以内でこころの不調を感じたこと

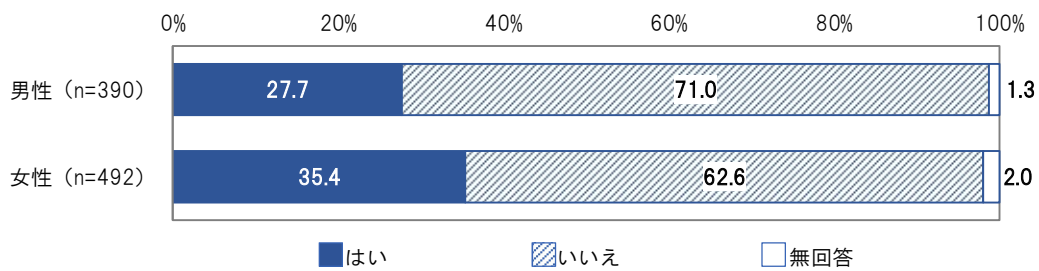
問 66 ①最近1年以内で、こころの不調を感じたことがありますか。(○は1つだけ)

・この1年以内でこころの不調を感じたことは、「はい(あった)」が31.9%と3割を超えている。



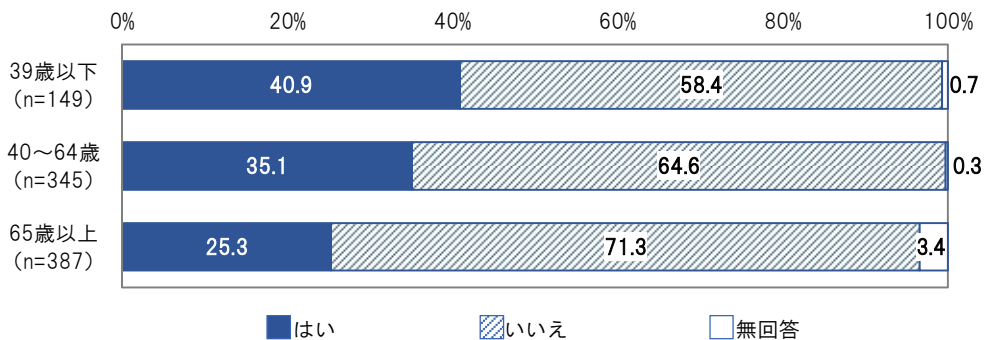
《性別》

・性別にみると、男性に比べて女性で「はい(あった)」が高くなっている。



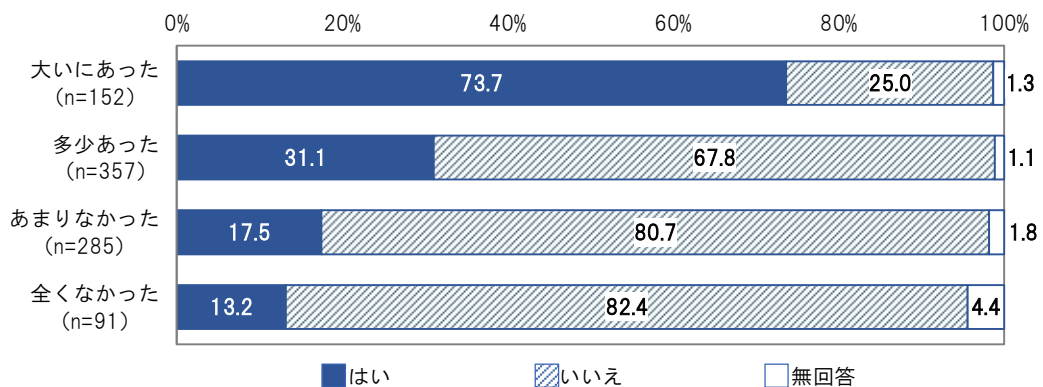
《年代別》

・年代別にみると、年代が下がるにつれて「はい(あった)」が高くなっており、39歳以下では40.9%と約4割を占めている。



《ストレスの程度別》

・ストレスの程度別にみると、ストレスの程度が多くなるにつれて「はい(あった)」が高くなる傾向がみられ、大いにあった層では7割を超えている。

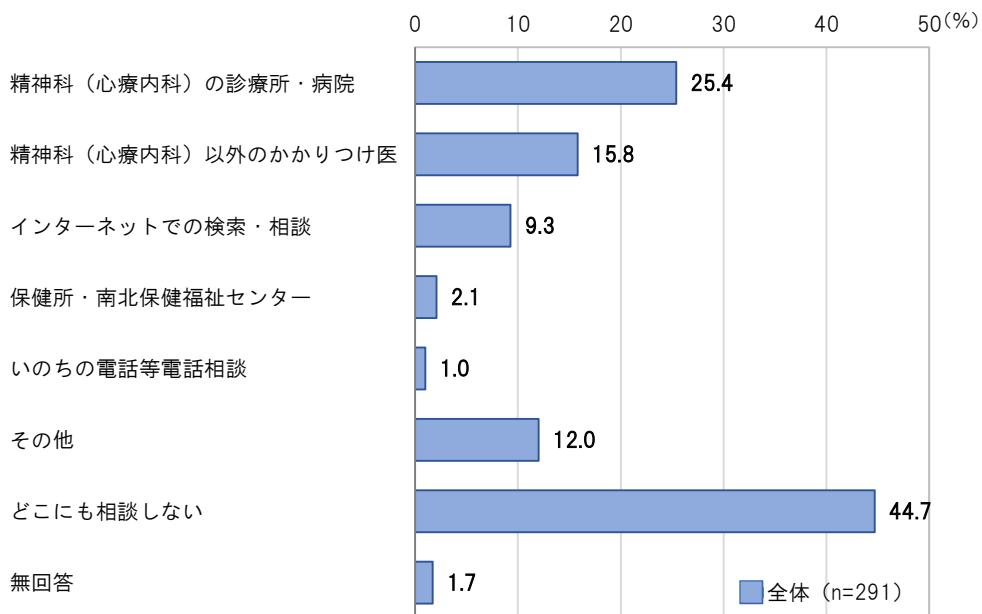


(6) -① こころの不調を感じたときの相談先

※ (6) で「はい (あった)」と回答した人のみ

問 66 ②こころの不調を感じたとき、どこに相談しようと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

- こころの不調を感じたときの相談先は、「どこにも相談しない」が 44.7%と 4割を超えて最も高くなっている。
- 相談する人では、「精神科 (心療内科) の診療所・病院」が 25.4%と 2割を超えて高く、次いで「精神科 (心療内科) 以外のかかりつけ医」(15.8%)、「インターネットでの検索・相談」(9.3%) の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、大きな差異はみられない。
- 年代別にみると、64 歳以下では「どこにも相談しない」、65 歳以上では「精神科 (心療内科) 以外のかかりつけ医」が最も高くなっている。
- また、年代が下がるにつれて「インターネットでの検索・相談」が高くなる傾向がみられる。

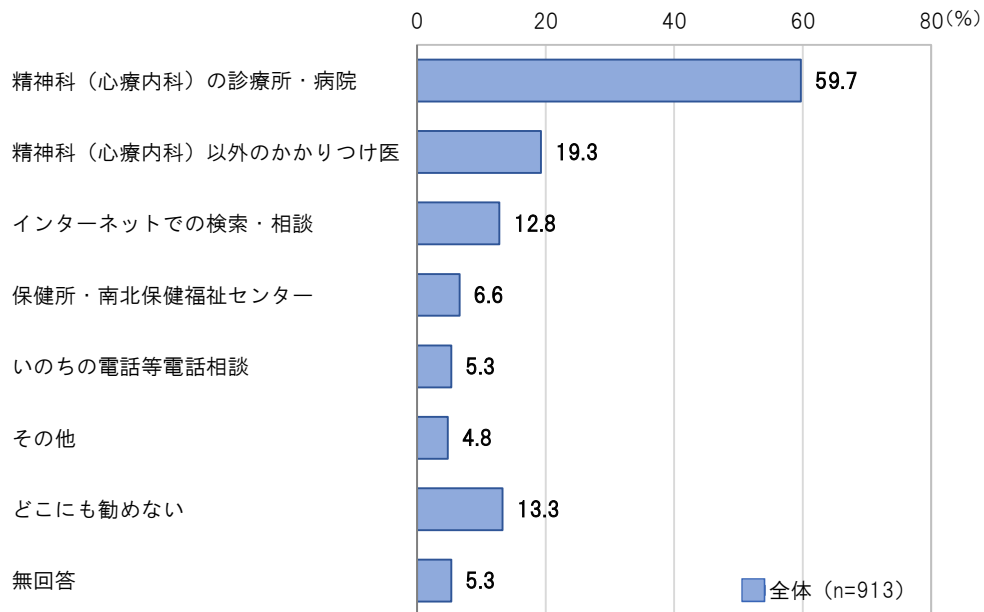
		回答者数 (人)	精神科 (心療内科) の診療所・病院	精神科 (心療内科) 以外のかかりつけ医	インターネットでの検索・相談	保健所・南北保健福祉センター	いのちの電話等電話相談	その他	どこにも相談しない	無回答
性別	男性	108	25.9	14.8	7.4	2.8	0.9	5.6	47.2	1.9
	女性	174	24.1	16.1	9.8	1.7	1.1	15.5	44.3	1.7
年代別	39歳以下	61	21.3	3.3	18.0	1.6	3.3	13.1	52.5	-
	40~64歳	121	28.1	7.4	9.9	1.7	0.8	12.4	51.2	0.8
	65歳以上	98	23.5	32.7	3.1	3.1	-	11.2	31.6	4.1

※ 1 番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2 番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(7) 身近な人のこころの不調に気づいたときに勧める相談先

問 67 ご家族や身近な人のこころの不調に気づいたとき、どこに相談することを勧めますか。
(○はあてはまるものすべて)

- 身近な人のこころの不調に気づいたときに勧める相談先は、「精神科(心療内科)の診療所・病院」が59.7%と約6割を占めて最も高く、次いで「精神科(心療内科)以外のかかりつけ医」(19.3%)、「インターネットでの検索・相談」(12.8%)の順となっている。
- (6)-①と比較すると、身近な人には相談機関を勧める人が多いことがわかる。



《性別・年代別》

- 性別にみると、女性では「精神科(心療内科)の診療所・病院」で男性に比べてやや高くなっている。
- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「精神科(心療内科)の診療所・病院」や「インターネットでの検索・相談」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「精神科(心療内科)以外のかかりつけ医」の回答が高くなる傾向がみられる。

		回答者数(人)	精神科(心療内科)の診療所・病院	精神科(心療内科)以外のかかりつけ医	インターネットでの検索・相談	保健所・南北保健福祉センター	いのちの電話等電話相談	その他	どこにも勧めない	無回答
性別	男性	390	55.1	19.5	14.1	8.5	5.4	3.8	15.1	3.6
	女性	492	64.4	19.5	12.4	5.3	5.3	5.3	11.2	5.5
年代別	39歳以下	149	67.1	12.8	21.5	2.7	5.4	3.4	14.8	0.7
	40~64歳	345	65.2	20.3	13.3	7.2	6.4	5.2	11.6	1.2
	65歳以上	387	53.2	21.7	9.8	7.8	4.4	4.4	13.7	9.0

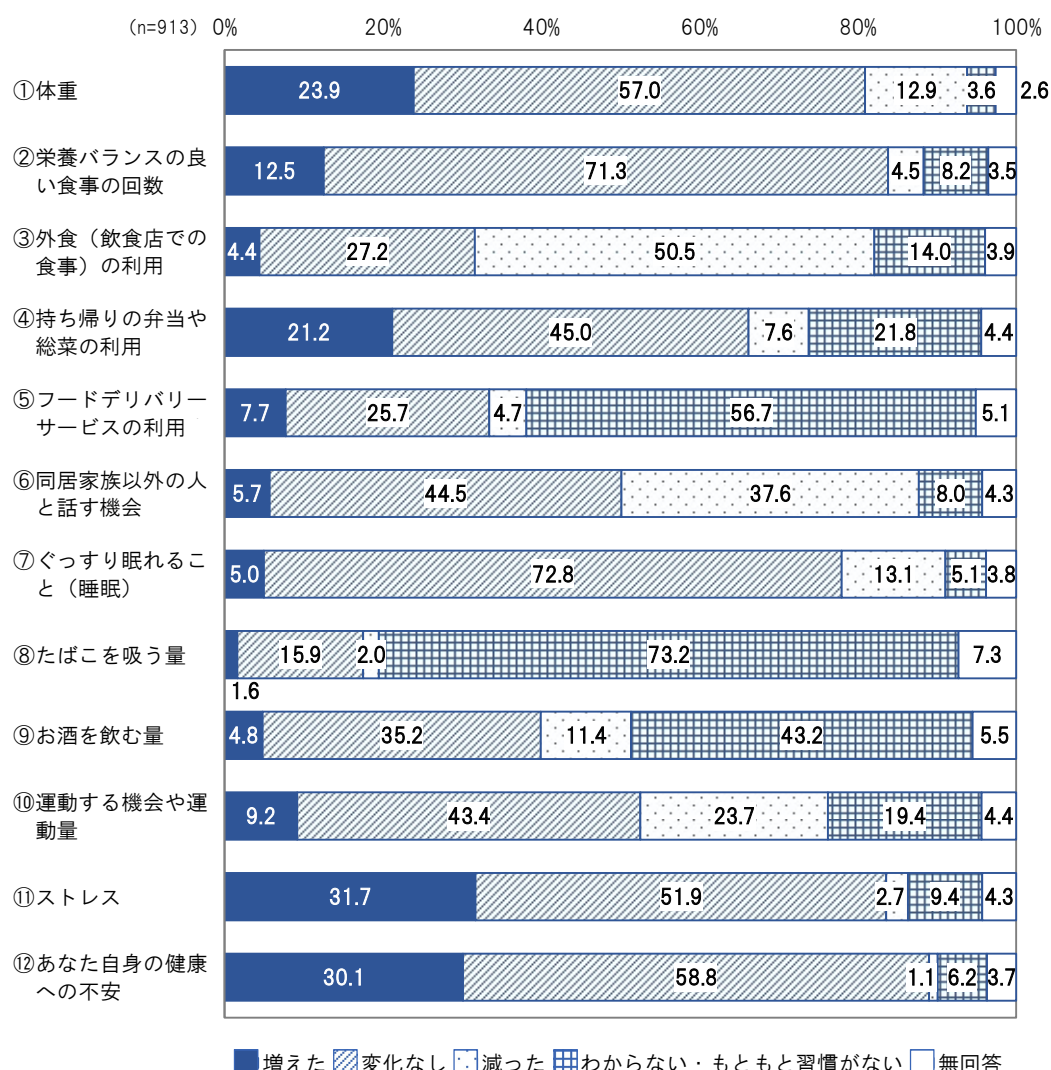
※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

13. 新型コロナウイルス感染症による変化や行政に望むことなどについて

(1) 新型コロナウイルス感染症による変化

問 68 新型コロナウイルス感染症が流行し始めたころ（2020年2月頃）と現在を比べて、あなたの生活や健康に関する行動や体調等に変化はありましたか。
 (①～⑫の項目ごとに、○はそれぞれ1つずつ)

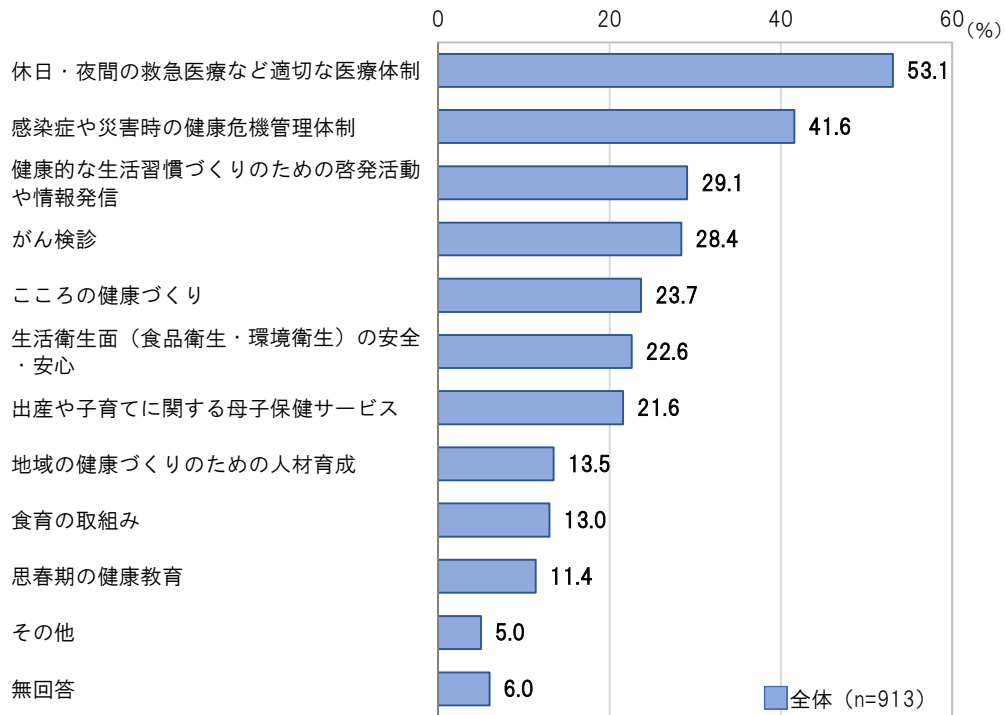
- 新型コロナウイルス感染症による変化について、「増えた」の割合では、“⑪ストレス”が31.7%と最も高く、次いで“⑫自身の健康への不安”（30.1%）、“①体重”（23.9%）、“④持ち帰りの弁当や総菜の利用”（21.2%）の順となっている。
- 「減った」の割合では、“③外食（飲食店での食事）の利用”が50.5%と約半数を占めて最も高く、次いで“⑥同居家族以外の人と話す機会”（37.6%）、“⑩運動する機会や運動量”（23.7%）の順となっている。



(2) 保健所や南北保健福祉センターの事業等で今後充実してほしいこと

問 69 保健所や南北保健福祉センターの事業等について、今後、充実してほしいことは何ですか。(○はあてはまるものすべて)

- ・保健所や南北保健福祉センターの事業等で今後充実してほしいことは、「休日・夜間の救急医療など適切な医療体制」が 53.1%と半数を超えて最も高く、次いで「感染症や災害時の健康危機管理体制」(41.6%)、「健康的な生活習慣づくりのための啓発活動や情報発信」(29.1%)、「がん検診」(28.4%) の順となっている。



《性別・年代別》

- ・性別にみると、大きな差異はみられない。
- ・年代別にみると、39歳以下では「出産や子育てに関する母子保健サービス」、40歳以上では「休日・夜間の救急医療など適切な医療体制」が最も高くなっている。また、年代が上がるにつれて「感染症や災害時の健康危機管理体制」や「健康的な生活習慣づくりのための啓発活動や情報発信」、「地域の健康づくりのための人材育成」などの回答が高くなる傾向がみられる。

		回答者数 (人)	休日・夜間の救急医療など適切な医療体制	感染症や災害時の健康危機管理体制	健康的な生活習慣づくりのための啓発活動や情報発信	がん検診	こころの健康づくり	生活衛生面(食品衛生・環境衛生)の安全・安心	生活衛生面(食品衛生・環境衛生)の安全・安心	出産や子育てに関する母子保健サービス	地域の健康づくりのための人材育成	食育の取組み	思春期の健康教育	その他	無回答
性別	男性	390	52.8	39.5	32.6	28.2	22.1	21.8	20.0	13.6	12.1	10.0	5.1	4.1	
	女性	492	55.5	45.3	27.8	29.5	26.0	23.8	23.4	13.8	14.4	12.8	4.7	4.7	
年代別	39歳以下	149	44.3	27.5	18.8	34.9	22.1	22.1	49.0	6.0	12.8	18.1	5.4	0.7	
	40～64歳	345	60.6	43.8	26.7	32.5	27.8	20.6	19.1	12.8	12.8	12.5	5.8	1.7	
	65歳以上	387	53.0	47.3	37.2	23.5	22.2	25.8	14.5	17.3	14.2	8.8	3.9	8.0	

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

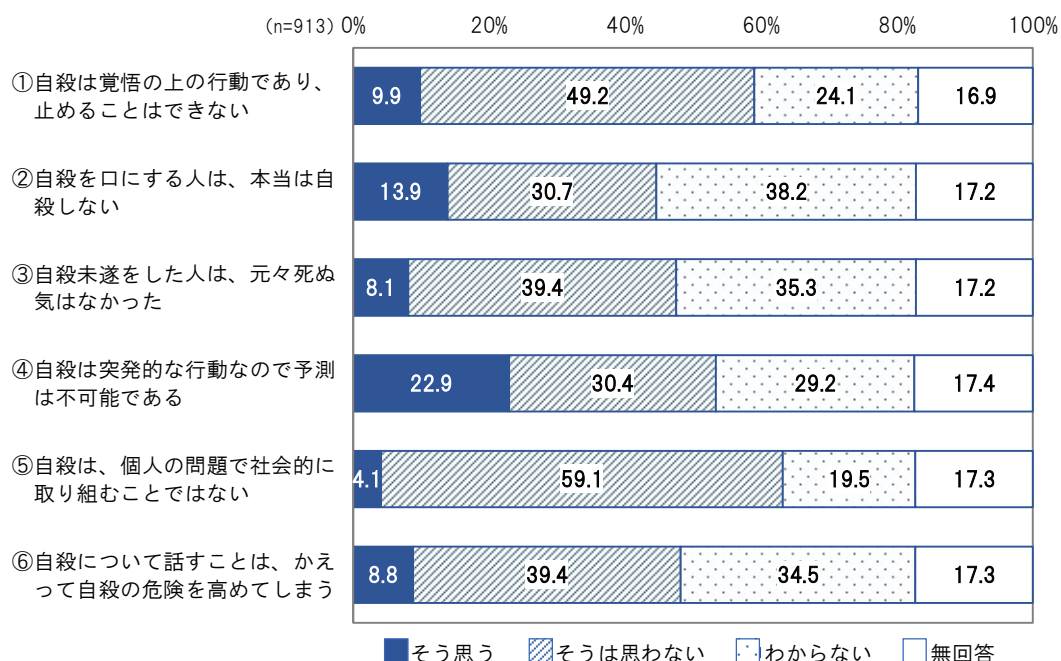
14. 自殺対策について

(1) 自殺等に対する考え

問 70 次の①～⑥の項目について、あなたの考えに最も近いものをお答えください。

(○はそれぞれ1つずつ)

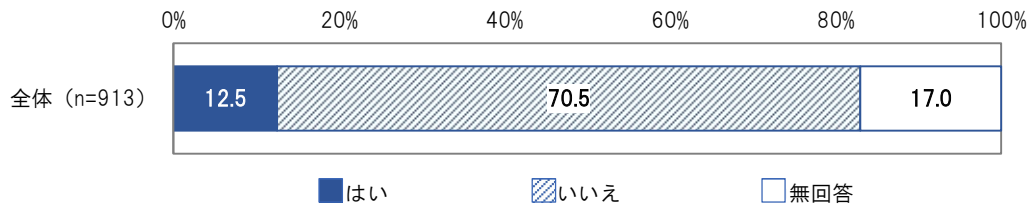
- 自殺等に対する考えについて、「そう思う」の割合では、“④自殺は突発的な行動なので予測は不可能である”が22.9%と2割を超えて最も高く、次いで“②自殺を口にする人は、本当は自殺しない”（13.9%）の順となっている。
- 「そうは思わない」の割合では、“⑤自殺は、個人の問題で社会的に取り組むことではない”が59.1%と約6割を占めて最も高く、次いで“①自殺は覚悟の上の行動であり、止めることはできない”（49.2%）、“③自殺未遂をした人は、元々死ぬ気はなかった”および“⑥自殺について話すことは、かえって自殺の危険を高めてしまう”（39.4%）の順となっている。



(2) これまでに本気で自殺したいと考えたこと

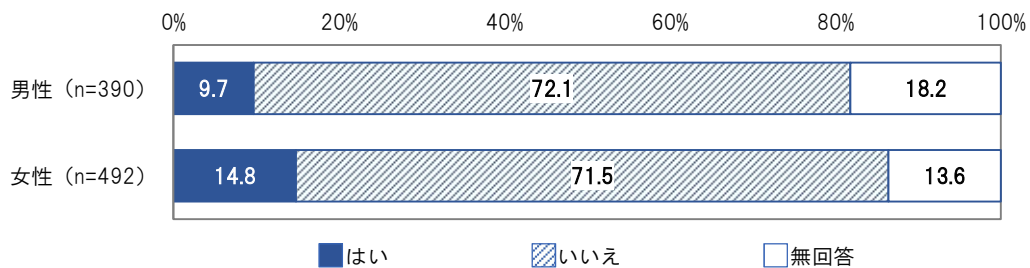
問 71 これまでに、本気で自殺したいと考えたことはありますか。(○は1つだけ)

- これまでに本気で自殺したいと考えたことは、「いいえ (なかった)」が 70.5%と約7割を占めており、「はい (あった)」は 12.5%となっている。



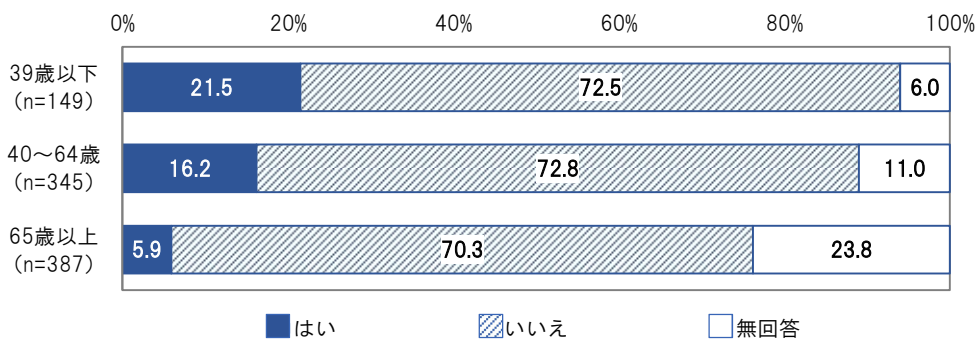
《性別》

- 性別にみると、男性に比べて女性で「はい (あった)」がやや高くなっている。



《年代別》

- 年代別にみると、年代が下がるにつれて「はい (あった)」が高くなっており、39 歳以下では 21.5%と2割を超えている。



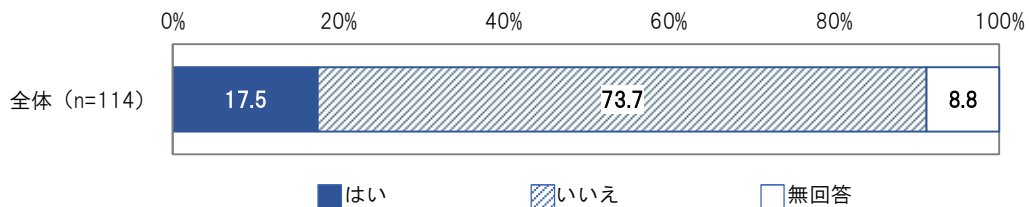
(2) -① 最近1年間で自殺したいと考えたことの有無

※ (2) で「はい (あった)」と回答した人のみ

問 71 で「はい」と答えた方におたずねします。

問 71-1 自殺を考えたのは、最近1年以内のことですか。(○は1つだけ)

- 最近1年間で自殺したいと考えたことは、「いいえ (なかった)」が73.7%と7割を超えており、「はい (あった)」は17.5%となっている。



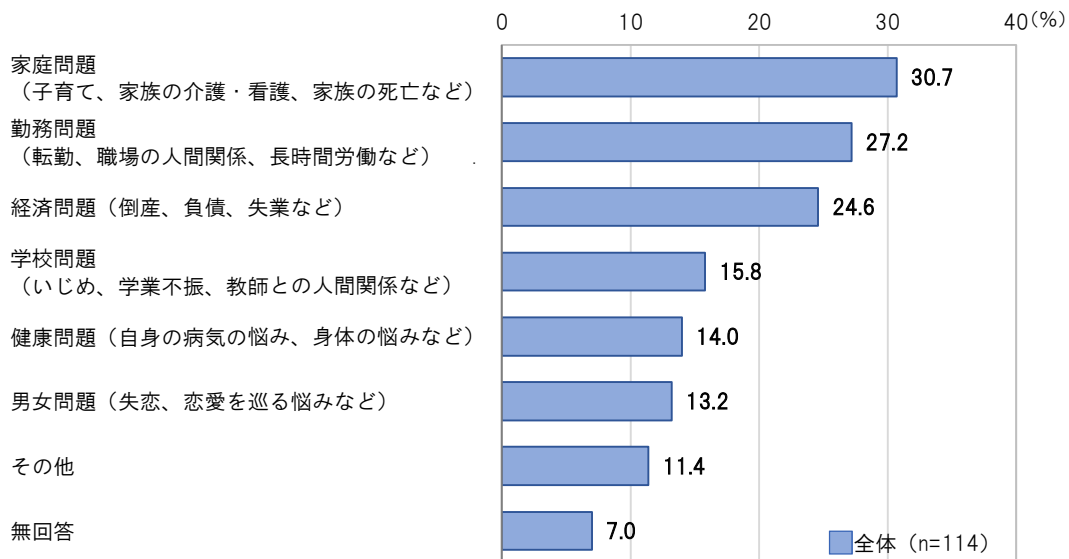
(2) -② 自殺したいと思った理由

※ (2) で「はい (あった)」と回答した人のみ

問 71 で「はい」と答えた方におたずねします。

問 71-2 自殺したいと思った理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

- 自殺したいと思った理由では、「家庭問題」が30.7%と約3割を占めて最も高く、次いで「勤務問題」(27.2%)、「経済問題」(24.6%)の順となっている。



(2) -③ 自殺を思いとどまった要因

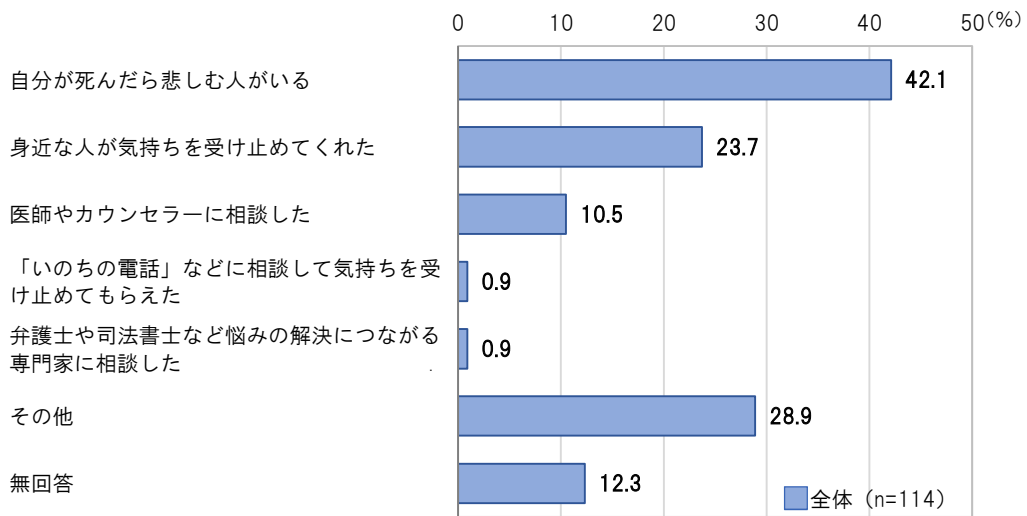
※ (2) で「はい (あった)」と回答した人のみ

問 71 で「はい」と答えた方におたずねします。

問 71-3 自殺を思いとどまった (とどまっている) 要因は何ですか。

(○はあてはまるものすべて)

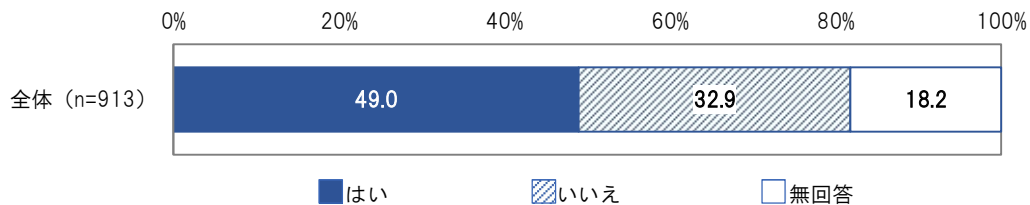
- 自殺を思いとどまった要因では、「自分が死んだら悲しむ人がいる」が 42.1%と 4 割を超えて最も高く、次いで「身近な人が気持ちを受け止めてくれた」(23.7%)、「医師やカウンセラーに相談した」(10.5%) の順となっている。



(3) 自殺したいと思うほどの悩みを抱えたときの相談

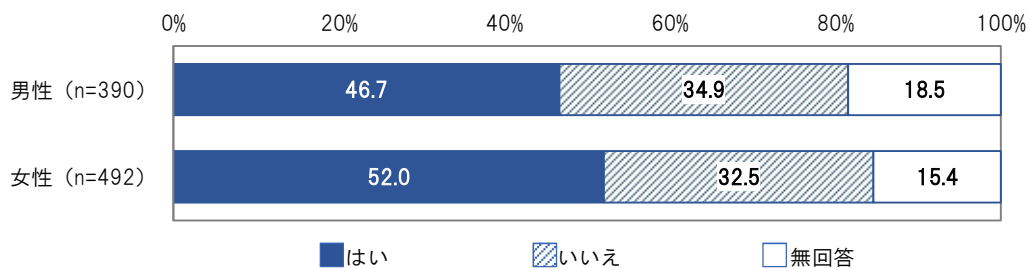
問 72 あなたは「自殺したい」と思うほどの悩みを抱えたとき、誰かに相談しますか。
(○は1つだけ)

- ・自殺したいと思うほどの悩みを抱えたときの相談は、「はい（相談する）」が 49.0%と約半数を占めているものの、「いいえ（相談しない）」が 32.9%と3割を超えている。



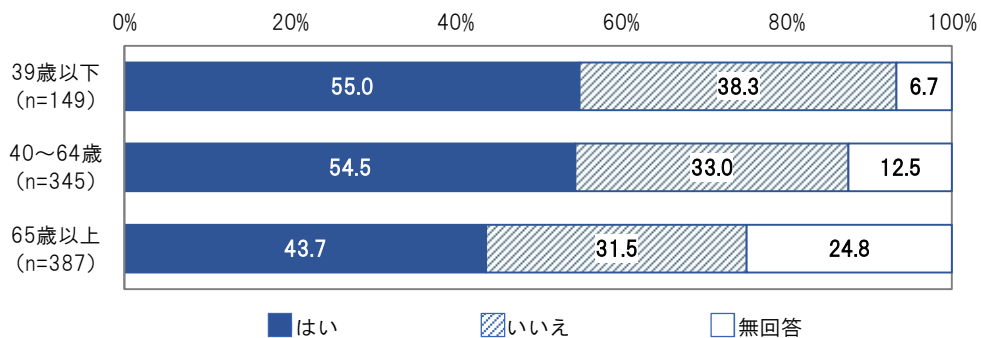
《性別》

- ・性別にみると、男性に比べて女性で「はい（相談する）」がやや高くなっている。



《年代別》

- ・年代別にみると、年代が下がるにつれて「はい（相談する）」が高くなっており、64歳以下では半数を超えている。

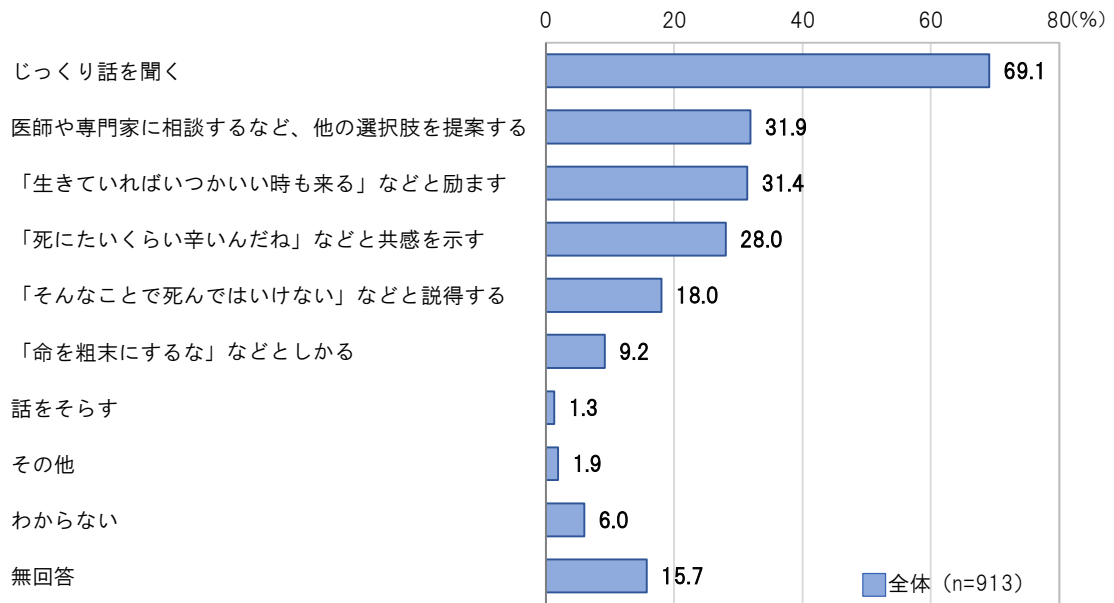


(4) 身近な人に死にたい気持ちを打ち明けられた時の対応

問 73 あなたは、身近な人に死にたい気持ちを打ち明けられたら、どうしますか。

(○はあてはまるものすべて)

- 身近な人に死にたい気持ちを打ち明けられた時は、「じっくり話を聞く」が69.1%と約7割を占めて最も高く、次いで「医師や専門家に相談するなど、他の選択肢を提案する」(31.9%)、「生きていればいつかいい時も来るなどと励ます」(31.4%)、「死にたいくらい辛いんだねなどと共感を示す」(28.0%)の順となっている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「そんなことで死んではいけないなどと説得する」で女性に比べてやや高く、女性では「じっくり話を聞く」や「死にたいくらい辛いんだねなどと共感を示す」などで男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、概ね年代が下がるにつれて「じっくり話を聞く」や「死にたいくらい辛いんだねなどと共感を示す」の回答が高くなる傾向がみられ、年代が上がるにつれて「生きていればいつかいい時も来るなどと励ます」や「そんなことで死んではいけないなどと説得する」、「命を粗末にするななどとしかる」などの回答が高くなる傾向がみられる。

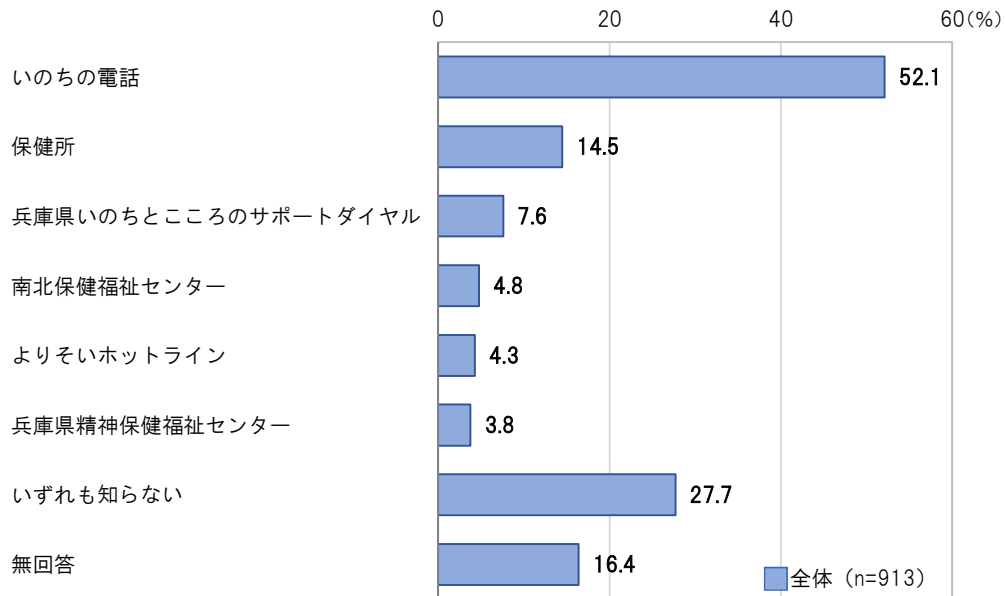
		回答者数 (人)	じっくり話を聞く	医師や専門家に相談するなど、他の選択肢を提案する	生きていればいつかいい時も来るなどと励ます	「死にたいくらい辛いんだね」などと共感を示す	「そんなことで死んではいけない」などと説得する	「命を粗末にするな」などとしかる	話をそらす	その他	わからない	無回答
性別	男性	390	66.9	29.5	31.8	24.6	21.0	11.8	1.5	1.0	6.2	16.4
	女性	492	73.6	35.0	32.5	31.7	16.1	7.5	1.0	2.2	6.1	12.4
年代別	39歳以下	149	82.6	33.6	20.8	37.6	10.1	2.0	2.0	2.0	4.0	5.4
	40～64歳	345	77.7	37.1	31.3	32.8	15.7	7.5	1.4	2.3	4.9	10.4
	65歳以上	387	59.2	28.2	37.7	21.4	23.8	13.7	0.8	1.3	8.0	21.2

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。

(5) 相談先の認知度

問 74 あなたは、次の相談先を知っていますか。(○はあてはまるものすべて)

- 相談先の認知度は、「いのちの電話」が52.1%と半数を超えて最も高く、次いで「保健所」(14.5%)、「兵庫県いのちとこころのサポートダイヤル」(7.6%)の順となっている。
- また、「いずれも知らない」が27.7%と3割近くを占めている。



《性別・年代別》

- 性別にみると、男性では「いずれも知らない」が女性に比べてやや高く、女性では「いのちの電話」で男性に比べて高くなっている。
- 年代別にみると、64歳以下で「いのちの電話」が6割を超え、65歳以上に比べて高くなっている。
- また、「兵庫県いのちとこころのサポートダイヤル」、「南北保健福祉センター」、「よりそいホットライン」、「兵庫県精神保健福祉センター」は、すべての年代で1割未満の認知度となっている。

		回答者数 (人)	いのちの電話	保健所	兵庫県いのちとこころのサポートダイヤル	南北保健福祉センター	よりそいホットライン	兵庫県精神保健福祉センター	いずれも知らない	無回答
性別	男性	390	46.4	15.1	7.4	3.6	3.8	3.3	31.0	16.7
	女性	492	58.5	14.2	7.9	5.9	4.7	4.5	26.0	13.2
年代別	39歳以下	149	62.4	14.8	8.1	2.0	6.0	2.0	29.5	5.4
	40～64歳	345	66.7	17.7	7.8	7.5	4.3	5.2	19.1	10.7
	65歳以上	387	37.7	11.9	7.8	3.6	3.9	3.6	35.9	22.0

※1番目に割合の高い回答を「太字+濃い網掛け」とし、2番目に割合の高い回答を「薄い網掛け」としている。